

技術調査の確認リスト【総括表】

項目		確認結果(○・△・×)	所見
1.「テーマ別の計画提案」に示した項目			
①臨場感あふれる観覧席に関する考え方	可動客席等に関すること	○	図面から判断するに、問題はない。 可動席方式:不明
②観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセス及び入退場動線処理に関する考え方	アクセス及び入退場動線に関すること	○	
③ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方	音響環境に関すること	△	近隣対策上側面閉塞の検討が必要。
	ホスピタリティ機能等、事業計画に関すること	○	提案有り、40室のVIPルーム+ケータリングサービス、6室のプレジデントルーム、外国客誘致に関する記述あり、他、コミュニティアクティビティの推進等
④環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギーの多重化及び緑化等)	省エネルギー技術等に関すること	△	環境配慮に対する提案が乏しい。 有効な空調を行うための閉じた空間が構成できるか検討を要する。
⑤構造計画、屋根の架構に関する考え方	構造計画に関すること	×	架構システムの安定性に問題があり、相当大がかりな改良が必要である。
	屋根の架構及び開閉機構に関すること	×	バルーンルーフであるが、詳細説明がなく判断不能。 バルーン屋根は実現性に欠ける。(ETFEは国内で認定が取れていない) 可動屋根方式:バルーンルーフ 仕上材:ETFE
⑥事業費及び工期に関する考え方(事業費は、建物本体と外構部分を分けて提示すること。)	事業費(建物本体・外構部分)に関すること	△	コストの妥当性については詳細な検討を要する。主体構造の実現性に課題がある。
	施工性や工期に関すること	△	可動屋根の架構形式如何では設計期間及び工事期間に時間を要する可能性や、屋根材料の大臣認定取得に時間を要する可能性がある。
2.「デザイン提案条件」に規定している事項等			
施設建築物の配置(配置及び高さ)		△	可動屋根開放時に規定の高さを超えている
土地利用構成		△	都営住宅敷地をアクセス・オープンスペースとして活用することの検討が必要
施設構成		○	
スタジアムへのアクセス		○	
公園面積、公開空地の割合		△	公園・公開空地の確保について検討・調整が必要
緑化・環境配慮・防災対策		△	防災対策が必要。
防災・避難計画及び法令等に抵触することが明らかな事項等		○	

技術調査の確認項目【確認項目表(1):「テーマ別の計画提案」に示した①～⑥の項目のうち技術的確認が必要な事項】

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
①-1.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (可動客席等に関すること)	○	
1)可動席は物理的、機構的に実現可能と想定できるものか。	○	具体的な記述は無。絵から判断するに、かまぼこ形状のユニット席が固定席下部からせり出す。
2)可動席の設定範囲はほぼ適切といえるものか(極端に偏る等していないかなど)	○	適切。
3)可動席を利用していない時の雰囲気には支障はないか。	○	ない。
4)トラック等床面の養生等無理な方法となっていないか。		ない。オーソドックスな方法。
5)可動席の運営に過大な費用を要する内容となっていないか。		ない。オーソドックスな方法。
		具体的な記述は無い。ユニークなアイデア無。
①-2.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (その他大掛かりな機構の提案)		
(例:ピッチの分割、移動など(札幌ドームの芝面))あれば部位を記す		
・①-1と同様のチェックを行う。		
②-1.観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセスに関する考え方	○	要項内容を踏まえて作成している。
1)駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。	○	・要項と同じ歩行者動線が提示。プラン・パース判読から、東京体育館とつながるデッキレベル歩行者動線を提案。
2)車動線および駐車場配置の提案がなされているか。	○	・車動線:西通り線からアクセス。都道414にバス出口設置。駐車場:敷地西側と南側のデッキ下GLに確保(台数表示なし)
3)オリンピック等大規模なイベント時のアクセス等について特別な提案がなされているか。	-	・記載なし
②-2.観客等の入退場動線処理に関する考え方	○	要項内容を踏まえて作成している。
1)スタジアムの外に人だまり空間が提案されているか。	○	・プラン・パース判読:関連敷地と連続するデッキレベルに緑化空間と併置したオープンスペースあり(人だまり空間」という表示はなし)

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
③-1.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(音響環境)	△	側面を閉塞すべき。
1)イベント利用時の音響環境(建築音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。	△	記載なし
2)イベント利用時の音響環境(電機音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。	△	記載なし
3)イベント利用時の遮音や振動について考慮されているか。	△	記載なし
4)屋根の開閉に対応した音響環境を考慮しているか。	△	記載なし
③-2.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(事業計画)	○	
1)ホスピタリティ機能について効果的な提案がされているか。	○	提案有り、40室のVIPルーム+ケータリングサービス、6室のプレジデントルーム、外国客誘致に関する記述あり コミュニティアクティビティの推進
2)競技場施設のスポーツ以外の利活用について具体のイメージや実施方法等の提案があるか。	△	記述あるが若干のみ
3)競技場周辺を含めた、イベント非開催時の商業・文化等の機能の提案、具体の展開イメージについて記載があるか	○	リテイルモール、ミュージアム コミュニティアクティビティの推進、博物館等は北側の配置計画のみ記載有り
④環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギー多重化及び緑化等)	△	環境配慮に対する提案が乏しい。有効な空調を行うための閉じた空間が構成できるか疑問あり。
1)最先端の環境技術を備える提案や具体の記述が実現性をもってなされているか。	○	雨水再利用、自然換気、太陽光発電、太陽熱給湯、自然採光
2)エネルギーの多重化など非常時の設備的対応について提案されているか	△	記載なし
3)ランニングコスト(LCC・LCO2含む)や維持管理方法等について配慮されているか	○	Building Lifecycle Management
4)大空間(観覧席やコンコース)の空調等の記載があるか。(実現性や効果は期待出来るか)	△	有効な空調を行うための閉じた空間が構成できるか疑問あり。
5)有効な緑化計画がされているか。	○	ランドスケープ提案あり
	△	記載なし

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
⑤-1.構造計画に関する考え方	×	1)を評価対象とし、2)3)4)は別分野での評価とし参考評価とした。
1)全体的に大空間を支えられる現実的な構造となっているか。	×	架構システム図の詳細がない。架構システムの安全性に課題があり、大がかりな改良が必要になるため、原案のイメージを守れない。全体架構は風荷重を受けたバルーンの反力を受けることになるが、バルーンに作用する風荷重の設定がかなり困難である。
2)開閉機構を支える屋根架構は、技術的に可能な提案となっているか。	×	バルーン形式の概念のみで巻き取り機構の詳細がなく、全体的に開閉機構システムの詳細図がない。バルーン、ケーブルの不測事態に対するリスクが大きい。
3)芝の管理の負担を軽減するために南側の日射を確保をした開閉機構を有する屋根架構となっているか。	×	開閉屋根機構が不明なため判断できない
4)特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっていないか。	不明	開閉屋根機構が不明なため判断できない
⑤-2.屋根の架構及び開閉機構に関する考え方	×	
1)開閉式屋根の機構提案は、構造的、技術的に実現可能か。	× △	概念設計レベルか？技術的評価を下す。材料に欠く。
2)過大な建設費用を要することとなっていないか。		要さない。イメージ図からの判断。
3)特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっていないか。		バルーンルーフの空気圧制御メンテナンス等、未知な部分が多い。
		新しい技術提案だが、それをもう少し詳しく説明すべきではないか？
⑥-1.事業費(建物本体/外構部分)に関する考え方 (事業費)	△	コストの妥当性については詳細な検討を要する。主体構造の実現性に課題がある。
1)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動屋根)	△	可動屋根の可動機構の詳細提案が無いため、実現性に課題がある。
2)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動席)	△	具体的な提案なし
3)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(外装・地下の範囲)	○	
4)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(環境配慮)	○	
5)全体的に想定価格に納まっていると言えるか。	△	
⑥-2.施工性や工期に関する考え方 (工期)	△	可動屋根の架構形式如何では設計期間及び工事期間に時間を要する可能性や、屋根材料の大臣認定取得に時間を要する可能性がある。
1)工期を要する特殊な要素がないか。(地下・特殊構造など)	△	①可動屋根の架構形式によっては、設計期間及び工事期間に時間を要する可能性がある。 ②工事期間の提案はあるが、詳細工程の検討が必要である。
2)現場に工事ヤードを広く必要とする工法となっていないか。(ヤードの確保は難しい)	△	駐車場が計画されており、工事時期を検討しておく必要がある。
3)設定工期での実現や工事の影響を低減するために効果的な工法の提案はあるか。	△	提案なし
4)入手が困難な材料や機器等の使用はなされていないか。	△	屋根材料(ETFT)の大臣認定取得が必要となる可能性が高い。
5)品質に支障をきたす要素がないか。	△	ヘリウムガスの維持管理に課題がある。

技術調査の確認項目【確認項目表(2):「Ⅱ.デザイン提案条件」に規定している事項】

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
施設建築物の配置(配置及び高さ)	△	
・スタジアムは施設建築範囲内に建築されているか。	○	
・各位置における最高高さの制限は満たしているか。	△	可動屋根開放時に高さ制限を超えている(開放時の最高高さは不明)
・敷地境界線から8mの後退距離を確保しているか。	○	
土地利用構成	△	都営住宅敷地をアクセス・オープンスペースとして活用することを検討する。
・規定の範囲内の土地利用がされているか。	△	都営住宅が存置されており、アクセス・オープンスペースとして活用する必要がある。
・関連敷地に新たに建築建築物(人工地盤等の工作物を除く)を建築していないか。	○	要項に抵触するような提案はない。
施設構成	○	
・観客席が8万席以上確保されているか。	△	面積不足の可能性あり。要調整。
・規定の施設構成(導入機能と規模)が確保されているか。	○	
・ラグビー、サッカー、陸上競技等の関連規定を満たすフィールドが設けられているか。	○	
スタジアムへのアクセス	○	
・駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。	○	要項と同じ動線の図示
・車両のメインアクセスは都道418号(外苑西通り)側に設置されているか。	○	外苑西通り側に出入口2ヶ所を設置、東側区道43-670側、北側都道414号側にも出入口を各1カ所設置
・サブトラック、投てき練習場からの移動を考慮した競技者動線が提案されているか。	△	南西側のサブ車路を活用した場合、敷地内ではアクセス可能
公園面積、公開空地の割合	△	公園・公開空地の確保について検討・調整が必要。
・既設公園と同規模以上の面積を各区の範囲内に確保しているか。 (渋谷区:約22,000㎡、新宿区:約12,000㎡)	×	範囲・面積の記載がない。 渋谷区分は、スタジアムの配置、都道418号上空デッキの形状より、確保できる可能性がある。新宿区分の確保のため、関連敷地を公園とすることを検討する必要がある。
・「公園の再配置が可能な範囲」内に公園が配置されているか。	△	
・敷地面積の40%以上の公開空地が確保されているか。	×	範囲・面積・空地率の記載がない。
・「公開空地の確保が可能な範囲」内に公開空地が配置されているか。	△	公園範囲の設定後、建物周りも含めて確保すると考えると40%を確保できる可能性がある。
・歩行者等にとって快適で良好な位置に設けられているか。		
緑化・環境配慮・防災対策	△	地域防災対策が必要
・緑化・環境に対して、特別な提案がなされているか。	○	
・防災対策に対して、特別な提案がなされているか。	△	・記載なし
防災・避難計画および法令等に抵触することが明らかな事項等	○	
・災害発生時等緊急時に対応した避難計画となっているか。	○	問題なし
・災害発生時の避難場所としての機能や動線等について配慮されているか。	○	
・その他あきらかに法令に抵触する事項があるか。	○	

技術調査の確認リスト【総括表】

項目		確認結果(○・△・×)	所見	
1.「テーマ別の計画提案」に示した項目				
①臨場感あふれる観覧席に関する考え方	可動客席等に関すること	○	詳細説明は無いが、構造はオーソドックスで問題ないと判断。	可動席方式:不明 (フィールド全面昇降)
②観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセス及び入退場動線処理に関する考え方	アクセス及び入退場動線に関すること	○		
③ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方	音響環境に関すること	○		
	ホスピタリティ機能等、事業計画に関すること	○	スカイテラス、スカイガーデン、バンケットホール等各種施設を備え、50のVIPルームと50のコーポレート向けスイートを確保、スポーツ以外の記載は若干にとどまるが、商業機能の集中配置は評価	
④環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギーの多重化及び緑化等)	省エネルギー技術等に関すること	△	環境配慮に対する提案が乏しい。	<芝生>ETFE膜の光透過による芝生の育
⑤構造計画、屋根の架構に関する考え方	構造計画に関すること	○	曲面架構の脚部の十分な検討や部材断面のサイズアップ、ダブルレイヤーなどの架構の検討が必要である。	
	屋根の架構及び開閉機構に関すること	△	詳細説明はないが、2分割長辺スライド方式で技術的な問題はないと判断。開閉屋根架構の剛性を高めるために部材断面、トラスせいを十分大きくする必要がある。	可動屋根 : 長辺スライド方式 仕上材: 不明
⑥事業費及び工期に関する考え方(事業費は、建物本体と外構部分を分けて提示すること。)	事業費(建物本体・外構部分)に関すること	○	構造の機構、外装の素材によっては、コスト超過の課題がある。	
	施工性や工期に関すること	△	アリーナの床の上下機構について、検討が必要である。	
2.「デザイン提案条件」に規定している事項等				
施設建築物の配置(配置及び高さ)		△	最高高さが規定の高さを超えている(約80m)	
土地利用構成		○		
施設構成		○		
スタジアムへのアクセス		○		
公園面積、公開空地の割合		△	範囲・面積の記載がない	
緑化・環境配慮・防災対策		△	地域防災対策が必要。	
防災・避難計画及び法令等に抵触することが明らかな事項等		○		

技術調査の確認項目【確認項目表(1):「テーマ別の計画提案」に示した①～⑥の項目のうち技術的確認が必要な事項】

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
①-1.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (可動客席等に関すること)	○	
1)可動席は物理的、機構的に実現可能と想定できるものか。	○	詳細説明無。図面から判断するにオーソドックスな形式。
2)可動席の設定範囲はほぼ適切といえるものか(極端に偏る等していないかなど)	○	オーソドックスな範囲。
3)可動席を利用していない時の雰囲気には支障はないか。	○	ない。
4)トラック等床面の養生等無理な方法となっていないか。		オーソドックスな方法であり、特に問題は無。
5)可動席の運営に過大な費用を要する内容となっていないか。		オーソドックスな方法であり、特に問題は無。
		オーソドックスな構造デザイン
①-2.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (その他大掛かりな機構の提案)		
(例:ピッチの分割、移動など(札幌ドームの芝面))あれば部位を記す		
・①-1と同様のチェックを行う。		
②-1.観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセスに関する考え方	○	要項内容を踏まえて作成している。
1)駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。	○	・要項「想定アクセス図」と同じ歩行者動線が提示。プラン判読から、東京体育館及びバスケット場につながるデッキレベル歩行者動線を提案。
2)車動線および駐車場配置の提案がなされているか。	○	・車動線:外苑西通り線からアクセス。区道43-960からサービス動線。駐車場:建物外周のデッキ下GL及びB2に確保(台数表示なし)
3)オリンピック等大規模なイベント時のアクセス等について特別な提案がなされているか。	○	・VIP、競技者、メディア等の来場目的別アクセスを提案。
②-2.観客等の入退場動線処理に関する考え方	○	要項内容を踏まえて作成している。
1)スタジアムの外に人だまり空間が提案されているか。	○	・プラン・パース判読:関連敷地と連続するデッキレベルにオープンスペースあり(人だまり空間)という表示はなし)

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
③-1.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(音響環境)	○	
1) イベント利用時の音響環境(建築音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。	△	記載なし
2) イベント利用時の音響環境(電機音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。	○	
3) イベント利用時の遮音や振動について考慮されているか。	△	記載なし
4) 屋根の開閉に対応した音響環境を考慮しているか。	△	記載なし
③-2.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(事業計画)	○	
1) ホスピタリティ機能について効果的な提案がされているか。	○	スカイテラス、スカイガーデン、バンケットホール等各種施設を備え、50のVIPルームと50のコーポレート向けスイートを確保
2) 競技場施設のスポーツ以外の利活用について具体的なイメージや実施方法等の提案があるか。	△	コンサート開催等若干の記載にとどまる
3) 競技場周辺を含めた、イベント非開催時の商業・文化等の機能の提案、具体的な展開イメージについて記載があるか	△	リテイルモール、ミュージアム等を南側に配置
④.環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギー多重化及び緑化等)	△	環境配慮に対する提案が乏しい。
1) 最先端の環境技術を備える提案や具体の記述が実現性をもってなされているか。	○	雨水再利用、自然換気、太陽光発電(2MW以上)、自然採光、地熱利用、再生材の利用
2) エネルギーの多重化など非常時の設備的対応について提案されているか	△	記載なし
3) ランニングコスト(LCC・LCO2含む)や維持管理方法等について配慮されているか	△	記載なし
4) 大空間(観覧席やコンコース)の空調等の記載があるか。(実現性や効果は期待出来るか)	△	記載なし
5) 有効な緑化計画がされているか。	○	スカイガーデン、日本庭園(竹、桜、松)
	△	ETFE膜の光透過による芝生の育成、という記載のみ

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
⑤-1.構造計画に関する考え方	△	1)を評価対象とし、2)3)4)は別分野での評価とし参考評価とした。
1)全体的に大空間を支えられる現実的な構造となっているか。	○	架構システムとしては、改善すれば成立する可能性はある。曲面架構の脚部の十分な検討や部材断面のサイズアップ、ダブルレイヤーなどの架構の検討が必要である。
2)開閉機構を支える屋根架構は、技術的に可能な提案となっているか。	△	開閉屋根の詳細がないが、概念図から判断すると開閉屋根剛性などの改善により可能となる可能性がある。開閉屋根架構の剛性を高めるために部材断面、トラスせいを十分大きくする必要がある。
3)芝の管理の負担を軽減するために南側の日射を確保をした開閉機構を有する屋根架構となっているか。	△	南側の日射確保の屋根開閉とはなっていない。ただし、南側スタンドを取りやめていたり配慮をしている。
4)特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっているか。	○	
⑤-2.屋根の架構及び開閉機構に関する考え方	○	
1)開閉式屋根の機構提案は、構造的、技術的に実現可能か。	○	長辺スライド方式、2分割。詳細は不明だが屋根空間に収納。
2)過大な建設費用を要することとなっているか。	○	要さない。オーソドックスな構造。
3)特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっているか。		通常的方式であり、管理手法もあり、問題ない。
		オーソドックスな構造。
⑥-1.事業費(建物本体/外構部分)に関する考え方 (事業費)	○	構造の機構、外装の素材によっては、コスト超過の課題がある。
1)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動屋根)	○	
2)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動席)	○	
3)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(外装・地下の範囲)	○	外装材の素材の選定には留意が必要
4)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(環境配慮)	○	
5)全体的に想定価格に納まっていると言えそうか。	○	
⑥-2.施工性や工期に関する考え方 (工期)	△	アリーナの床の上下機構について、検討が必要である。
1)工期を要する特殊な要素がないか。(地下・特殊構造など)	△	工事期間の提案がなく、詳細工程の検討が必要である。
2)現場に工事ヤードを広く必要とする工法となっていないか。(ヤードの確保は難しい)	△	駐車場、店舗等が計画されており、工事時期を検討しておく必要がある。
3)設定工期での実現や工事の影響を低減するために効果的な工法の提案はあるか。	△	提案なし
4)入手が困難な材料や機器等の使用はなされていないか。	△	アリーナの床の上下機構について、検討が必要である。
5)品質に支障をきたす要素がないか。	△	外装素材の検討が必要である。

技術調査の確認項目【確認項目表(2):「Ⅱ.デザイン提案条件」に規定している事項】

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
施設建築物の配置(配置及び高さ)	△	最高高さを超過している
・スタジアムは施設建築範囲内に建築されているか。	○	
・各位置における最高高さの制限は満たしているか。	×	最高高さ制限を超過している(約80m)
・敷地境界線から8mの後退距離を確保しているか。	○	
土地利用構成	○	
・規定の範囲内の土地利用がされているか。	○	要項の規定に適合している。
・関連敷地に新たに建築建築物(人工地盤等の工作物を除く)を建築していないか。	○	要項に抵触するような提案はない。
施設構成	○	
・観客席が8万席以上確保されているか。	○	
・規定の施設構成(導入機能と規模)が確保されているか。	○	
・ラグビー、サッカー、陸上競技等の関連規定を満たすフィールドが設けられているか。	○	
スタジアムへのアクセス	○	
・駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。	○	要項と同じ動線の図示
・車両のメインアクセスは都道418号(外苑西通り)側に設置されているか。	○	VIP用、関係者用出入口を、各々外苑西通り側に設置、一般車駐車場出入口は南側の区道43-690に出入口を設置
・サブトラック、投てき練習場からの移動を考慮した競技者動線が提案されているか。	○	トンネルによるアクセスを提案
公園面積、公開空地の割合	△	範囲・面積の記載がない
・既設公園と同規模以上の面積を各区の範囲内に確保しているか。 (渋谷区:約22,000㎡、新宿区:約12,000㎡)	×	範囲・面積の記載がない。 渋谷区分は、屋根の張り出し形状、都道418号上空デッキ形状より、確保できない可能性がある。新宿区分は関連敷地も含め確保できる可能性がある。
・「公園の再配置が可能な範囲」内に公園が配置されているか。	△	
・敷地面積の40%以上の公開空地が確保されているか。	×	範囲・面積・空地率の記載がない。
・「公開空地の確保が可能な範囲」内に公開空地が配置されているか。	△	公園範囲の設定後、建物周りも含めて確保すると考えると40%を確保できる可能性がある。
・歩行者等にとって快適で良好な位置に設けられているか。		
緑化・環境配慮・防災対策	△	地域防災対策が必要
・緑化・環境に対して、特別な提案がなされているか。	○	
・防災対策に対して、特別な提案がなされているか。	△	・記載なし
防災・避難計画および法令等に抵触することが明らかな事項等	○	
・災害発生時等緊急時に対応した避難計画となっているか。	○	
・災害発生時の避難場所としての機能や動線等について配慮されているか。	○	
・その他あきらかに法令に抵触する事項があるか。	○	

技術調査の確認リスト【総括表】

項目		確認結果(○・△・×)	所見
1.「テーマ別の計画提案」に示した項目			
①臨場感あふれる観覧席に関する考え方	可動客席等に関すること	○	ロールバック方式。 可動席方式:ロールバック方式
②観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセス及び入退場動線処理に関する考え方	アクセス及び入退場動線に関すること	△	西通り線に面した車両の出入り口数が少なく、かつ幅が狭いので改善が必要
③ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方	音響環境に関すること	△	客席上部が開放となっているところを閉塞する工夫が必要。
	ホスピタリティ機能等、事業計画に関すること	○	プレミアムスペクテイターファシリティ 100室強 2タイプ、VIP専用エントランスあり。スポーツ以外の具体的記述に乏しいが、レストラン、ライブラリー、ミュージアム、商業スペースが低層コンコースに独立型として配置されていることは評価
④環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギーの多重化及び緑化等)	省エネルギー技術等に関すること	△	環境配慮に対する提案が乏しい。
⑤構造計画、屋根の架構に関する考え方	構造計画に関すること	△	架構計画の詳細がないが、柱部材の断面増強、本数増加、トラス架構の剛性を高めるためにせいの大きな断面とするなど十分検討する必要がある。
	屋根の架構及び開閉機構に関すること	○	2分割折りたたみ方式でオーソドックスな方法。 可動屋根方式:折りたたみ方式 仕上材:透過性膜
⑥事業費及び工期に関する考え方(事業費は、建物本体と外構部分を分けて提示すること。)	事業費(建物本体・外構部分)に関すること	○	外装及び屋根裏(鏡面部)の素材の選定によっては、コスト超過の課題がある。
	施工性や工期に関すること	○	全体的には実現可能と思われる。
2.「デザイン提案条件」に規定している事項等			
施設建築物の配置(配置及び高さ)		△	屋根が規定の高さを超えている(全面的に高さ約45m)
土地利用構成		△	都営住宅敷地をアクセス・オープンスペースとして活用することの検討が必要 サブアリーナの撤去は見直しが必要
施設構成		○	
スタジアムへのアクセス		○	
公園面積、公開空地の割合		△	公園・公開空地の確保について検討・調整が必要
緑化・環境配慮・防災対策		△	防災対策が必要
防災・避難計画及び法令等に抵触することが明らかな事項等		△	階段の表記なし、十分対応可能

技術調査の確認項目【確認項目表(1):「テーマ別の計画提案」に示した①～⑥の項目のうち技術的確認が必要な事項】

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
①-1.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (可動客席等に関すること)	○	
1)可動席は物理的、機構的に実現可能と想定できるものか。	○	ロールバック方式が安全収納でない。
2)可動席の設定範囲はほぼ適切といえるものか(極端に偏る等していないかなど)	△	良くわからないが少し足りないと思われる。
3)可動席を利用していない時の雰囲気には支障はないか。	○	特になし。
4)トラック等床面の養生等無理な方法となっていないか。		なっていない。
5)可動席の運営に過大な費用を要する内容となっていないか。		なっていない。
①-2.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (その他大掛かりな機構の提案)		
(例:ピッチの分割、移動など(札幌ドームの芝面))あれば部位を記す		
・①-1と同様のチェックを行う。		
②-1.観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセスに関する考え方【関口】	△	西通り線に面した車両の出入り口数が少なく、かつ幅が狭いので改善が必要
1)駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。	○	・最大95千人時の駅別歩行者動線を提示。プラン判読から東京体育館とつながるデッキレベル歩行者動線を提案。
2)車動線および駐車場配置の提案がなされているか。	△	・車動線:西通り線側の出入り口数がひとつしか無く、かつ幅も狭い(西通り線に1ヶ所。43-960からサービス動線1ヶ所) ・駐車場:建物外周のデッキ下GL及びB1に確保(台数表示なし)
3)オリンピック等大規模なイベント時のアクセス等について特別な提案がなされているか。	-	・記載なし
②-2.観客等の入退場動線処理に関する考え方		
1)スタジアムの外に人だまり空間が提案されているか。	○	・プラン・パース判読:関連敷地と連続するデッキレベルにオープンスペースあり(人だまり空間)という表示はなし)

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
③-1.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(音響環境)	△	客席上部が開放となっているところを閉塞する工夫が必要。
1) イベント利用時の音響環境(建築音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。	△	記載なし
2) イベント利用時の音響環境(電機音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。	△	記載なし
3) イベント利用時の遮音や振動について考慮されているか。	△	記載なし
4) 屋根の開閉に対応した音響環境を考慮しているか。	△	記載なし
③-2.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(事業計画)	○	
1) ホスピタリティ機能について効果的な提案がされているか。	○	プレミアムスペクテイターファシリティ 100室強 2タイプ、VIP専用エントランスあり。
2) 競技場施設のスポーツ以外の利活用について具体のイメージや実施方法等の提案があるか。	△	具体的記述に乏しい
3) 競技場周辺を含めた、イベント非開催時の商業・文化等の機能の提案、具体の展開イメージについて記載があるか	○	レストラン、ライブラリー、ミュージアム、商業スペースが低層コンコースに独立型として配置されている
④.環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギー多重化及び緑化等)	△	環境配慮に対する提案が乏しい。
1) 最先端の環境技術を備える提案や具体の記述が実現性をもってなされているか。	○	自然換気、太陽光発電
2) エネルギーの多重化など非常時の設備的対応について提案されているか	△	記載なし
3) ランニングコスト(LCC・LCCO2含む)や維持管理方法等について配慮されているか	△	屋根を閉じた時の冷房エネルギー削減量20%という記載のみ
4) 大空間(観覧席やコンコース)の空調等の記載があるか。(実現性や効果は期待出来るか)	△	記載なし
5) 有効な緑化計画がされているか。	○	生物多様性キャンपी(屋上緑化)
	△	記載なし

確 認 事 項	確 認 結 果 (○・△・×)	所 見
⑤-1.構造計画に関する考え方	△	1)を評価対象とし、2)3)4)は別分野での評価とし参考評価とした。
1)全体的に大空間を支えられる現実的な構造となっているか。	△	架構システムの詳細がない。架構計画の詳細がないが、柱部材の断面増強、トラス架構の剛性を高めるためにせいの大きな断面とするなど十分検討する必要がある。
2)開閉機構を支える屋根架構は、技術的に可能な提案となっているか。	△	開閉屋根の詳細がない。
3)芝の管理の負担を軽減するために南側の日射を確保をした開閉機構を有する屋根架構となっているか。	×	開閉屋根機構が不明なため判断できない
4)特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっていないか。	不明	開閉屋根機構が不明なため判断できない
⑤-2.屋根の架構及び開閉機構に関する考え方	○	
1)開閉式屋根の機構提案は、構造的、技術的に実現可能か。		2分割折りたたみ方式。
2)過大な建設費用を要することとなっていないか。		要さない。ただ、2分割でオーソドックス。
3)特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっていないか。		ない。
		特になし。
⑥-1.事業費(建物本体/外構部分)に関する考え方 (事業費)	○	外装及び屋根裏(鏡面部)の素材の選定によっては、コスト超過の課題がある。
1)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動屋根)	○	
2)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動席)	○	
3)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(外装・地下の範囲)	○	屋根裏(鏡面部)の素材の選定によっては、コスト超過の課題がある。
4)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(環境配慮)	○	
5)全体的に想定価格に納まっていると言えそうか。	○	
⑥-2.施工性や工期に関する考え方 (工期)	○	全体的には実現可能と思われる。
1)工期を要する特殊な要素がないか。(地下・特殊構造など)	△	工程の提案がない。詳細工程の検討が必要である。
2)現場に工事ヤードを広く必要とする工法となっていないか。(ヤードの確保は難しい)	○	問題は見当たらない。
3)設定工期での実現や工事の影響を低減するために効果的な工法の提案はあるか。	△	提案なし
4)入手が困難な材料や機器等の使用はなされていないか。	○	特には見当たらない。
5)品質に支障をきたす要素がないか。	△	大屋根裏の鏡面部分のメンテ方法の検討が必要。

技術調査の確認項目【確認項目表(2):「Ⅱ.デザイン提案条件」に規定している事項】

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
施設建築物の配置(配置及び高さ)	△	
・スタジアムは施設建築範囲内に建築されているか。	○	
・各位置における最高高さの制限は満たしているか。	×	屋根が高さ制限を超えている(全面的に高さ約45m)
・敷地境界線から8mの後退距離を確保しているか。	○	
土地利用構成	△	都営住宅敷地をアクセス・オープンスペースとして活用することを検討する。サブアリーナの撤去は要見直し。
・規定の範囲内の土地利用がされているか。	△	都営住宅が存置されており、アクセス・オープンスペースとして活用することが望まれる。サブアリーナが撤去されている。
・関連敷地に新たに建築建築物(人工地盤等の工作物を除く)を建築していないか。	○	要項に抵触するような提案はない。
施設構成	○	陸上トラック表現なし
・観客席が8万席以上確保されているか。	○	
・規定の施設構成(導入機能と規模)が確保されているか。	○	
・ラグビー、サッカー、陸上競技等の関連規定を満たすフィールドが設けられているか。	×	陸上トラック表現なし。
スタジアムへのアクセス	○	
・駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。	○	千駄ヶ谷駅35000、外苑前駅17500、信濃町駅25000、青山一丁目駅17500=95,000人(計画提案書)の歩行者動線を想定
・車両のメインアクセスは都道418号(外苑西通り)側に設置されているか。	○	外苑西通り側、南側の区道43-890に出入口を各1ヶ所設置(利用形態による使い分けはなし)
・サブトラック、投てき練習場からの移動を考慮した競技者動線が提案されているか。	○	南西側からの自動車アクセス動線から枝分かれ
公園面積、公開空地の割合	×	範囲・面積の記載がない
・既設公園と同規模以上の面積を各区の範囲内に確保しているか。 (渋谷区:約22,000㎡、新宿区:約12,000㎡)	×	範囲・面積の記載がない。 渋谷区分は、屋根の張り出し形状、都道418号上空デッキ形状より、確保できない可能性がある。新宿区分は、関連敷地を公園とすることが望まれる。
・「公園の再配置が可能な範囲」内に公園が配置されているか。	×	
・敷地面積の40%以上の公開空地が確保されているか。	×	範囲・面積・空地率の記載がない。
・「公開空地の確保が可能な範囲」内に公開空地が配置されているか。	△	公園範囲の設定後、建物周りも含めて確保すると考えると40%を確保できる可能性がある。
・歩行者等にとって快適で良好な位置に設けられているか。		
緑化・環境配慮・防災対策	△	地域防災対策が必要
・緑化・環境に対して、特別な提案がなされているか。	○	
・防災対策に対して、特別な提案がなされているか。	△	・記載なし
防災・避難計画および法令等に抵触することが明らかな事項等	△	階段の表記なし、十分対応可能
・災害発生時等緊急時に対応した避難計画となっているか。	△	階段の表記なし、十分対応可能
・災害発生時の避難場所としての機能や動線等について配慮されているか。	○	
・その他あきらかに法令に抵触する事項があるか。	○	

技術調査の確認リスト【総括表】

項目		確認結果(○・△・×)	所見
1.「テーマ別の計画提案」に示した項目			
①臨場感あふれる観覧席に関する考え方	可動客席等に関すること	○	全体スライド方式で技術的にも成熟したもの。 可動席方式:全体スライド方式
②観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセス及び入退場動線処理に関する考え方	アクセス及び入退場動線に関すること	△	一部車両アクセス位置の改善が必要
③ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方	音響環境に関すること	○	LEVEL3にVIP/部屋としては若干少ない(70室程度の確保か?)、VIP専用エントランスが2箇所あり。スポーツ以外の利用に関する記載は乏しいが、日常の賑わい機能を南側に集中配置されている点を評価
	ホスピタリティ機能等、事業計画に関すること	△	
④環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギーの多重化及び緑化等)	省エネルギー技術等に関すること	△	環境配慮に対する提案が乏しい。
⑤構造計画、屋根の架構に関する考え方	構造計画に関すること	△	屋根架構やこれを支える架構に対して十分検討する必要がある部材断面の増強、部材追加となる可能性が高い。
	屋根の架構及び開閉機構に関すること	△	PTFE製ケーブル駆動。詳細不明だが実現性は高いと思う。ピッチを天井まで上昇させることも出来るとあるが支持架構については不明。 可動屋根:ケーブル方式(詳細不明) 仕上材:PTFE (PTFEは国内で認定が取れていない。)
⑥事業費及び工期に関する考え方(事業費は、建物本体と外構部分を分けて提示すること。)	事業費(建物本体・外構部分)に関すること	○	芝昇降システムの実現性(仮設柱の設置等)と維持管理にコストがかかる課題はある。
	施工性や工期に関すること	△	屋根材料の大臣認定取得に時間を要する可能性がある。
2.「デザイン提案条件」に規定している事項等			
施設建築物の配置(配置及び高さ)		○	部分的に規定の高さを超えている可能性がある
土地利用構成		○	
施設構成		○	
スタジアムへのアクセス		○	
公園面積、公開空地の割合		△	範囲・面積の記載がない
緑化・環境配慮・防災対策		△	地域防災対策が必要
防災・避難計画及び法令等に抵触することが明らかな事項等		○	(屋上歩行は困難であろう)

技術調査の確認項目【確認項目表(1):「テーマ別の計画提案」に示した①～⑥の項目のうち技術的確認が必要な事項】

確 認 事 項	確 認 結 果 (○・△・×)	所 見
①-1.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (可動客席等に関すること) XXXXXXXXXX	○	
1)可動席は物理的、機構的に実現可能と想定できるものか。	○	全体スライド方式。良くあるタイプ。
2)可動席の設定範囲はほぼ適切といえるものか(極端に偏る等していないかなど)	○	問題なし。
3)可動席を利用していない時の雰囲気には支障はないか。	○	問題なし。
4)トラック等床面の養生等無理な方法となっていないか。		ない。問題なし。
5)可動席の運営に過大な費用を要する内容となっていないか。		ない。問題なし。
		良くある構造。
①-2.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (その他大掛かりな機構の提案) XXXXXXXXXX		
(例:ピッチの分割、移動など(札幌ドームの芝面))あれば部位を記す		
・①-1と同様のチェックを行う。		
②-1.観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセスに関する考え方 XXXXXXXXXX	△	一部車両アクセス位置の改善が必要
1)駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。	○	・要項と同じ歩行者動線が提示。プラン・パース判読から、東京体育館とつながるデッキレベル歩行者動線を提案。
2)車動線および駐車場配置の提案がなされているか。	△	・車動線:西通り北側の斜路を活用したVIP・選手・搬入は安全性に疑問。43-690側に一般車両の入退場動線。 ・駐車場:敷地南側のB1に確保(台数表示なし)
3)オリンピック等大規模なイベント時のアクセス等について特別な提案がなされているか。	○	・VIP、競技者、メディア等の来場目的別アクセスを提案。
②-2.観客等の入退場動線処理に関する考え方 XXXXXXXXXX	○	要項内容を踏まえて作成している。
1)スタジアムの外に人だまり空間が提案されているか。	○	・プラン・パース判読から、デッキ上の歩行者動線内に設けられた線的なスペースあり(人だまり空間」という表示はなし)

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
③-1.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(音響環境)	○	
1) イベント利用時の音響環境(建築音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。	△	記載なし
2) イベント利用時の音響環境(電機音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。	△	記載なし
3) イベント利用時の遮音や振動について考慮されているか。	△	記載なし
4) 屋根の開閉に対応した音響環境を考慮しているか。	△	記載なし
③-2.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(事業計画)	△	
1) ホスピタリティ機能について効果的な提案がされているか。	○	LEVEL3にVIP/部屋としては若干少ない(70室程度の確保か?)、VIP専用エントランスが2箇所あり。
2) 競技場施設のスポーツ以外の利活用について具体的なイメージや実施方法等の提案があるか。	×	具体的記述に乏しい
3) 競技場周辺を含めた、イベント非開催時の商業・文化等の機能の提案、具体の展開イメージについて記載があるか	○	南側に集中配置されている点を評価
④.環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギー多重化及び緑化等)	△	環境配慮に対する提案が乏しい。
1) 最先端の環境技術を備える提案や具体の記述が実現性をもってなされているか。	○	雨水再利用、自然換気、太陽光発電、クールビット、地中熱利用、自然採光、既存スタジアムの廃材利用
2) エネルギーの多重化など非常時の設備的対応について提案されているか	△	記載なし
3) ランニングコスト(LCC・LCCO2含む)や維持管理方法等について配慮されているか	△	記載なし
4) 大空間(観覧席やコンコース)の空調等の記載があるか。(実現性や効果は期待出来るか)	○	100年建築
5) 有効な緑化計画がされているか。	○	屋上緑化
	○	芝生フィールドを屋根に上げて芝生を育成。下げているときは反射光を利用。

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
⑤-1.構造計画に関する考え方	△	1)を評価対象とし、2)3)4)は別分野での評価とし参考評価とした。
1)全体的に大空間を支えられる現実的な構造となっているか。	△	骨組みは成立する。水平力の抵抗が少ない。屋根架構やこれを支える架構に対して十分検討する必要があり部材断面の増強、部材追加となる可能性が高い。
2)開閉機構を支える屋根架構は、技術的に可能な提案となっているか。	△	ガイドレールの収納スペース、建て方費用に問題がある。
3)芝の管理の負担を軽減するために南側の日射を確保をした開閉機構を有する屋根架構となっているか。	○	南側日射を確保した開閉機構とはなっていない。その代わり、仮設柱の設置により芝生をリフトアップすることとなっているが、仮設柱をその都度設置するため、頻度が多く、その運用に問題がある。
4)特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっていないか。	×	仮設柱の設置に費用がかかる。
⑤-2.屋根の架構及び開閉機構に関する考え方	△	
1)開閉式屋根の機構提案は、構造的、技術的に実現可能か。	○	PTFE製、ケーブル駆動。ただ詳細不明だが、実現性無くも言えない。
2)過大な建設費用を要することとなっていないか。		要さない。よく判断できないが。
3)特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっていないか。		いない。よく判断できないが。
		詳細不明。
⑥-1.事業費(建物本体/外構部分)に関する考え方 (事業費)	○	芝昇降システムの実現性(仮設柱の設置等)と維持管理にコストがかかる課題はある。
1)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動屋根)	△	PTFE膜の実現性に課題がある。
2)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動席)	△	スタンド自体が可変するシステムのためメンテナンス費用がかかる懸念がある。
3)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(外装・地下の範囲)	○	
4)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(環境配慮)	○	
5)全体的に想定価格に納まっていると言えそうか。	○	
⑥-2.施工性や工期に関する考え方 (工期)	△	屋根材料の大臣認定取得に時間を要する可能性がある。
1)工期を要する特殊な要素がないか。(地下・特殊構造など)	△	工事期間の提案はあるが、詳細工程の検討が必要である。
2)現場に工事ヤードを広く必要とする工法となっていないか。(ヤードの確保は難しい)	○	問題は見当たらない。
3)設定工期での実現や工事の影響を低減するために効果的な工法の提案はあるか。	△	提案なし
4)入手が困難な材料や機器等の使用はなされていないか。	△	屋根材料(PTFE)の大臣認定取得が必要となる可能性が高い。
5)品質に支障をきたす要素がないか。	△	移動式ピッチの架構システムの検討が必要。また、芝の育成に支障をきたす可能性がある。

技術調査の確認項目【確認項目表(2):「Ⅱ.デザイン提案条件」に規定している事項】

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
施設建築物の配置(配置及び高さ)	○	
・スタジアムは施設建築範囲内に建築されているか。	○	
・各位置における最高高さの制限は満たしているか。	△	スタジアムの東側・西側で一部高さ制限を超えている可能性。また、可動屋根開放時の高さは不明。
・敷地境界線から8mの後退距離を確保しているか。	○	
土地利用構成	○	
・規定の範囲内の土地利用がされているか。	○	要項の規定に適合している。
・関連敷地に新たに建築建築物(人工地盤等の工作物を除く)を建築していないか。	○	要項に抵触するような提案はない。
施設構成	○	
・観客席が8万席以上確保されているか。	○	
・規定の施設構成(導入機能と規模)が確保されているか。	○	
・ラグビー、サッカー、陸上競技等の関連規定を満たすフィールドが設けられているか。	○	
スタジアムへのアクセス	○	
・駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。	○	要項と同じ動線の図示
・車両のメインアクセスは都道418号(外苑西通り)側に設置されているか。	○	VIP用の主出入口を外苑西通り側に設置、一般車駐車場・メディア等の出入口を南側の区道43-690に設置
・サブトラック、投てき練習場からの移動を考慮した競技者動線が提案されているか。	○	トンネルによるアクセスを提案
公園面積、公開空地の割合	△	範囲・面積の記載がない
・既設公園と同規模以上の面積を各区の範囲内に確保しているか。 (渋谷区:約22,000㎡、新宿区:約12,000㎡)	×	範囲・面積の記載がない。 渋谷区分は、都道418号上空デッキのサイズから、確保できない可能性がある。新宿区分は、関連敷地も含め確保できる可能性が高い。
・「公園の再配置が可能な範囲」内に公園が配置されているか。	△	
・敷地面積の40%以上の公開空地が確保されているか。	×	範囲・面積・空地率の記載がない。
・「公開空地の確保が可能な範囲」内に公開空地が配置されているか。	△	公園範囲の設定後、建物周りや屋上活用も含めて確保すると考えると40%を確保できる可能性がある。
・歩行者等にとって快適で良好な位置に設けられているか。		
緑化・環境配慮・防災対策	△	地域防災対策が必要
・緑化・環境に対して、特別な提案がなされているか。	○	
・防災対策に対して、特別な提案がなされているか。	△	・記載なし
防災・避難計画および法令等に抵触することが明らかな事項等	○	(屋上歩行は困難であろう)
・災害発生時等緊急時に対応した避難計画となっているか。	○	(屋上歩行は困難であろう)
・災害発生時の避難場所としての機能や動線等について配慮されているか。	○	
・その他あきらかに法令に抵触する事項があるか。	○	

技術調査の確認リスト【総括表】

項目		確認結果(○・△・×)	所見
1.「テーマ別の計画提案」に示した項目			
①臨場感あふれる観覧席に関する考え方	可動客席等に関すること	△	臨場感あるイメージだが、可動席は無い。 可動席方式:無
②観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセス及び入退場動線処理に関する考え方	アクセス及び入退場動線に関すること	△	線状傾斜路デッキ、車両アクセス位置、マラソングートレベル差などで調整または改善が必要
③ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方	音響環境に関すること	○	室内音響、騒音低減の工夫、対策に問題意識を持って取り組んでいる姿勢が伺えた。
	ホスピタリティ機能等、事業計画に関すること	△	メインコンコースレベル(ミドルコンコース)にレストラン、ショップ、レストルーム、VIPレベル(最上階にも)をもつ(ボックス、レストラン、ラウンジ、レストルーム)あり、ただし部屋数不明であり限り有り。フェスティバル、展示会等多様な記載あり、トラックが直接ステージ付近まで乗り込み準備できる設計にしている点は評価
④環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギーの多重化及び緑化等)	省エネルギー技術等に関すること	△	環境配慮に対する提案が乏しい。
⑤構造計画、屋根の架構に関する考え方	構造計画に関すること	○	ケーブルの長いサスペンション構造の高度な技術で実現できる。ケーブルの外周構造を剛強にするために、部材断面増強、部材数の増加が必要である。
	屋根の架構及び開閉機構に関すること	△	小割回転方式。ユニークな構造で、耐久性、メンテ性、耐風性等検討が必要。(ETFEは国内で認定が取れていない。) 可動屋根方式:小割回転方式 仕上材:ETFE
⑥事業費及び工期に関する考え方(事業費は、建物本体と外構部分を分けて提示すること。)	事業費(建物本体・外構部分)に関すること	△	屋根の構造架構形式によっては、コスト超過の課題がある。維持管理についてもワイヤー数、回転軸が多く、不具合補修やコンピューター制御に係る負担が懸念される。
	施工性や工期に関すること	△	屋根材料の大臣認定取得に時間を要する可能性や、開閉機構とメンテナンス方法の整合性を検討する必要がある。
2.「デザイン提案条件」に規定している事項等			
施設建築物の配置(配置及び高さ)		○	スタジアム北側・東側・西側が一部高さ制限を超えている可能性がある
土地利用構成		○	
施設構成		○	
スタジアムへのアクセス		△	線状傾斜路歩行者デッキ、車両出入り口、競技車両の駐車位置等、調整または改善が必要。
公園面積、公開空地の割合		△	範囲が明瞭でない
緑化・環境配慮・防災対策		△	防災対策が必要
防災・避難計画及び法令等に抵触することが明らかな事項等		△	階段の表記不明確、スタンド出入り口不足、対応は可能

技術調査の確認項目【確認項目表(1):「テーマ別の計画提案」に示した①～⑥の項目のうち技術的確認が必要な事項】

確 認 事 項	確 認 結 果 (○・△・×)	所 見
①-1.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (可動客席等に関すること) ■■■■	△	
1)可動席は物理的、機構的に実現可能と想定できるものか。		
2)可動席の設定範囲はほぼ適切といえるものか(極端に偏る等していないかなど)		
3)可動席を利用していない時の雰囲気には支障はないか。		
4)トラック等床面の養生等無理な方法となっていないか。		
5)可動席の運営に過大な費用を要する内容となっていないか。		
		可動席に関する記述はないが、全体イメージはダイナミック、設置も可能。
①-2.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (その他大掛かりな機構の提案) ■■■■		
(例:ピッチの分割、移動など(札幌ドームの芝面))あれば部位を記す		
・①-1と同様のチェックを行う。		
②-1.観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセスに関する考え方 ■■■■	△	線状傾斜路デッキ、車両アクセス位置、マラソングートレベル差などで調整または改善が必要
1)駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。	△	・プラン・パース判読から、関連敷地含め周辺都の接続は全て線状傾斜路デッキで接続するが、その実現性の調整が必要。
2)車動線および駐車場配置の提案がなされているか。	△	・車両入口を43-960、出口を西通りとする。1ヶ所の出入り口で数が不足している。 ・駐車場:BF北及び南西のデッキ下に確保(台数表示なし)
3)オリンピック等大規模なイベント時のアクセス等について特別な提案がなされているか。	△	・東側インのマラソングートとフィールドとのレベル差がとれているか要確認
②-2.観客等の入退場動線処理に関する考え方 ■■■■	△	
1)スタジアムの外に人だまり空間が提案されているか。	△	・スタジアム外の空間までに至る動線処理が線状傾斜路デッキのため、その実現性の調整が必要

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
③-1.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(音響環境)	○	室内音響、騒音低減の工夫、対策に問題意識を持って取り組んでいる姿勢が伺えた。
1) イベント利用時の音響環境(建築音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。	○	
2) イベント利用時の音響環境(電機音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。	○	
3) イベント利用時の遮音や振動について考慮されているか。	○	
4) 屋根の開閉に対応した音響環境を考慮しているか。	○	
③-2.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(事業計画)	△	
1) ホスピタリティ機能について効果的な提案がされているか。	○	メインコンコースレベル(ミドルコンコース)にレストラン、ショップ、レストルーム、VIPレベル(最上階にも)をもつ(ボックス、レストラン、ラウンジ、レストルーム)あり。ただし部屋数不明であり限り有り。
2) 競技場施設のスポーツ以外の利活用について具体的なイメージや実施方法等の提案があるか。	△	フェスティバル、展示会等多様な記載あり、トラックが直接ステージ付近まで乗り込み準備できる設計 複数イベント同時開催にも対応
3) 競技場周辺を含めた、イベント非開催時の商業・文化等の機能の提案、具体的な展開イメージについて記載があるか	△	若干のイベント等開催の提案にとどまる
④.環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギー多重化及び緑化等)	△	環境配慮に対する提案が乏しい。
1) 最先端の環境技術を備える提案や具体の記述が実現性をもってなされているか。	○	自然換気、雨水再利用、排水再利用、自然採光、太陽光発電
2) エネルギーの多重化など非常時の設備的対応について提案されているか	△	記載なし
3) ランニングコスト(LCC・LCO2含む)や維持管理方法等について配慮されているか	△	記載なし
4) 大空間(観覧席やコンコース)の空調等の記載があるか。(実現性や効果は期待出来るか)	○	記載なし
5) 有効な緑化計画がされているか。	△	周辺の緑化(ヒートアイランド抑制)。有効な緑化ができない可能性あり。
	△	記載なし

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
⑤-1.構造計画に関する考え方	○	1)を評価対象とし、2)3)4)は別分野での評価とし参考評価とした。
1)全体的に大空間を支えられる現実的な構造となっているか。	○	300m近いテンション材で構造システムを成立させるには、応力、変位に問題が残る(クリープ、温度)ものの、高度な技術で実現できる。ケーブルの外周構造を剛強にする必要がある。
2)開閉機構を支える屋根架構は、技術的に可能な提案となっているか。	△	ワイヤーでETFEパネルを支持させることは困難と思われる。回転させる開閉機構に疑問がある。
3)芝の管理の負担を軽減するために南側の日射を確保をした開閉機構を有する屋根架構となっているか。	△	透過性のある屋根材の日射透過率について確認が必要である。
4)特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっていないか。	×	ワイヤー数、回転軸が多く、不具合補修やコンピューター制御に関する維持管理に負担が多いと思われる。
⑤-2.屋根の架構及び開閉機構に関する考え方	△	
1)開閉式屋根の機構提案は、構造的、技術的に実現可能か。	△	小割回転方式。
2)過大な建設費用を要することとなっていないか。		要する。小割屋根の費用による。
3)特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっていないか。		上記特殊構造の為、イメージがわからない。
		ユニークな屋根構造だが、耐久性、メンテ性、耐風性は不明。雨漏りは。
⑥-1.事業費(建物本体/外構部分)に関する考え方 (事業費)	△	屋根の構造架構形式によっては、コスト超過の課題がある。維持管理についてもワイヤー数、回転軸が多く、不具合補修やコンピューター制御に係る負担が懸念される。
1)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動屋根)	△	開閉機構がユニットごとのため、メンテナンス費用を含め検討が必要
2)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動席)	△	詳細が不明
3)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(外装・地下の範囲)	△	外装が複雑な構成のため検討の必要がある。
4)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(環境配慮)	○	
5)全体的に想定価格に納まっていると言えるか。	△	
⑥-2.施工性や工期に関する考え方 (工期)	△	屋根材料の大臣認定取得に時間を要する可能性や、開閉機構とメンテナンス方法の整合性を検討する必要がある。
1)工期を要する特殊な要素がないか。(地下・特殊構造など)	△	実施設計完了前に土木工事の提案になっており、発注までのフローを検討する必要がある。
2)現場に工事ヤードを広く必要とする工法となっていないか。(ヤードの確保は難しい)	○	問題は見当たらない。
3)設定工期での実現や工事の影響を低減するために効果的な工法の提案はあるか。	△	提案なし
4)入手が困難な材料や機器等の使用はなされていないか。	△	①屋根材料(ETFE)の大臣認定取得が必要となる可能性が高い。 ②可動屋根の開閉機構とメンテナンス(通路)の考え方の整合を検討する必要がある。
5)品質に支障をきたす要素がないか。	△	可動屋根の開閉機構の検討が必要である。

技術調査の確認項目【確認項目表(2):「Ⅱ.デザイン提案条件」に規定している事項】

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
施設建築物の配置(配置及び高さ)	○	
・スタジアムは施設建築範囲内に建築されているか。	○	
・各位置における最高高さの制限は満たしているか。	△	スタジアム外縁が北側・東側・西側で高さ制限を超えている可能性
・敷地境界線から8mの後退距離を確保しているか。	○	
土地利用構成	○	
・規定の範囲内の土地利用がされているか。	○	要項の規定に適合している。
・関連敷地に新たに建築建築物(人工地盤等の工作物を除く)を建築していないか。	○	要項に抵触するような提案はない。
施設構成	○	
・観客席が8万席以上確保されているか。	○	
・規定の施設構成(導入機能と規模)が確保されているか。	○	
・ラグビー、サッカー、陸上競技等の関連規定を満たすフィールドが設けられているか。	○	
スタジアムへのアクセス	△	線状歩行者デッキ、車両出入り口、競技車両の駐車位置等、調整または改善が必要。
・駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。	△	・要項と同じ歩行者動線が提示。プラン・パース判読から、関連敷地を含め周辺と全て線状傾斜路デッキで接続するも、その実現性の調整が必要。
・車両のメインアクセスは都道418号(外苑西通り)側に設置されているか。	△	・出口を外苑西通り側に設置、競技者乗降場を43-670上に設置は要調整。出入り口の数及び幅の調整が必要。
・サブトラック、投てき練習場からの移動を考慮した競技者動線が提案されているか。	△	マラソンゲートを設置、ペデ上の競技者動線を想定(図面上では確認できず)
公園面積、公開空地の割合	△	範囲が明瞭でない
・既設公園と同規模以上の面積を各区の範囲内に確保しているか。 (渋谷区:約22,000㎡、新宿区:約12,000㎡)	△	面積の記載はあり、両区とも確保されているが、範囲が明瞭でない。
・「公園の再配置が可能な範囲」内に公園が配置されているか。	△	渋谷区分は、関連敷地内を参入している可能性がある。新宿区分は、関連敷地も含め確保できている可能性が高い。
・敷地面積の40%以上の公開空地が確保されているか。	△	面積・空地率が示されており、40%以上を確保しているが、範囲が明確に示されていない。
・「公開空地の確保が可能な範囲」内に公開空地が配置されているか。	△	斜路(スカイパークアクセス)を含めて公開空地と捉えれば、40%以上を確保できている可能性が高い。
・歩行者等にとって快適で良好な位置に設けられているか。		
緑化・環境配慮・防災対策	△	地域防災対策が必要
・緑化・環境に対して、特別な提案がなされているか。	○	
・防災対策に対して、特別な提案がなされているか。	△	・記載なし
防災・避難計画および法令等に抵触することが明らかな事項等	△	階段の表記不明確、スタンド出入り口不足、対応は可能
・災害発生時等緊急時に対応した避難計画となっているか。	△	階段の表記不明確、スタンド出入り口不足、対応は可能
・災害発生時の避難場所としての機能や動線等について配慮されているか。	○	
・その他あきらかに法令に抵触する事項があるか。	○	

技術調査の確認リスト【総括表】

項目		確認結果(○・△・×)	所見
1.「テーマ別の計画提案」に示した項目			
①臨場感あふれる観覧席に関する考え方	可動客席等に関すること	△	可動席はない。内部イメージのオーソドックス。 可動席方式:無
②観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセス及び入退場動線処理に関する考え方	アクセス及び入退場動線に関すること	△	・駅アクセス動線の確保、バリアフリー対策が必要
③ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方	音響環境に関すること	○	外皮(壁天井)が二重膜で遮音の観点で有利である。
	ホスピタリティ機能等、事業計画に関すること	△	70室程度のボックスを確保。VIPエントランスあり。コンサートに関する言及程度であるが、屋根から設備を吊すことが可能な設計になっている点は評価される。ただし日常的賑わいに関する提案に乏しい。
④環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギーの多重化及び緑化等)	省エネルギー技術等に関すること	△	環境配慮に対する提案が乏しい。 有効な空調を行うための閉じた空間が構成できるか検討を要する。
⑤構造計画、屋根の架構に関する考え方	構造計画に関すること	△	この形状を成立させるためには、スラスト力の処理、屋根剛性、屋根支持部の境界支持力の十分な検討が必要であり、部材の増強、曲率を高めることや境界支持部の改善が必要である。
	屋根の架構及び開閉機構に関すること	△	長辺スライド方式。2分割、問題はないが、外部に可動屋根が残るタイプ 開閉屋根の安定性について十分な検討が必要である。 可動屋根方式:長辺スライド方式 仕上材:ガラス・PVパネル
⑥事業費及び工期に関する考え方(事業費は、建物本体と外構部分を分けて提示すること。)	事業費(建物本体・外構部分)に関すること	○	
	施工性や工期に関すること	○	全体的には実現可能と思われる。
2.「デザイン提案条件」に規定している事項等			
施設建築物の配置(配置及び高さ)		△	可動屋根開放時に高さ制限を超えている
土地利用構成		△	都営住宅敷地をアクセス・オープンスペースとして活用することの検討が必要
施設構成		○	
スタジアムへのアクセス		○	駅とのアクセス対策は要調整。
公園面積、公開空地の割合		△	公園・公開空地の確保について検討・調整が必要
緑化・環境配慮・防災対策		○	
防災・避難計画及び法令等に抵触することが明らかな事項等		○	

技術調査の確認項目【確認項目表(1):「テーマ別の計画提案」に示した①～⑥の項目のうち技術的確認が必要な事項】

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
①-1.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (可動客席等に関する事) []	△	
1)可動席は物理的、機構的に実現可能と想定できるものか。		可動席無。
2)可動席の設定範囲はほぼ適切といえるものか(極端に偏る等していないかなど)		
3)可動席を利用していない時の雰囲気には支障はないか。		
4)トラック等床面の養生等無理な方法となっていないか。		
5)可動席の運営に過大な費用を要する内容となっていないか。		
		内部イメージはオーソドックス。
①-2.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (その他大掛かりな機構の提案) []		
(例:ピッチの分割、移動など(札幌ドームの芝面))あれば部位を記す		
・①-1と同様のチェックを行う。		
②-1.観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセスに関する考え方 []	△	駅アクセス動線の確保、バリアフリー対策の調整が必要
1)駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。	×	駅とをつなぐ動線は現状のままであり、混雑緩和対策が必要。敷地内は階段状のためバリアフリー対策が必要。
2)車動線および駐車場配置の提案がなされているか。	○	
3)オリンピック等大規模なイベント時のアクセス等について特別な提案がなされているか。	△	・東側にVIP等動線を集約しており、開催時の運営面で調整が必要。
②-2.観客等の入退場動線処理に関する考え方 []	△	・バリアフリー対策が必要
1)スタジアムの外に人だまり空間が提案されているか。	△	・南北に空間が確保されているが、空間に至る動線が階段状であり、バリアフリー対策が必要。

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
③-1.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(音響環境)	○	外皮(壁天井)が二重膜で遮音の観点で有利である。
1) イベント利用時の音響環境(建築音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。	△	記載なし
2) イベント利用時の音響環境(電機音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。	△	記載なし
3) イベント利用時の遮音や振動について考慮されているか。	△	記載なし
4) 屋根の開閉に対応した音響環境を考慮しているか。	△	記載なし
③-2.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(事業計画)	△	
1) ホスピタリティ機能について効果的な提案がされているか。	○	70室程度のボックスを確保。VIPエントランスあり。
2) 競技場施設のスポーツ以外の利活用について具体のイメージや実施方法等の提案があるか。	△	コンサートに関する言及程度であるが、屋根から設備を吊すことが可能な設計になっている点は評価される
3) 競技場周辺を含めた、イベント非開催時の商業・文化等の機能の提案、具体の展開イメージについて記載があるか	△	具体的提案に乏しい
④.環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギー多重化及び緑化等)	△	環境配慮に対する提案が乏しい。有効な空調を行うための閉じた空間が構成できるか検討を要する。
1) 最先端の環境技術を備える提案や具体の記述が実現性をもってなされているか。	○	自然換気、太陽光発電、地中熱利用、自然採光、置換換気、熱回収システム
2) エネルギーの多重化など非常時の設備的対応について提案されているか	△	記載なし
3) ランニングコスト(LCC・LCO2含む)や維持管理方法等について配慮されているか	△	記載なし
4) 大空間(観覧席やコンコース)の空調等の記載があるか。(実現性や効果は期待出来るか)	△	有効な空調を行うための閉じた空間が構成できるか検討を要する。
5) 有効な緑化計画がされているか。	△	記載なし
	△	記載なし

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
⑤-1.構造計画に関する考え方	△	1)を評価対象とし、2)3)4)は別分野での評価とし参考評価とした。
1) 全体的に大空間を支えられる現実的な構造となっているか。	△	屋根剛性、屋根支持部の境界支持力に問題があり、全体屋根架構が成立していない。この形状を成立させるためには、スラスト力の処理、屋根剛性、屋根支持部の境界支持力の十分な検討が必要であり、部材の増強、曲率を高めることや境界支持部の改善が必要である。
2) 開閉機構を支える屋根架構は、技術的に可能な提案となっているか。	△	レール上から片持ちで支持させるシステムであるため屋根架構の剛性、耐力の確保が難しく再考の必要がある。
3) 芝の管理の負担を軽減するために南側の日射を確保をした開閉機構を有する屋根架構となっているか。	×	南側の日射の確保はできていない。
4) 特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっていないか。	不明	開閉屋根機構が不明なため判断できない
⑤-2.屋根の架構及び開閉機構に関する考え方	△	
1) 開閉式屋根の機構提案は、構造的、技術的に実現可能か。	△	長辺スライド方式。2分割、開口部の外に可動屋根が載る。開閉屋根の安定性について十分な検討が必要である。
2) 過大な建設費用を要することとなっていないか。		要さない。問題なし。
3) 特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっていないか。		なっていない。問題なし。
		デザインの的に南側に偏心。
⑥-1.事業費(建物本体／外構部分)に関する考え方 (事業費)	○	
1) 工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動屋根)	○	
2) 工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動席)	△	詳細が不明
3) 工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(外装・地下の範囲)	○	
4) 工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(環境配慮)	○	
5) 全体的に想定価格に納まっていると言えそうか。	○	
⑥-2.施工性や工期に関する考え方 (工期)	○	全体的には実現可能と思われる。
1) 工期を要する特殊な要素がないか。(地下・特殊構造など)	△	工事期間の提案がなく、詳細工程の検討が必要である。
2) 現場に工事ヤードを広く必要とする工法となっていないか。(ヤードの確保は難しい)	○	問題は見当たらない。
3) 設定工期での実現や工事の影響を低減するために効果的な工法の提案はあるか。	△	提案なし
4) 入手が困難な材料や機器等の使用はなされていないか。	○	特には見当たらない。
5) 品質に支障をきたす要素がないか。	○	提案の内容には、特には見当たらない。

技術調査の確認項目【確認項目表(2):「Ⅱ.デザイン提案条件」に規定している事項】

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
施設建築物の配置(配置及び高さ)	△	
・スタジアムは施設建築範囲内に建築されているか。	○	
・各位置における最高高さの制限は満たしているか。	×	可動屋根開放時に高さ制限を超えている(スライド型)
・敷地境界線から8mの後退距離を確保しているか。	○	
土地利用構成	△	都営住宅敷地をアクセス・オープンスペースとして活用することを検討する。
・規定の範囲内の土地利用がされているか。	△	都営住宅が存置されており、アクセス・オープンスペースとして活用する必要がある。
・関連敷地に新たに建築建築物(人工地盤等の工作物を除く)を建築していないか。	○	要項に抵触するような提案はない。
施設構成	○	
・観客席が8万席以上確保されているか。	○	
・規定の施設構成(導入機能と規模)が確保されているか。	△	ゾーニングが不明瞭。
・ラグビー、サッカー、陸上競技等の関連規定を満たすフィールドが設けられているか。	○	
スタジアムへのアクセス	○	駅とのアクセス対策は要調整。
・駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。	△	・駅をつなぐ動線は現状のままであり、混雑緩和対策が必要。敷地内は階段状のためバリアフリー対策が必要。
・車両のメインアクセスは都道418号(外苑西通り)側に設置されているか。	○	サービスは外苑西通り側から、VIPは東側の区道43-670から、一般車は南側の区道43-690から、競技者・メディアは南側の区道43-670からアクセス
・サブトラック、投てき練習場からの移動を考慮した競技者動線が提案されているか。	○	南西側から競技者・メディア兼用のスロープを設置(自動車)
公園面積、公開空地の割合	△	公園・公開空地の確保について検討・調整が必要。
・既設公園と同規模以上の面積を各区の範囲内に確保しているか。 (渋谷区:約22,000㎡、新宿区:約12,000㎡)	×	範囲・面積の記載がない。 渋谷区分は、屋根の張り出し形状、都道418号上空デッキ形状より、確保できない可能性が高い。新宿区分の確保のため、関連敷地を公園とすることを検討する必要がある。
・「公園の再配置が可能な範囲」内に公園が配置されているか。	×	
・敷地面積の40%以上の公開空地が確保されているか。	×	範囲・面積・空地率の記載がない。
・「公開空地の確保が可能な範囲」内に公開空地が配置されているか。	△	公園範囲の設定後、建物周りも含めて確保すると考えると40%を確保できる可能性がある。
・歩行者等にとって快適で良好な位置に設けられているか。		
緑化・環境配慮・防災対策	○	
・緑化・環境に対して、特別な提案がなされているか。	○	・敷地外周を緑化。環境提案については、項目表(1)④に記載。
・防災対策に対して、特別な提案がなされているか。	○	・1階レベルに防災及び安全空間を確保
防災・避難計画および法令等に抵触することが明らかな事項等	○	問題なし
・災害発生時等緊急時に対応した避難計画となっているか。	○	
・災害発生時の避難場所としての機能や動線等について配慮されているか。	○	
・その他あきらかに法令に抵触する事項があるか。	○	

技術調査の確認リスト【総括表】



項目		確認結果(○・△・×)	所見
1.「テーマ別の計画提案」に示した項目			
①臨場感あふれる観覧席に関する考え方	可動客席等に関すること	○	全体スライド式。オーソドックス。 可動席方式:全体スライド方式
②観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセス及び入退場動線処理に関する考え方	アクセス及び入退場動線に関すること	△	駅との歩行者動線対策、車両アクセスの改善・調整が必要
③ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方	音響環境に関すること	△	記載なし
	ホスピタリティ機能等、事業計画に関すること	△	VIP関連諸室を4Fに配置、十分な部屋数はある。ホテルに関する提案あり。その他の提案には乏しい
④環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギーの多重化及び緑化等)	省エネルギー技術等に関すること	△	環境配慮に対する提案が乏しい。
⑤構造計画、屋根の架構に関する考え方	構造計画に関すること	△	剛強なスタンドを利用していないため、このままでは架構として安定していないが、ダブルレイヤーに斜め材の部材追加や全体の部材断面の増強、スタンドの利用など十分な検討が必要である。
	屋根の架構及び開閉機構に関すること	△	小割回転方式で六角形の膜構造が回転して開くが、詳細不明。ユニット指数が多 コストも判断しづらい。メンテ性。。(ETFEは国内で認定が取れていない。) 多軌動屋根方式:小割回転方式 仕上材:ETFE
⑥事業費及び工期に関する考え方(事業費は、建物本体と外構部分を分けて提示すること。)	事業費(建物本体・外構部分)に関すること	○	屋根の構造架構形式によっては、コスト超過の課題がある。維持管理についてもワイヤー数、回転軸が多く、不具合補修やコンピューター制御に係る負担が懸念される。
	施工性や工期に関すること	△	屋根材料の大臣認定取得に時間を要する可能性や、開閉機構とメンテナンス方法の整合性を検討する必要がある。
2.「デザイン提案条件」に規定している事項等			
施設建築物の配置(配置及び高さ)		△	建築範囲、高さ制限超え、壁面後退距離不足等、要調整
土地利用構成		△	プランとパースに表現上の齟齬がある
施設構成		○	
スタジアムへのアクセス		△	駅との歩行者動線対策、車両アクセスの改善・調整が必要
公園面積、公開空地の割合		△	公園・公開空地の確保について検討・調整が必要
緑化・環境配慮・防災対策		○	地域防災対策が必要
防災・避難計画及び法令等に抵触することが明らかな事項等		○	

技術調査の確認項目【確認項目表(1):「テーマ別の計画提案」に示した①～⑥の項目のうち技術的確認が必要な事項】

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
①-1.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (可動客席等に関すること) [REDACTED]	○	
1)可動席は物理的、機構的に実現可能と想定できるものか。	○	全体スライド方式。詳細不明だが、絵から判断するにオーソドックスな方式。
2)可動席の設定範囲はほぼ適切といえるものか(極端に偏る等していないかなど)	○	問題なし。
3)可動席を利用していない時の雰囲気には支障はないか。	○	問題なし。
4)トラック等床面の養生等無理な方法となっていないか。		なっていない。問題なし。
5)可動席の運営に過大な費用を要する内容となっていないか。		なっていない。
		ユニークな外部シェル。オーソドックスな内部スタンド構造。
①-2.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (その他大掛かりな機構の提案) [REDACTED]		
(例:ピッチの分割、移動など(札幌ドームの芝面))あれば部位を記す		
・①-1と同様のチェックを行う。		
②-1.観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセスに関する考え方 [REDACTED]	△	駅との歩行者動線対策、車両アクセスの改善・調整が必要
1)駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。	△	・敷地直近のレベル差別アクセスのみ提案のため、駅に集中する歩行者動線対策が必要。
2)車動線および駐車場配置の提案がなされているか。	△	・西通り接続位置が1ヶ所全てを賅っており、調整が必要。
3)オリンピック等大規模なイベント時のアクセス等について特別な提案がなされているか。	△	・記載なし
②-2.観客等の入退場動線処理に関する考え方 [REDACTED]	○	
1)スタジアムの外に人だまり空間が提案されているか。	○	

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
③-1.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(音響環境)	△	記載なし
1) イベント利用時の音響環境(建築音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。	△	記載なし
2) イベント利用時の音響環境(電機音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。	△	記載なし
3) イベント利用時の遮音や振動について考慮されているか。	△	記載なし
4) 屋根の開閉に対応した音響環境を考慮しているか。	△	記載なし
③-2.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(事業計画)	△	
1) ホスピタリティ機能について効果的な提案がされているか。	○	VIP関連諸室を4Fに配置、十分な部屋数はある。ホテルに関する提案あり。
2) 競技場施設のスポーツ以外の利活用について具体的なイメージや実施方法等の提案があるか。	×	具体的提案無し
3) 競技場周辺を含めた、イベント非開催時の商業・文化等の機能の提案、具体的な展開イメージについて記載があるか	×	具体的提案無し
④.環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギー多重化及び緑化等)	△	環境配慮に対する提案が乏しい。
1) 最先端の環境技術を備える提案や具体の記述が実現性をもってなされているか。	○	太陽光発電、LED照明、雨水再利用、自然採光、自然換気
2) エネルギーの多重化など非常時の設備的対応について提案されているか	△	記載なし
3) ランニングコスト(LCC・LCCO2含む)や維持管理方法等について配慮されているか	○	Energy Managementにより25～50%エネルギー消費を削減
4) 大空間(観覧席やコンコース)の空調等の記載があるか。(実現性や効果は期待出来るか)	△	記載なし
5) 有効な緑化計画がされているか。	△	記載なし
	△	記載なし

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
⑤-1.構造計画に関する考え方	△	1)を評価対象とし、2)3)4)は別分野での評価とし参考評価とした。
1)全体的に大空間を支えられる現実的な構造となっているか。	△	剛強なスタンドを利用しておらず六角形のダブルレイヤーで巻き込むように架構を支持させるのは困難と思われる。水平荷重時にスタンド頂部に支持させる境界部分に問題が残る。ダブルレイヤーに斜め材の部材追加や全体の部材断面の増強、スタンドの利用が必要である。
2)開閉機構を支える屋根架構は、技術的に可能な提案となっているか。	△	開閉機構の詳細が不明である。回転屋根を支える架構としては問題ないが、回転屋根については面外剛性などの再考が必要である。
3)芝の管理の負担を軽減するために南側の日射を確保をした開閉機構を有する屋根架構となっているか。	×	開閉範囲、屋根材の透過率が不明のため、判断できない。しかし、南側のスタンドを低くしたり、透過性のある屋根材を利用することで、南側の日射を確保しようと計画している。
4)特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっていないか。	×	ワイヤー数、回転軸が多く、不具合補修やコンピューター制御に関する維持管理に負担が多いと思われる。
⑤-2.屋根の架構及び開閉機構に関する考え方	△	
1)開閉式屋根の機構提案は、構造的、技術的に実現可能か。		有。小割回転方式。六角形膜が回転して開く。
2)過大な建設費用を要することとなっていないか。		要すると思われるが、ユニットは小形で意外と安価なのかも。
3)特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっていないか。		なっていると思われるが、ユニットの個数が多く、何か参照となるデータが欲しい。
		小割屋根開口式で、開口度を調整できる。イメージは水滴。
⑥-1.事業費(建物本体/外構部分)に関する考え方 (事業費)	○	屋根の構造架構形式によっては、コスト超過の課題がある。維持管理についてもワイヤー数、回転軸が多く、不具合補修やコンピューター制御に係る負担が懸念される。
1)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動屋根)	△	開閉機構がユニットごとのため、メンテナンス費用を含め検討が必要
2)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動席)	○	
3)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(外装・地下の範囲)	○	
4)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(環境配慮)	○	
5)全体的に想定価格に納まっていると言えそうか。	○	
⑥-2.施工性や工期に関する考え方 (工期)	△	屋根材料の大臣認定取得に時間を要する可能性や、開閉機構とメンテナンス方法の整合性を検討する必要がある。
1)工期を要する特殊な要素がないか。(地下・特殊構造など)	△	工事期間の提案がなく、詳細工程の検討が必要である。
2)現場に工事ヤードを広く必要とする工法となっていないか。(ヤードの確保は難しい)	○	問題は見当たらない。
3)設定工期での実現や工事の影響を低減するために効果的な工法の提案はあるか。	△	提案なし
4)入手が困難な材料や機器等の使用はなされていないか。	△	①屋根材料(EFTT)の大臣認定取得が必要となる可能性が高い。 ②可動屋根の開閉機構とメンテナンス(通路)の考え方の整合を検討する必要がある。
5)品質に支障をきたす要素がないか。	△	可動屋根の開閉機構の検討が必要である。

技術調査の確認項目【確認項目表(2):「Ⅱ.デザイン提案条件」に規定している事項】

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
施設建築物の配置(配置及び高さ)	△	建築範囲、高さ制限超え、壁面後退距離不足等、要調整
・スタジアムは施設建築範囲内に建築されているか。	△	施設建築範囲を超えて提案(建国記念文庫を敷地に含めて提案)
・各位置における最高高さの制限は満たしているか。	△	東側・西側で高さ制限を超えている可能性がある。また、可動屋根開放時の最高高さは不明。
・敷地境界線から8mの後退距離を確保しているか。	△	外苑西通り、区道43-670で一部後退距離が不足。
土地利用構成	△	プランとパースに齟齬がある。
・規定の範囲内の土地利用がされているか。	△	プランは要項の規定に適合しているが、パースでは都営住宅が存置されており、プランとパースに齟齬がある。絵画館敷地に着地するデッキの提案がある。
・関連敷地に新たに建築建築物(人工地盤等の工作物を除く)を建築していないか。	○	要項に抵触するような提案はない。
施設構成	○	
・観客席が8万席以上確保されているか。	○	
・規定の施設構成(導入機能と規模)が確保されているか。	△	ゾーニングが不明瞭。
・ラグビー、サッカー、陸上競技等の関連規定を満たすフィールドが設けられているか。	○	
スタジアムへのアクセス	△	駅との歩行者動線対策、車両アクセスの改善・調整が必要
・駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。	△	敷地直近のレベル差別アクセスのみ提案のため、駅に集中する歩行者動線対策が必要。
・車両のメインアクセスは都道418号(外苑西通り)側に設置されているか。	△	設置されているが、1ヶ所のみであり、来場目的別の出入り交通対策が必要
・サブトラック、投てき練習場からの移動を考慮した競技者動線が提案されているか。	△	記載なし
公園面積、公開空地の割合	△	範囲・面積の記載がない
・既設公園と同規模以上の面積を各区の範囲内に確保しているか。 (渋谷区:約22,000㎡、新宿区:約12,000㎡)	×	範囲・面積の記載がない。 渋谷区分は、スタジアムの配置、都道418号上空デッキの形状より、確保できない可能性がある。新宿区分は、関連敷地も含め確保できる可能性が高い。
・「公園の再配置が可能な範囲」内に公園が配置されているか。	△	
・敷地面積の40%以上の公開空地が確保されているか。	×	範囲・面積・空地率の記載がない。
・「公開空地の確保が可能な範囲」内に公開空地が配置されているか。	△	公園範囲の設定後、建物周りの円形スロープ状テラスも含めて考えられれば40%を確保できる可能性がある。
・歩行者等にとって快適で良好な位置に設けられているか。		
緑化・環境配慮・防災対策	○	地域防災対策が必要
・緑化・環境に対して、特別な提案がなされているか。	○	敷地外周部に緑化。環境提案については、項目表(1)④に記載。
・防災対策に対して、特別な提案がなされているか。	△	記載なし
防災・避難計画および法令等に抵触することが明らかな事項等	○	問題なし
・災害発生時等緊急時に対応した避難計画となっているか。	○	
・災害発生時の避難場所としての機能や動線等について配慮されているか。	○	
・その他あきらかに法令に抵触する事項があるか。	○	

技術調査の確認リスト【総括表】

項目		確認結果(○・△・×)	所見
1.「テーマ別の計画提案」に示した項目			
①臨場感あふれる観覧席に関する考え方	可動客席等に関すること	○	ロールバック方式。 可動席方式:ロールバック方式
②観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセス及び入退場動線処理に関する考え方	アクセス及び入退場動線に関すること	○	千駄ヶ谷駅ホームからのダイレクトアクセスについては、要調整
③ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方	音響環境に関すること	△	上部側面を閉塞すべき。
	ホスピタリティ機能等、事業計画に関すること	△	VIPルーム等の記載あるが数が不明であり、設計図面からは若干不足気味ではないかと想定される。その他の具体的な提案に乏しい。
④環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギーの多重化及び緑化等)	省エネルギー技術等に関すること	△	環境配慮に対する提案が乏しい。
⑤構造計画、屋根の架構に関する考え方	構造計画に関すること	○	ケーブルの長いサスペンション構造の十分な検討が必要である。ケーブルの外周構造を剛強にするために、部材断面増強、部材数の増加が必要である。
	屋根の架構及び開閉機構に関すること	○	傘はイメージした巻取り折りたたみ方式で、フィールド中央上空にある。 可動屋根方式:巻取り方式 仕上材:膜 収納部に収納。膜の巻取りの検討が必要である。
⑥事業費及び工期に関する考え方(事業費は、建物本体と外構部分を分けて提示すること。)	事業費(建物本体・外構部分)に関すること	△	フローティング基礎システムの実現性とコスト検討が必要である。
	施工性や工期に関すること	△	フローティング基礎の技術的な検討や、屋根の雨水処理方法などの検討が必要である。また、地下工事に対する詳細な工程検討も必要である。
2.「デザイン提案条件」に規定している事項等			
施設建築物の配置(配置及び高さ)		△	建築範囲、高さ制限、壁面後退など要調整
土地利用構成		○	
施設構成		○	
スタジアムへのアクセス		○	
公園面積、公開空地の割合		△	範囲・面積の記載がない
緑化・環境配慮・防災対策		○	地域防災対策が必要
防災・避難計画及び法令等に抵触することが明らかな事項等		○	

技術調査の確認項目【確認項目表(1):「テーマ別の計画提案」に示した①～⑥の項目のうち技術的確認が必要な事項】

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
①-1.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (可動客席等に関する事) []	○	
1)可動席は物理的、機制的に実現可能と想定できるものか。	○	ロールバック方式。構造詳細は不明だがオーソドックス。
2)可動席の設定範囲はほぼ適切といえるものか(極端に偏る等していないかなど)	○	問題なし。
3)可動席を利用していない時の雰囲気には支障はないか。	○	問題なし。
4)トラック等床面の養生等無理な方法となっていないか。	○	なっていない。問題なし。
5)可動席の運営に過大な費用を要する内容となっていないか。		なっていない。問題なし。
		スタジアム外形とフィールド形状の長軸方向が一致していないので、イメージはどうか？
①-2.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (その他大掛かりな機構の提案) []		
(例:ピッチの分割、移動など(札幌ドームの芝面))あれば部位を記す		
・①-1と同様のチェックを行う。		
②-1.観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセスに関する考え方 []	○	
1)駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。	○	要項と同じ動線の図示。配置図に示された千駄ヶ谷駅ホーム近辺からのダイレクトデッキアクセスについては、調整が必要。
2)車動線および駐車場配置の提案がなされているか。	○	
3)オリンピック等大規模なイベント時のアクセス等について特別な提案がなされているか。	○	
②-2.観客等の入退場動線処理に関する考え方 []	○	
1)スタジアムの外に人だまり空間が提案されているか。	○	

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
③-1.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(音響環境)	△	上部側面を閉塞すべき。
1) イベント利用時の音響環境(建築音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。	△	記載なし
2) イベント利用時の音響環境(電機音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。	△	記載なし
3) イベント利用時の遮音や振動について考慮されているか。	△	記載なし
4) 屋根の開閉に対応した音響環境を考慮しているか。	△	記載なし
③-2.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(事業計画)	△	
1) ホスピタリティ機能について効果的な提案がされているか。	○	VIPルーム等の記載があるが数が不明であり、設計図面からは若干不足気味ではないかと想定される
2) 競技場施設のスポーツ以外の利活用について具体的なイメージや実施方法等の提案があるか。	△	記載はあるが、具体的な提案に乏しい
3) 競技場周辺を含めた、イベント非開催時の商業・文化等の機能の提案、具体の展開イメージについて記載があるか	×	具体的な提案に乏しい
④.環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギー多重化及び緑化等)	△	環境配慮に対する提案が乏しい。
1) 最先端の環境技術を備える提案や具体の記述が実現性をもってなされているか。	○	雨水再利用、太陽光発電、CGS、インテリジェントファサード
2) エネルギーの多重化など非常時の設備的対応について提案されているか	△	記載なし
3) ランニングコスト(LCC・LCO2含む)や維持管理方法等について配慮されているか	△	記載なし
4) 大空間(観覧席やコンコース)の空調等の記載があるか。(実現性や効果は期待出来るか)	△	記載なし
5) 有効な緑化計画がされているか。	○	緑化計画あり
	△	記載なし

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
⑤-1.構造計画に関する考え方	○	1)を評価対象とし、2)3)4)は別分野での評価とし参考評価とした。
1)全体的に大空間を支えられる現実的な構造となっているか。	○	300m近いテンション材で構造システムを成立させるには、応力、変位に問題が残る(クリープ、温度)ものの、十分な検討で実現可能である。ケーブルの外周構造を剛強にする必要がある。
2)開閉機構を支える屋根架構は、技術的に可能な提案となっているか。	△	開閉屋根の詳細がない。膜の巻き取りについて再考する必要がある。
3)芝の管理の負担を軽減するために南側の日射を確保をした開閉機構を有する屋根架構となっているか。	×	南側日射を確保した開閉機構とはなっていない。
4)特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっていないか。	不明	開閉屋根機構が不明なため判断できない
⑤-2.屋根の架構及び開閉機構に関する考え方	○	
1)開閉式屋根の機構提案は、構造的、技術的に実現可能か。		有。傘をイメージした巻き取り折りたたみ式で、フィールド中央上空にある収納部に収納。
2)過大な建設費用を要することとなっていないか。		要さない。実例もある。
3)特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっていないか。		なっていない。
		巻き取り部は「赤い球形」で日の丸をイメージ。
⑥-1.事業費(建物本体/外構部分)に関する考え方 (事業費)	△	フローティング基礎システムの実現性とコスト検討が必要である。
1)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動屋根)	△	可動システムの実現性に検討の余地がある
2)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動席)	○	
3)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(外装・地下の範囲)	△	掘削深さが-14m程度あるため、コスト、工期への影響が懸念される。
4)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(環境配慮)	○	
5)全体的に想定価格に納まっていると言えそうか。	△	
⑥-2.施工性や工期に関する考え方 (工期)	△	フローティング基礎の技術的な検討や、屋根の雨水処理方法などの検討が必要である。また、地下工事に対する詳細な工程検討も必要である。
1)工期を要する特殊な要素がないか。(地下・特殊構造など)	△	工事期間の提案はあるが、地下工事も大きいことから詳細工程の検討が必要である。
2)現場に工事ヤードを広く必要とする工法となっていないか。(ヤードの確保は難しい)	○	問題は見当たらない。
3)設定工期での実現や工事の影響を低減するために効果的な工法の提案はあるか。	△	提案なし
4)入手が困難な材料や機器等の使用はなされていないか。	△	①屋根の雨水処理の機構に検討が必要である。 ②フローティング基礎の技術的な検討をする必要がある。
5)品質に支障をきたす要素がないか。	△	フローティング基礎の技術的な検討をする必要がある。

技術調査の確認項目【確認項目表(2):「Ⅱ.デザイン提案条件」に規定している事項】

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
施設建築物の配置(配置及び高さ)	△	建築範囲、高さ制限、壁面後退など要調整
・スタジアムは施設建築範囲内に建築されているか。	△	施設建築範囲を超えて提案(都営住宅敷地のデッキ下まで含めて提案)
・各位置における最高高さの制限は満たしているか。	×	スタジアム外縁部(北東側・南西側)で高さ制限を超えている
・敷地境界線から8mの後退距離を確保しているか。	△	外苑西通り側で一部後退距離が不足
土地利用構成	○	
・規定の範囲内の土地利用がされているか。	○	要項の規定に適合している。都営住宅跡地に整備するデッキ下を駐車場として利用している。
・関連敷地に新たに建築建築物(人工地盤等の工作物を除く)を建築していないか。	○	要項に抵触するような提案はない。
施設構成	○	
・観客席が8万席以上確保されているか。	△	面積不足の可能性あり。要調整。
・規定の施設構成(導入機能と規模)が確保されているか。	○	
・ラグビー、サッカー、陸上競技等の関連規定を満たすフィールドが設けられているか。	○	
スタジアムへのアクセス	○	
・駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。	○	要項と同じ動線の図示。配置図に示された千駄ヶ谷駅ホーム近辺からのダイレクトアクセスデッキについては、調整が必要。
・車両のメインアクセスは都道418号(外苑西通り)側に設置されているか。	○	外苑西通り側、南側の区道43-690、東側の区道43-670、各々に出入口を設置(利用形態による使い分けはなし、環状通路内で各乗降場に接続)
・サブトラック、投てき練習場からの移動を考慮した競技者動線が提案されているか。	○	トンネルによるアクセスを提案
公園面積、公開空地の割合	△	範囲・面積の記載がない
・既設公園と同規模以上の面積を各区の範囲内に確保しているか。 (渋谷区:約22,000㎡、新宿区:約12,000㎡)	×	範囲・面積の記載がない。 渋谷区分は、スタジアムの配置、都道418号上空デッキの形状より、確保できる可能性が高い。新宿区分は、関連敷地も含め確保できる可能性が高い。
・「公園の再配置が可能な範囲」内に公園が配置されているか。	△	
・敷地面積の40%以上の公開空地が確保されているか。	×	範囲・面積・空地率の記載がない。
・「公開空地の確保が可能な範囲」内に公開空地が配置されているか。	△	公園範囲の設定後、建物周りも含めて確保すると考えると40%を確保できる可能性がある。
・歩行者等にとって快適で良好な位置に設けられているか。		
緑化・環境配慮・防災対策	○	地域防災対策が必要
・緑化・環境に対して、特別な提案がなされているか。	○	
・防災対策に対して、特別な提案がなされているか。	△	
防災・避難計画および法令等に抵触することが明らかな事項等	○	問題なし
・災害発生時等緊急時に対応した避難計画となっているか。	○	
・災害発生時の避難場所としての機能や動線等について配慮されているか。	○	
・その他あきらかに法令に抵触する事項があるか。	○	

技術調査の確認リスト【総括表】

項目		確認結果(○・△・×)	所見
1.「テーマ別の計画提案」に示した項目			
①臨場感あふれる観覧席に関する考え方	可動客席等に関する事	○	通常技術に基づく。 可動席方式:不明
②観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセス及び入退場動線処理に関する考え方	アクセス及び入退場動線に関する事	△	歩行者の駅との接続、車両動線の配置など不明瞭。調整を要す。
③ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方	音響環境に関する事	○	盛土に埋まった構造なので防振・遮音に非常に有利である。吸音による室内音響への配慮も伺える。
	ホスピタリティ機能等、事業計画に関する事	△	ホスピタリティ関連機能に関する具体的な提案はほぼ見あたらない。コンサート程度であり、具体的な提案に乏しい。芝生の扱いも不明。
④環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギーの多重化及び緑化等)	省エネルギー技術等に関する事	△	環境配慮に対する提案が乏しい。 有効な空調を行うための閉じた空間が構成できるか検討を要する。
⑤構造計画、屋根の架構に関する考え方	構造計画に関する事	×	スポーツ庭園部分の荷重が課題であり、これを支える支持架構に相当大幅な改善が必要である。
	屋根の架構及び開閉機構に関する事	○	詳細は不明。スタジアム天井上部のみが小割スライド方式で開閉。 可動屋根方式:小割スライド方式 仕上材:ETFE・ガラス等 (ETFEは国内で認定が取れていない。)
⑥事業費及び工期に関する考え方(事業費は、建物本体と外構部分を分けて提示すること。)	事業費(建物本体・外構部分)に関する事	×	屋上計画に過大な計画がされており、コストも計画額を超過している。維持管理についてもオイルジャッキやコンピューター制御に係る負担が懸念される。
	施工性や工期に関する事	△	屋根材料の大臣認定取得に時間を要する可能性や、開閉機構を検討する必要がある。
2.「デザイン提案条件」に規定している事項等			
施設建築物の配置(配置及び高さ)		△	部分的に規定の高さを超えている(全面的に高さ55m)／壁面後退距離が一部不足
土地利用構成		△	都営住宅敷地をアクセス・オープンスペースとして活用することの検討が必要
施設構成		△	面積不足の可能性、要調整。屋上への過大な施設配置は懸念。
スタジアムへのアクセス		△	駅との歩行者動線、車両動線が不明瞭について要調整
公園面積、公開空地の割合		△	公園・公開空地の確保について検討・調整が必要。屋上に多数の人を上げることへの懸念あり。
緑化・環境配慮・防災対策		○	地域防災対策が必要
防災・避難計画及び法令等に抵触することが明らかな事項等		△	階段の表記なし、通路等の表現もやや曖昧

技術調査の確認項目【確認項目表(1):「テーマ別の計画提案」に示した①～⑥の項目のうち技術的確認が必要な事項】

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
①-1.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (可動客席等に関すること) []	○	
1)可動席は物理的、構造的に実現可能と想定できるものか。	○	有。詳細不明だが通常技術に基づくものと推察。
2)可動席の設定範囲はほぼ適切といえるものか(極端に偏る等していないかなど)	○	可動席ユニットの組合せで対応しているようである。
3)可動席を利用していない時の雰囲気には支障はないか。	○	問題ない。
4)トラック等床面の養生等無理な方法となっていないか。		なっていない。問題ないと思われる。
6)可動席の運営に過大な費用を要する内容となっていないか。		なっていない。問題ない。
		良くわからない。
①-2.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (その他大掛かりな機構の提案) []		
(例:ピッチの分割、移動など(札幌ドームの芝面))あれば部位を記す		
・①-1と同様のチェックを行う。		
②-1.観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセスに関する考え方 []	△	歩行者の駅との接続、車両動線の配置など不明瞭。調整を要す。
1)駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。	×	・スタジアム周辺は地表からの全方向アクセスであるが、駅をつなぐ動線は現状のままであり、混雑緩和対策が必要。
2)車動線および駐車場配置の提案がなされているか。	△	・車両動線及び駐車場配置が不明瞭。西側よりVIPを誘導のコメントのみ
3)オリンピック等大規模なイベント時のアクセス等について特別な提案がなされているか。	△	・記載なし
②-2.観客等の入退場動線処理に関する考え方 []	○	
1)スタジアムの外に人だまり空間が提案されているか。	○	

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
③-1.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(音響環境)	○	盛土に埋まった構造なので防振・遮音に非常に有利である。吸音による室内音響への配慮も伺える。
1) イベント利用時の音響環境(建築音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。	○	
2) イベント利用時の音響環境(電機音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。	△	記載なし
3) イベント利用時の遮音や振動について考慮されているか。	○	
4) 屋根の開閉に対応した音響環境を考慮しているか。	△	記載なし
③-2.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(事業計画)	△	
1) ホスピタリティ機能について効果的な提案がされているか。	×	ホスピタリティ関連機能に関する具体的な提案はほぼ見当たらない。
2) 競技場施設のスポーツ以外の利活用について具体のイメージや実施方法等の提案があるか。	△	コンサート程度であり、具体的な提案に乏しい。芝生の扱いも不明。
3) 競技場周辺を含めた、イベント非開催時の商業・文化等の機能の提案、具体の展開イメージについて記載があるか	△	具体的提案なし
④.環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギー多重化及び緑化等)	△	環境配慮に対する提案が乏しい。有効な空調を行うための閉じた空間が構成できるか検討を要する。
1) 最先端の環境技術を備える提案や具体の記述が実現性をもってなされているか。	○	クールビット、地中熱利用、躯体蓄熱、自然換気、太陽光発電、居住域空調、ナイトバージ+屋根散水、雨水再利用
2) エネルギーの多重化など非常時の設備的対応について提案されているか	△	記載なし
3) ランニングコスト(LCC・LCOO2含む)や維持管理方法等について配慮されているか	△	記載なし
4) 大空間(観覧席やコンコース)の空調等の記載があるか。(実現性や効果は期待出来るか)	△	居住域空調あり。有効な空調を行うための閉じた空間が構成できるか検討を要する。
5) 有効な緑化計画がされているか。	○	グリーンランドスケープ
	△	記載なし

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
⑤-1.構造計画に関する考え方	×	1)を評価対象とし、2)3)4)は別分野での評価とし参考評価とした。
1)全体的に大空間を支えられる現実的な構造となっているか。	×	曲線トラスとなっていて、架構システムが成立しているとは考えられない。スポーツ庭園部分の荷重が課題であり、これを支える支持架構に相当大幅な改善が必要である。
2)開閉機構を支える屋根架構は、技術的に可能な提案となっているか。	×	開閉屋根の詳細がないため、開閉機構の実現性の判断が不可能である。
3)芝の管理の負担を軽減するために南側の日射を確保をした開閉機構を有する屋根架構となっているか。	×	開閉屋根の詳細がないため、南側日射を確保した屋根開閉機構であるかの判断が困難である。
4)特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっていないか。	×	オイルジャッキやコンピュータ制御のメンテナンス費用に負担が大きいと思われる。
⑤-2.屋根の架構及び開閉機構に関する考え方	○	
1)開閉式屋根の機構提案は、構造的、技術的に実現可能か。	○	スタジアム上部のみ小割スライド式で光量調節も可と思われる。
2)過大な建設費用を要することとなっていないか。		要さない。可動屋根自体はそれ程特殊ではなさそうだが、詳細は不明。
3)特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっていないか。		上記、雨漏など大丈夫か。スライド方式の詳細が不明。
		全体地区を屋根でカバー。スタジアム上部は小割スライド。
⑥-1.事業費(建物本体/外構部分)に関する考え方 (事業費)	×	屋上計画に過大な計画がされており、コストも計画額を超過している。維持管理についてもオイルジャッキやコンピュータ制御に係る負担が懸念される。
1)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動屋根)	△	詳細不明
2)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動席)	○	
3)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(外装・地下の範囲)	○	
4)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(環境配慮)	○	
5)全体的に想定価格に納まっていると言えそうか。	△(×)	
⑥-2.施工性や工期に関する考え方(工期)	△	屋根材料の大臣認定取得に時間を要する可能性や、開閉機構を検討する必要がある。
1)工期を要する特殊な要素がないか。(地下・特殊構造など)	△	工事期間の提案はあるが、詳細工程の検討が必要である。但し、スタジアムと屋根架構の同時施工の可能性の検討の余地はある。
2)現場に工事ヤードを広く必要とする工法となっていないか。(ヤードの確保は難しい)	○	問題は見当たらない。
3)設定工期での実現や工事の影響を低減するために効果的な工法の提案はあるか。	△	提案なし
4)入手が困難な材料や機器等の使用はなされていないか。	△	①屋根材料(ETFT)の大臣認定取得が必要となる可能性が高い。 ②可動屋根の開閉機構も検討する必要がある。
5)品質に支障をきたす要素がないか。	○	提案の内容には、特には見当たらない。

技術調査の確認項目【確認項目表(2):「Ⅱ.デザイン提案条件」に規定している事項】

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
施設建築物の配置(配置及び高さ)	△	高さ制限超え
・スタジアムは施設建築範囲内に建築されているか。	○	
・各位置における最高高さの制限は満たしているか。	×	屋根が高さ制限を超えている(フラットな屋根で全面的に高さ約55m)
・敷地境界線から8mの後退距離を確保しているか。	△	区道43-670側で一部後退距離が不足(第二球場付近)
土地利用構成	△	都営住宅跡地をアクセスとして活用することを検討する。
・規定の範囲内の土地利用がされているか。	△	プランは要項の規定におおむね適合しているが、都営住宅跡地をアクセスとして活用する意図は窺えない。また、配置図に都営住宅が存置されており、全体で整合が取れていない。
・関連敷地に新たに建築建築物(人工地盤等の工作物を除く)を建築していないか。	○	要項に抵触するような提案はない。
施設構成	△	面積不足の可能性、要調整。屋上への過大な施設配置は懸念。
・観客席が8万席以上確保されているか。	△	面積不足の可能性あり。要調整。
・規定の施設構成(導入機能と規模)が確保されているか。	△	ゾーニングが不明瞭。屋上への過大な施設配置は懸念。
・ラグビー、サッカー、陸上競技等の関連規定を満たすフィールドが設けられているか。	×	フィールド面積が不足。
スタジアムへのアクセス	△	駅との歩行者動線、車両動線が不明瞭について要調整
・駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。	×	・スタジアム周辺は地表からの全方向アクセスであるが、駅をつなぐ動線は現状のままであり、混雑緩和対策が必要。
・車両のメインアクセスは都道418号(外苑西通り)側に設置されているか。	△	・車両動線が不明瞭。西側よりVIPを誘導のコメントのみ
・サブトラック、投てき練習場からの移動を考慮した競技者動線が提案されているか。	△	・競技者動線の記述なし(観客動線はあり)
公園面積、公開空地の割合	△	公園・公開空地の確保について検討・調整が必要。屋上に多数の人を上げることへの懸念あり。
・既設公園と同規模以上の面積を各区の範囲内に確保しているか。 (渋谷区:約22,000㎡、新宿区:約12,000㎡)	×	範囲・面積の記載がない。 渋谷区は、地上部が屋根下に相当するので公園と扱えない場合、確保は難しい。新宿区は関連敷地を中心に確保できる可能性が高い。
・「公園の再配置が可能な範囲」内に公園が配置されているか。	△	
・敷地面積の40%以上の公開空地が確保されているか。	×	範囲・面積・空地率の記載がない。
・「公開空地の確保が可能な範囲」内に公開空地が配置されているか。	△	公園範囲の設定後、建物周りも含めて確保すると考えると40%を確保できる可能性がある。屋上に多数の人を上げることの安全性は懸念。
・歩行者等にとって快適で良好な位置に設けられているか。		
緑化・環境配慮・防災対策	○	地域防災対策が必要
・緑化・環境に対して、特別な提案がなされているか。	○	
・防災対策に対して、特別な提案がなされているか。	△	記載なし
防災・避難計画および法令等に抵触することが明らかな事項等	△	階段の表記なし、通路等の表現もやや曖昧
・災害発生時等緊急時に対応した避難計画となっているか。	△	階段の表記なし、通路等の表現もやや曖昧
・災害発生時の避難場所としての機能や動線等について配慮されているか。	○	
・その他あきらかに法令に抵触する事項があるか。	○	

技術調査の確認リスト【総括表】

項目		確認結果(○・△・×)	所見
1.「テーマ別の計画提案」に示した項目			
①臨場感あふれる観覧席に関する考え方	可動客席等に関すること	△	無。ただ、RoofMember上部に360°スクリーンがあり臨場感有。 可動席方式:無
②観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセス及び入退場動線処理に関する考え方	アクセス及び入退場動線に関すること	△	区道43-670の廃道の有無について要確認。駐車場配置及び人溜まり空間配置について、調整が必要。
③ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方	音響環境に関すること	△	記載なし
	ホスピタリティ機能等、事業計画に関すること	△	クラブスイーツ、家族用のスイートルーム、屋内外の部屋等、関連諸室として100室程度の確保があり十分。会議室等、収益施設としての提案もある。ただし賑わい創出に関する具体的な提案は乏しい
④環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギーの多重化及び緑化等)	省エネルギー技術等に関すること	○	環境技術に対して十分提案されている。 LCCについての提案がある。
⑤構造計画、屋根の架構に関する考え方	構造計画に関すること	△	部材の強化や中央リングの中にも部材が必要であり、架構の十分な検討が必要である。
	屋根の架構及び開閉機構に関すること	○	独立した支持構造と、Φ140mの球面の一部を5分割したユニットが動く。 上部中央はガラスはめこるし。(PTFEは国内で認定が取れていない。) 開閉の動作性について十分検討が必要である。 可動屋根方式:スライド方式(5分割)
⑥事業費及び工期に関する考え方(事業費は、建物本体と外構部分を分けて提示すること。)	事業費(建物本体・外構部分)に関すること	○	
	施工性や工期に関すること	○	屋根の雨水処理方法の検討が必要である。また、屋根材料の大臣認定取得に時間を要する可能性や、開閉機構を検討する必要がある。 全体的には実現可能と思われる。
2.「デザイン提案条件」に規定している事項等			
施設建築物の配置(配置及び高さ)		△	建築範囲、高さ制限超え、要調整
土地利用構成		△	都営住宅跡地への施設(パビリオン)建設は要見直し。
施設構成		○	
スタジアムへのアクセス		○	43-670区道を廃道しているのかどうか、要確認。
公園面積、公開空地の割合		△	公園・公開空地の確保について検討・調整が必要。
緑化・環境配慮・防災対策		△	巨大な水盤の大規模性、防災対策について要調整
防災・避難計画及び法令等に抵触することが明らかな事項等		○	

技術調査の確認項目【確認項目表(1):「テーマ別の計画提案」に示した①～⑥の項目のうち技術的確認が必要な事項】

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
①-1.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (可動客席等に関すること) [REDACTED]	△	無
1)可動席は物理的、構造的に実現可能と想定できるものか。		
2)可動席の設定範囲はほぼ適切といえるものか(極端に偏る等していないかなど)		
3)可動席を利用していない時の雰囲気と支障はないか。		
4)トラック等床面の養生等無理な方法となっていないか。		
5)可動席の運営に過大な費用を要する内容となっていないか。		
		RoofMember上部に360° 方向スクリーンがありイメージはダイナミック。
①-2.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (その他大掛かりな機構の提案) [REDACTED]		
(例:ピッチの分割、移動など(札幌ドームの芝面))あれば部位を記す		
①-1と同様のチェックを行う。		
②-1.観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセスに関する考え方 [REDACTED]	△	区道43-670の廃道の有無について要確認。駐車場配置について、調整が必要。
1)駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。	○	周辺4駅からのアクセス数約60000人と想定。
2)車動線および駐車場配置の提案がなされているか。	△	43-670区道を廃道しているように見え、要確認。駐車場量を城外駐車場とセットで満たす方策のため、調整を要す。
3)オリンピック等大規模なイベント時のアクセス等について特別な提案がなされているか。	△	記載なし
②-2.観客等の入退場動線処理に関する考え方 [REDACTED]	△	人溜まり空間の拡張余地がなく、調整が必要
1)スタジアムの外に人だまり空間が提案されているか。	△	スタジアム建屋の周りを水盤で囲んでおり、人溜まり空間の拡張余地が無く調整が必要。

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
③-1.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(音響環境) XXXXXXXXXX	△	記載なし
1) イベント利用時の音響環境(建築音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。	△	記載なし
2) イベント利用時の音響環境(電機音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。	△	記載なし
3) イベント利用時の遮音や振動について考慮されているか。	△	記載なし
4) 屋根の開閉に対応した音響環境を考慮しているか。	△	記載なし
③-2.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(事業計画) XXXXXXXXXX	△	
1) ホスピタリティ機能について効果的な提案がされているか。	○	クラブスイーツ、家族用のスイートルーム、屋内外の部屋等、関連諸室として100室程度の確保があり十分。
2) 競技場施設のスポーツ以外の利活用について具体のイメージや実施方法等の提案があるか。	△	会議室等、収益施設としての提案もある。
3) 競技場周辺を含めた、イベント非開催時の商業・文化等の機能の提案、具体の展開イメージについて記載があるか	×	賑わい創出に関する具体的な提案は乏しい
④.環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギー多重化及び緑化等) XXXXXXXXXX	○	環境技術に対して十分提案されている。LCCについての提案がある。
1) 最先端の環境技術を備える提案や具体の記述が実現性をもってなされているか。	○	地熱利用、雨水再利用、ダブルスキン・池を利用した自然換気、自然採光
2) エネルギーの多重化など非常時の設備的対応について提案されているか	△	記載なし
3) ランニングコスト(LCC・LCCO2含む)や維持管理方法等について配慮されているか	○	Building Management Tool
4) 大空間(観覧席やコンコース)の空調等の記載があるか。(実現性や効果は期待出来るか)	△	記載なし
5) 有効な緑化計画がされているか。	○	水景
	△	記載なし

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
⑤-1.構造計画に関する考え方	△	1)を評価対象とし、2)3)4)は別分野での評価とし参考評価とした。
1)全体的に大空間を支えられる現実的な構造となっているか。	△	架構システムは成立する。ただし、300mスパンでは全体的に架構計画の強化のため、部材の強化や中央リングの中にも部材が必要である。
2)開閉機構を支える屋根架構は、技術的に可能な提案となっているか。	△	骨に沿ったスライドによって屋根の開閉を可能としており、実現性はあると考えられる。
3)芝の管理の負担を軽減するために南側の日射を確保した開閉機構を有する屋根架構となっているか。	△	南側日射を確保した開閉機構とはなっていない。しかし、屋根膜の透過性によって確保しようとしているため、材料の透過率の確認が必要である。
4)特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっていないか。	○	
⑤-2.屋根の架構及び開閉機構に関する考え方	○	
1)開閉式屋根の機構提案は、構造的、技術的に実現可能か。		有。中先部はガラス屋根φ140m5分割のユニットが開閉する。
2)過大な建設費用を要することとなっていないか。		要さない。実現可と思われる。
3)特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっていないか。		なっていない。独立した支持構造が設置されている。問題はないと思う。
		ユニークな形の開閉式。
⑥-1.事業費(建物本体/外構部分)に関する考え方 (事業費)	○	
1)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動屋根)	○	スライド機構に検討の余地あり。
2)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動席)	△	詳細不明
3)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(外装・地下の範囲)	○	
4)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(環境配慮)	○	
5)全体的に想定価格に納まっていると言えそうか。	○	
⑥-2.施工性や工期に関する考え方 (工期)	○	屋根の雨水処理方法の検討が必要である。また、屋根材料の大臣認定取得に時間を要する可能性や、開閉機構を検討する必要がある。 全体的には実現可能と思われる。
1)工期を要する特殊な要素がないか。(地下・特殊構造など)	○	実現性はある。
2)現場に工事ヤードを広く必要とする工法となっていないか。(ヤードの確保は難しい)	○	問題は見当たらない。
3)設定工期での実現や工事の影響を低減するために効果的な工法の提案はあるか。	△	提案なし
4)入手が困難な材料や機器等の使用はなされていないか。	△	①屋根の雨水処理の機構に検討が必要である。 ②屋根材料(PTFT)の大臣認定取得が必要となる可能性が高い。
5)品質に支障をきたす要素がないか。	○	提案の内容には、特には見当たらない。

技術調査の確認項目【確認項目表(2):「Ⅱ.デザイン提案条件」に規定している事項】

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
施設建築物の配置(配置及び高さ)	△	建築範囲、高さ制限超え、要調整
・スタジアムは施設建築範囲内に建築されているか。	×	施設建築範囲を超えて提案(建国記念文庫まで含めて提案)
・各位置における最高高さの制限は満たしているか。	×	最高高さ制限を超えている(約80m)
・敷地境界線から8mの後退距離を確保しているか。	△	規定の後退距離は満たしているが、敷地形状を変更している
土地利用構成	△	都営住宅跡地への施設(パビリオン)建設は要見直し。
・規定の範囲内の土地利用がされているか。	×	都営住宅跡地にパビリオンを建設しており、関連敷地で規定の範囲内の土地利用がなされていない。
・関連敷地に新たに建築建築物(人工地盤等の工作物を除く)を建築していないか。	×	都営住宅跡地にパビリオンを建築する提案となっている。
施設構成	○	
・観客席が8万席以上確保されているか。	○	
・規定の施設構成(導入機能と規模)が確保されているか。	△	ゾーニングが不明瞭。
・ラグビー、サッカー、陸上競技等の関連規定を満たすフィールドが設けられているか。	○	
スタジアムへのアクセス	○	43-670区道を廃道しているのかどうか、要確認。
・駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。	○	周辺4駅からのアクセス数約60000人(退場時は1時間内)と想定。
・車両のメインアクセスは都道418号(外苑西通り)側に設置されているか。	△	外苑西通りに出入口2ヶ所(一般車、その他)。但し、43-670区道を廃道しているように見え、要確認
・サブトラック、投てき練習場からの移動を考慮した競技者動線が提案されているか。	△	サブトラック側への地下空間でつなぐ図、区道43-670上空にデッキ(区道を廃道にしているか)でもつなぐ
公園面積、公開空地の割合	△	公園・公開空地の確保について検討・調整が必要。
・既設公園と同規模以上の面積を各区の範囲内に確保しているか。 (渋谷区:約22,000㎡、新宿区:約12,000㎡)	×	範囲・面積の記載がない。 渋谷区分は、スタジアムの配置、都道418号上空デッキの形状より、確保できる可能性がある。新宿区分の確保のため、関連敷地を公園とすることを検討する必要がある。
・「公園の再配置が可能な範囲」内に公園が配置されているか。	△	
・敷地面積の40%以上の公開空地が確保されているか。	×	範囲・面積・空地率の記載がない。
・「公開空地の確保が可能な範囲」内に公開空地が配置されているか。	△	公園範囲の設定後、建物周りも含めて確保すると考えても、水面が多く計画されているため、40%を確保できない可能性がある。
・歩行者等にとって快適で良好な位置に設けられているか。		
緑化・環境配慮・防災対策	△	巨大な水盤の大規模性、防災対策について要調整
・緑化・環境に対して、特別な提案がなされているか。	△	巨大な水盤の設置と敷地外周に緑化されているが、水盤の大規模性について要調整。
・防災対策に対して、特別な提案がなされているか。	△	記載なし
防災・避難計画および法令等に抵触することが明らかな事項等	○	問題なし
・災害発生時等緊急時に対応した避難計画となっているか。	○	
・災害発生時の避難場所としての機能や動線等について配慮されているか。	○	
・その他あきらかに法令に抵触する事項があるか。	○	

技術調査の確認リスト【総括表】

項目		確認結果(○・△・×)	所見
1.「テーマ別の計画提案」に示した項目			
①臨場感あふれる観覧席に関する考え方	可動客席等に関すること	○	ロールバック方式。通常のもの。 可動席方式:ロールバック方式
②観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセス及び入退場動線処理に関する考え方	アクセス及び入退場動線に関すること	○	駐車台数、マラソンゲートについて要調整
③ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方	音響環境に関すること	○	吸音(屋根・天井)による室内音響への配慮と、客席部～外壁の開閉制御による遮音性能確保がなされている。
	ホスピタリティ機能等、事業計画に関すること	△	ホスピタリティ関連機能として26,760㎡を確保。商業機能等が南側に集中配置されている点を評価。
④環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギーの多重化及び緑化等)	省エネルギー技術等に関すること	△	環境配慮に対する提案が乏しい。
⑤構造計画、屋根の架構に関する考え方	構造計画に関すること	○	大スパン空間を構成するトラス部材の増強、トラスせいを大きくするなどの検討の必要がある。
	屋根の架構及び開閉機構に関すること	○	Φ120mの屋根がレール上を動く。構造はシンプル。 可動屋根方式:全体スライド方式 仕上材:膜
⑥事業費及び工期に関する考え方(事業費は、建物本体と外構部分を分けて提示すること。)	事業費(建物本体・外構部分)に関すること	○	
	施工性や工期に関すること	○	全体的には実現可能と思われる。
2.「デザイン提案条件」に規定している事項等			
施設建築物の配置(配置及び高さ)		○	
土地利用構成		○	屋上の活用は安全性に配慮する必要がある
施設構成		○	座席勾配が約40度。
スタジアムへのアクセス		○	
公園面積、公開空地の割合		○	屋上を開放し、大勢の人を上げる計画(安全性の確保)
緑化・環境配慮・防災対策		○	地域防災対策が必要
防災・避難計画及び法令等に抵触することが明らかな事項等		△	upper deck上部席からの避難時間が長い

技術調査の確認項目【確認項目表(1):「テーマ別の計画提案」に示した①～⑥の項目のうち技術的確認が必要な事項】

確 認 事 項	確 認 結 果 (○・△・×)	所 見
①-1.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (可動客席等に関すること) ■■■■	○	
1)可動席は物理的、機構的に実現可能と想定できるものか。	○	ロールバック方式。通常方式。
2)可動席の設定範囲はほぼ適切といえるものか(極端に偏る等していないかなど)	○	
3)可動席を利用していない時の雰囲気には支障はないか。	○	
4)トラック等床面の養生等無理な方法となっていないか。		なっていない。
5)可動席の運営に過大な費用を要する内容となっていないか。		なっていない。
		可動席はオーソドックス
①-2.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (その他大掛かりな機構の提案) ■■■■		
(例:ピッチの分割、移動など(札幌ドームの芝面))あれば部位を記す		
・①-1と同様のチェックを行う。		
②-1.観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセスに関する考え方 ■■■■	○	駐車台数、マラソンゲートについて要調整
1)駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。	○	
2)車動線および駐車場配置の提案がなされているか。	○	駐車台数1600台の必要性について要調整
3)オリンピック等大規模なイベント時のアクセス等について特別な提案がなされているか。	△	マラソンゲート接続が1ヶ所しかない
②-2.観客等の入退場動線処理に関する考え方 ■■■■	○	
1)スタジアムの外に人だまり空間が提案されているか。	○	

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
③-1.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(音響環境)	○	吸音(屋根・天井)による室内音響への配慮と、客席部～外壁の開閉制御による遮音性能確保がなされている。
1) イベント利用時の音響環境(建築音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。	○	
2) イベント利用時の音響環境(電機音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。	△	記載なし
3) イベント利用時の遮音や振動について考慮されているか。	○	
4) 屋根の開閉に対応した音響環境を考慮しているか。	△	記載なし
③-2.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(事業計画)	△	
1) ホスピタリティ機能について効果的な提案がされているか。	○	ホスピタリティ関連機能として28,760㎡を確保。
2) 競技場施設のスポーツ以外の利活用について具体的なイメージや実施方法等の提案があるか。	△	コンサート開催程度の記載
3) 競技場周辺を含めた、イベント非開催時の商業・文化等の機能の提案、具体の展開イメージについて記載があるか	○	商業機能等が南側に集中配置されている点を評価
④.環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギー多重化及び緑化等)	△	環境配慮に対する提案が乏しい。
1) 最先端の環境技術を備える提案や具体の記述が実現性をもってなされているか。	○	自然換気、クールチューブ、居住域空調(換気)、屋上緑化への散水による蒸発潜熱利用、雨水再利用、太陽光発電、自然採光
2) エネルギーの多重化など非常時の設備的対応について提案されているか	△	記載なし
3) ランニングコスト(LCC・LCCO2含む)や維持管理方法等について配慮されているか	△	記載なし
4) 大空間(観覧席やコンコース)の空調等の記載があるか。(実現性や効果は期待出来るか)	○	居住域空調
5) 有効な緑化計画がされているか。	○	屋上緑化
	△	記載なし

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
⑤-1.構造計画に関する考え方	○	1)を評価対象とし、2)3)4)は別分野での評価とし参考評価とした。
1)全体的に大空間を支えられる現実的な構造となっているか。	○	トラスと張弦梁構造で成立している。大スパン空間を構成するトラス部材の増強、トラスせいを大きくするなどの検討の必要がある。
2)開閉機構を支える屋根架構は、技術的に可能な提案となっているか。	○	開閉屋根は水平移動のため安定したスライド方式で実現可能と思われる。
3)芝の管理の負担を軽減するために南側の日射を確保した開閉機構を有する屋根架構となっているか。	△	日射面積が小さい。楕円形など面積を拡大する必要がある。
4)特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっていないか。	○	
⑤-2.屋根の架構及び開閉機構に関する考え方	○	
1)開閉式屋根の機構提案は、構造的、技術的に実現可能か。	○	Φ120mの膜がレール上を可動。可動屋根オープン時の支持部はフェスティバルスポーツプラザを形式。
2)過大な建設費用を要することとなっていないか。		要さない。構造物は大型化するが、可動形式、構造はシンプル。
3)特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっていないか。		なっていない。構造物は大型化するが、可動形式、構造はシンプル。
		構造はシンプルだが、シールとかは？密閉性。
⑥-1.事業費(建物本体／外構部分)に関する考え方 (事業費)	○	
1)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動屋根)	○	
2)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動席)	○	
3)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(外装・地下の範囲)	○	素材の選定によってはコスト検討の必要がある。
4)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(環境配慮)	○	
5)全体的に想定価格に納まっていると言えそうか。	○	
⑥-2.施工性や工期に関する考え方 (工期)	○	全体的には実現可能と思われる。
1)工期を要する特殊な要素がないか。(地下・特殊構造など)	○	実現性はある。
2)現場に工事ヤードを広く必要とする工法となっていないか。(ヤードの確保は難しい)	○	問題は見当たらない。
3)設定工期での実現や工事の影響を低減するために効果的な工法の提案はあるか。	△	提案なし
4)入手が困難な材料や機器等の使用はなされていないか。	○	特には見当たらない。
5)品質に支障をきたす要素がないか。	○	提案の内容には、特には見当たらない。

技術調査の確認項目【確認項目表(2):「Ⅱ.デザイン提案条件」に規定している事項】

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
施設建築物の配置(配置及び高さ)	○	
・スタジアムは施設建築範囲内に建築されているか。	○	
・各位置における最高高さの制限は満たしているか。	○	
・敷地境界線から8mの後退距離を確保しているか。	○	
土地利用構成	○	
・規定の範囲内の土地利用がされているか。	○	要項の規定に適合している。
・関連敷地に新たに建築建築物(人工地盤等の工作物を除く)を建築していないか。	○	要項に抵触するような提案はない。
		屋上の活用は安全性に配慮する必要がある
施設構成	○	
・観客席が8万席以上確保されているか。	△	座席勾配が約40度。
・規定の施設構成(導入機能と規模)が確保されているか。	○	
・ラグビー、サッカー、陸上競技等の関連規定を満たすフィールドが設けられているか。	○	
スタジアムへのアクセス	○	
・駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。	○	
・車両のメインアクセスは都道418号(外苑西通り)側に設置されているか。	○	バス出入口、一般車出入口を外苑西通り側に、別々に設置、区道43-690、43-690にも出入口が3ヶ所(VIP用、一般車用、その他)
・サブトラック、投てき練習場からの移動を考慮した競技者動線が提案されているか。	○	区道43-670側にスロープ設置
公園面積、公開空地の割合	○	
・既設公園と同規模以上の面積を各区の範囲内に確保しているか。 (渋谷区:約22,000㎡、新宿区:約12,000㎡)	○	範囲・面積が明示されており、両区とも確保可能範囲に確保されている。
・「公園の再配置が可能な範囲」内に公園が配置されているか。	○	渋谷区分は、都道418号上空デッキが中心である。新宿区分は、関連敷地が中心である。
・敷地面積の40%以上の公開空地が確保されているか。	○	範囲・面積・空地率が明示されており、40%を確保している。
・「公開空地の確保が可能な範囲」内に公開空地が配置されているか。	○	地盤面、デッキ面、屋上の3層で確保しており、確保可能範囲内である。屋上利用の安全性確保には留意が必要。
・歩行者等にとって快適で良好な位置に設けられているか。		
緑化・環境配慮・防災対策	○	防災対策が必要
・緑化・環境に対して、特別な提案がなされているか。	○	
・防災対策に対して、特別な提案がなされているか。	△	防災対策が必要
防災・避難計画および法令等に抵触することが明らかな事項等	△	upper deck上部席からの避難時間が長い
・災害発生時等緊急時に対応した避難計画となっているか。	△	upper deck上部席からの避難時間が長い
・災害発生時の避難場所としての機能や動線等について配慮されているか。	○	
・その他あきらかに法令に抵触する事項があるか。	○	

技術調査の確認リスト【総括表】

項目		確認結果(○・△・×)	所見
1.「テーマ別の計画提案」に示した項目			
①臨場感あふれる観覧席に関する考え方	可動客席等に関すること	○	全体集態度＋一部昇降 可動席方式全体スライド方式＋一部
②観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセス及び入退場動線処理に関する考え方	アクセス及び入退場動線に関すること	○	
③ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方	音響環境に関すること	△	側面を閉塞すべき。
	ホスピタリティ機能等、事業計画に関すること	○	VIP BOX TOP 有 コンコース、スカイボックス、レストラン、カフェ、ラウンジ、バー — 全80室程度。高齢者・障がい者対応。可動式の芝を備えスポーツ以外の利用に適している。また、多様な動線計画を備える。学校・博物館・商業施設等を機能的に配置している。
④環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギーの多重化及び緑化等)	省エネルギー技術等に関すること	○	環境技術に対して十分提案されている。 大空間の空調に配慮した計画となっている。 移動型芝生成システムが提案されている。 <芝生>外部に引き出す、移動型芝生成システム
⑤構造計画、屋根の架構に関する考え方	構造計画に関すること	○	部材の増強、高ライズ化など十分な検討が必要である。
	屋根の架構及び開閉機構に関すること	○	分割折りたたみ方式。開口面積調整可。耐久性、メンテ性にやや不安有。 可動屋根方式:分割折りたたみ方式 仕上材:膜
⑥事業費及び工期に関する考え方(事業費は、建物本体と外構部分を分けて提示すること。)	事業費(建物本体・外構部分)に関すること	○	全体的に実現性はあると思われるが、芝可動システムの維持管理費に課題がある。
	施工性や工期に関すること	○	全体的には実現可能と思われる。
2.「デザイン提案条件」に規定している事項等			
施設建築物の配置(配置及び高さ)		○	区道43-670号の線形が変更されている点は見直しが必要
土地利用構成		△	都営住宅跡地を芝生養生スペース兼水盤。 アクセス・オープンスペース利用上は課題あり。
施設構成		○	
スタジアムへのアクセス		○	
公園面積、公開空地の割合		○	公園・公開空地の確保について検討・調整が必要。
緑化・環境配慮・防災対策		○	地域防災対策が必要
防災・避難計画及び法令等に抵触することが明らかな事項等		○	

技術調査の確認項目【確認項目表(1):「テーマ別の計画提案」に示した①～⑥の項目のうち技術的確認が必要な事項】

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
①-1.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (可動客席等に関すること) []	○	
1)可動席は物理的、機構的に実現可能と想定できるものか。	○	全体スライド式＋一部昇降
2)可動席の設定範囲はほぼ適切といえるものか(極端に偏る等していないかなど)	○	
3)可動席を利用していない時の雰囲気には支障はないか。	○	
4)トラック等床面の養生等無理な方法となっていないか。		使用しないときは、屋外に可動可。
5)可動席の運営に過大な費用を要する内容となっていないか。		ピッチ可動システム分高価と思われる。
①-2.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (その他大掛かりな機構の提案) []		
(例:ピッチの分割、移動など(札幌ドームの芝面))あれば部位を記す		
・①-1と同様のチェックを行う。		
②-1.観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセスに関する考え方 []	○	
1)駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。	○	
2)車動線および駐車場配置の提案がなされているか。	○	
3)オリンピック等大規模なイベント時のアクセス等について特別な提案がなされているか。	△	記載なし
②-2.観客等の入退場動線処理に関する考え方 []	○	
1)スタジアムの外に人だまり空間が提案されているか。	○	

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
③-1.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(音響環境)	△	側面を閉塞すべき。
1) イベント利用時の音響環境(建築音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。	△	記載なし
2) イベント利用時の音響環境(電機音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。	△	記載なし
3) イベント利用時の遮音や振動について考慮されているか。	○	
4) 屋根の開閉に対応した音響環境を考慮しているか。	△	記載なし
③-2.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(事業計画)	○	
1) ホスピタリティ機能について効果的な提案がされているか。	○	VIP BOX TOP 有 コンコース、スカイボックス、レストラン、カフェ、ラウンジ、バー —全80室程度。高齢者・障がい者対応。
2) 競技場施設のスポーツ以外の利活用について具体的なイメージや実施方法等の提案があるか。	○	可動式の芝を備えスポーツ以外の利用に適している。また、多様な動線計画を備える。
3) 競技場周辺を含めた、イベント非開催時の商業・文化等の機能の提案、具体的な展開イメージについて記載があるか	○	学校・博物館・商業施設等を機能的に配置している。
④.環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギー多重化及び緑化等)	○	環境技術に対して十分提案されている。大空間の空調に配慮した計画となっている。移動型芝生育成システムが提案されている。
1) 最先端の環境技術を備える提案や具体の記述が実現性をもってなされているか。	○	ドライミスト、雨水再利用、地下水利用(蒸発潜熱利用)、太陽光発電、太陽熱給湯、自然換気、クールビット、地熱利用
2) エネルギーの多重化など非常時の設備の対応について提案されているか	△	記載なし
3) ランニングコスト(LCC・LCCO2含む)や維持管理方法等について配慮されているか	△	記載なし
4) 大空間(観覧席やコンコース)の空調等の記載があるか。(実現性や効果は期待出来るか)	○	居住域空調(床吹出し)
5) 有効な緑化計画がされているか。	○	緑化、水景
	○	移動型芝生育成システムが提案されている。

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
⑤-1.構造計画に関する考え方	○	1)を評価対象とし、2)3)4)は別分野での評価とし参考評価とした。
1)全体的に大空間を支えられる現実的な構造となっているか。	○	架構システムは成立する。部材の増強、高ライズ化など十分な検討が必要である。
2)開閉機構を支える屋根架構は、技術的に可能な提案となっているか。	△	折りたたみ屋根としてスパンが長く、屋根剛性が必要なため屋根板の厚みが相当必要であり、実現性に乏しい。
3)芝の管理の負担を軽減するために南側の日射を確保した開閉機構を有する屋根架構となっているか。	△	若干、南側日射を確保した開閉機構とはなっている。しかし、固定屋根膜の透過性、折りたたみ後の有効開口部面積の確認が必要と思われる。
4)特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっていないか。	○	
⑤-2.屋根の架構及び開閉機構に関する考え方	○	
1)開閉式屋根の機構提案は、構造的、技術的に実現可能か。	○	分割折りたたみ方式。開口面積調整可。
2)過大な建設費用を要することとなっていないか。		要さない。可能であると思われる。
3)特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっていないか。		膜の耐久性。メンテナンスはやや不安。
⑥-1.事業費(建物本体/外構部分)に関する考え方 (事業費)	○	全体的に実現性はあると思われるが、芝可動システムの維持管理費に課題がある。
1)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動屋根)	○	
2)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動席)	○	芝可動システムの維持管理費に課題がある
3)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(外装・地下の範囲)	○	
4)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(環境配慮)	○	
5)全体的に想定価格に納まっていると言えそうか。	○	
⑥-2.施工性や工期に関する考え方 (工期)	○	全体的には実現可能と思われる。
1)工期を要する特殊な要素がないか。(地下・特殊構造など)	○	実現性はある。
2)現場に工事ヤードを広く必要とする工法となっていないか。(ヤードの確保は難しい)	○	問題は見当たらない。
3)設定工期での実現や工事の影響を低減するために効果的な工法の提案はあるか。	△	提案なし
4)入手が困難な材料や機器等の使用はなされていないか。	△	芝生の搬送ルートや、移動機構の検討の必要がある。
5)品質に支障をきたす要素がないか。	○	提案の内容には、特には見当たらない。

技術調査の確認項目【確認項目表(2):「Ⅱ.デザイン提案条件」に規定している事項】

確 認 事 項	確 認 結 果 (○・△・×)	所 見
施設建築物の配置(配置及び高さ)	○	
・スタジアムは施設建築範囲内に建築されているか。	○	区道43-670号の線形が変更されている。
・各位置における最高高さの制限は満たしているか。	○	
・敷地境界線から8mの後退距離を確保しているか。	○	
土地利用構成	×	都営住宅跡地を芝生養生スペース兼水盤であり、規制の土地利用範囲を逸脱
・規定の範囲内の土地利用がされているか。	×	関連敷地(都営住宅)を芝生養生スペース兼水盤としており、アクセス・オープンスペース利用の検討が必要。また、区道43-670号の線形が変更されている。
・関連敷地に新たに建築建築物(人工地盤等の工作物を除く)を建築していないか。	○	要項に抵触するような提案はない。
施設構成	○	
・観客席が8万席以上確保されているか。	○	
・規定の施設構成(導入機能と規模)が確保されているか。	○	
・ラグビー、サッカー、陸上競技等の関連規定を満たすフィールドが設けられているか。	△	陸上競技では長辺方向両側が狭い。
スタジアムへのアクセス	○	
・駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。	○	周辺5駅と52451(人/時)の提案。
・車両のメインアクセスは都道418号(外苑西通り)側に設置されているか。	○	外苑西通り側、東側の区道43-670側に各2カ所ずつ出入口を設置、VIP・選手・メディア・サービス等の分散配置(計画提案書より)
・サブトラック、投てき練習場からの移動を考慮した競技者動線が提案されているか。	△	競技者動線の記述なし(図面上では南西方面に通路があるが詳細不明)
公園面積、公開空地の割合	○	公園と公開空地の重複指定の整理が必要
・既設公園と同規模以上の面積を各区の範囲内に確保しているか。 (渋谷区:約22,000㎡、新宿区:約12,000㎡)	○	範囲・面積が明示されており、両区とも確保可能範囲に確保されている。
・「公園の再配置が可能な範囲」内に公園が配置されているか。	○	渋谷区分は、スタジアムの配置・形状から、都道418号上空デッキを最大限活用しても確保できない可能性がある。新宿区分は、公開空地の確保を勘案すると、確保できない可能性がある。関連敷地の有効活用を検討する必要がある。
・敷地面積の40%以上の公開空地が確保されているか。	△	範囲・面積・空地率が明示されており、40%を確保しているが、公園と重複カウントされている。
・「公開空地の確保が可能な範囲」内に公開空地が配置されているか。	○	公園範囲の設定後、建物周りも含めて確保すると考えると確保可能範囲内に40%を確保できる可能性がある。
・歩行者等にとって快適で良好な位置に設けられているか。		
緑化・環境配慮・防災対策	○	地域防災対策が必要
・緑化・環境に対して、特別な提案がなされているか。	○	
・防災対策に対して、特別な提案がなされているか。	△	記載なし
防災・避難計画および法令等に抵触することが明らかな事項等	○	
・災害発生時等緊急時に対応した避難計画となっているか。	○	
・災害発生時の避難場所としての機能や動線等について配慮されているか。	○	
・その他あきらかに法令に抵触する事項があるか。	○	

技術調査の確認リスト【総括表】

項目		確認結果(○・△・×)	所見
1.「テーマ別の計画提案」に示した項目			
①臨場感あふれる観覧席に関する考え方	可動客席等に関する事	△	無。周囲のスクリーンで臨場感を演出していると思われる。 可動席方式:無
②観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセス及び入退場動線処理に関する考え方	アクセス及び入退場動線に関する事	△	駅からの歩道橋幅員、区道43-670号の線形変更、人溜まり空間の拡張など要調整
③ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方	音響環境に関する事	△	記載なし
	ホスピタリティ機能等、事業計画に関する事	△	ホスピタリティ関連諸室として1,000人～3,000人のルームを確保。その他の機能は、機能的な提案ではない。
④環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギーの多重化及び緑化等)	省エネルギー技術等に関する事	△	環境配慮に対する提案が乏しい。
⑤構造計画、屋根の架構に関する考え方	構造計画に関する事	△	スラスト処理のため部材の追加、メッシュのトラス化などの部材の増強、トラス架構の面外抵抗などの十分な検討が必要である。
	屋根の架構及び開閉機構に関する事	○	短辺スライド方式。オーソドックス。(ETFEは国内で認定が取れていない。) 可動屋根方式:短辺スライド方式 仕上材:ETFE
⑥事業費及び工期に関する考え方(事業費は、建物本体と外構部分を分けて提示すること。)	事業費(建物本体・外構部分)に関する事	○	掘削深さが-15m程度あるため、工期、コストへの影響の懸念される。
	施工性や工期に関する事	△	提案の掘り下げた計画であれば、工期内での完成が厳しいと思われる。また、屋根材料(ETFT)の大臣認定取得が必要となる可能性が高い。
2.「デザイン提案条件」に規定している事項等			
施設建築物の配置(配置及び高さ)		△	建築範囲超え(区道43-470の線形が変更されている＝敷地形状の変更)
土地利用構成		△	都営住宅敷地をアクセス・オープンスペースとして活用することの検討が必要
施設構成		△	観客席数が不足(推定:70,000席)
スタジアムへのアクセス		△	千駄ヶ谷駅信濃町駅とつながるダイレクト歩道橋の幅員、区道43-470の線形変更等、要調整。
公園面積、公開空地の割合		△	公園・公開空地の確保について検討・調整が必要
緑化・環境配慮・防災対策		○	地域防災対策が必要
防災・避難計画及び法令等に抵触することが明らかな事項等		○	

技術調査の確認項目【確認項目表(1):「テーマ別の計画提案」に示した①～⑥の項目のうち技術的確認が必要な事項】

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
①-1.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (可動客席等に関する事) [REDACTED]	△	
1)可動席は物理的、構造的に実現可能と想定できるものか。		
2)可動席の設定範囲はほぼ適切といえるものか(極端に偏る等していないかなど)		
3)可動席を利用していない時の雰囲気には支障はないか。		
4)トラック等床面の養生等無理な方法となっていないか。		
5)可動席の運営に過大な費用を要する内容となっていないか。		
		無。可動屋根支持構造側面に設置されたスクリーンでダイナミックなイメージ演出。
①-2.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (その他大掛かりな機構の提案) [REDACTED]		
(例:ピッチの分割、移動など(札幌ドームの芝面))あれば部位を記す		
・①-1と同様のチェックを行う。		
②-1.観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセスに関する考え方 [REDACTED]	△	区道43-670号の線形変更など要調整
1)駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。	○	既存歩道に加えて千駄ヶ谷駅信濃町駅からダイレクトにつながる歩道橋があるが、幅員について要調整。
2)車動線および駐車場配置の提案がなされているか。	×	区道43-670号の線形変更について要調整。
3)オリンピック等大規模なイベント時のアクセス等について特別な提案がなされているか。	△	マラソンゲートがない
②-2.観客等の入退場動線処理に関する考え方 [REDACTED]	△	人溜まり空間の拡張について要調整
1)スタジアムの外に人だまり空間が提案されているか。	△	グラウンドレベルに広がりのあるスペースが取られていない

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
③-1.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(音響環境)	△	記載なし
1) イベント利用時の音響環境(建築音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。	△	記載なし
2) イベント利用時の音響環境(電機音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。	△	記載なし
3) イベント利用時の遮音や振動について考慮されているか。	△	記載なし
4) 屋根の開閉に対応した音響環境を考慮しているか。	△	記載なし
③-2.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(事業計画)	△	
1) ホスピタリティ機能について効果的な提案がされているか。	○	関連諸室として1,000人～3,000人のルームを確保。
2) 競技場施設のスポーツ以外の利活用について具体的なイメージや実施方法等の提案があるか。	△	コンサート程度で提案少ない。
3) 競技場周辺を含めた、イベント非開催時の商業・文化等の機能の提案、具体的な展開イメージについて記載があるか	×	北側に配置されているが、機能的ではない。
④.環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギー多重化及び緑化等)	△	環境配慮に対する提案が乏しい。
1) 最先端の環境技術を備える提案や具体の記述が実現性をもってなされているか。	○	地熱利用(GSHP: COP5.0以上)、自然換気、雨水再利用、Near Zeroへの取組み、太陽光発電(1.55MW以上)、LED照明、既存スタジアムの解体資材利用
2) エネルギーの多重化など非常時の設備的対応について提案されているか	△	記載なし
3) ランニングコスト(LCC・LCO2含む)や維持管理方法等について配慮されているか	△	記載なし
4) 大空間(観覧席やコンコース)の空調等の記載があるか。(実現性や効果は期待出来るか)	△	記載なし
5) 有効な緑化計画がされているか。	△	記載なし
	△	記載なし

確 認 事 項	確 認 結 果 (○・△・×)	所 見
⑤-1.構造計画に関する考え方	△	1)を評価対象とし、2)3)4)は別分野での評価とし参考評価とした。
1)全体的に大空間を支えられる現実的な構造となっているか。	△	弓型トラス構造のスラスト処理及びトラス部がメッシュ状のためイメージ通りにはいかない。また、この弓型トラス構造自体に水平荷重がかかったときに不安定になる。よって、スラスト処理のため部材の追加、メッシュのトラス化などの部材の増強、トラス架構の面外抵抗などの十分な検討が必要である。
2)開閉機構を支える屋根架構は、技術的に可能な提案となっているか。	○	オーソドックスなスライド屋根のため実現可能である。
3)芝の管理の負担を軽減するために南側の日射を確保した開閉機構を有する屋根架構となっているか。	△	南側に寄せられた固定、開閉屋根部に有孔部があり、若干、南側日射を確保した開閉機構とはなっている。そのため、有効開口部面積の確認が必要と思われる。
4)特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっていないか。	○	
⑤-2.屋根の架構及び開閉機構に関する考え方	○	
1)開閉式屋根の機構提案は、構造的、技術的に実現可能か。	○	短辺スライド方式。
2)過大な建設費用を要することとなっていないか。		要さない。既存技術で十分に対応可と考える。
3)特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっていないか。		いない。既存技術で十分に対応可と考える。
⑥-1.事業費(建物本体/外構部分)に関する考え方 (事業費)	○	掘削深さが-15m程度あるため、工期、コストへの影響の懸念される。
1)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動屋根)	○	
2)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動席)	△	詳細不明
3)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(外装・地下の範囲)	△	掘削深さが-15m程度あるため、コスト、工期への影響が懸念される。
4)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(環境配慮)	○	
5)全体的に想定価格に納まっていると言えそうか。	○	
⑥-2.施工性や工期に関する考え方 (工期)	△	提案の掘り下げた計画であれば、工期内での完成が厳しいと思われる。また、屋根材料(ETFT)の大臣認定取得が必要となる可能性が高い。
1)工期を要する特殊な要素がないか。(地下・特殊構造など)	△	地下工事(-30m)が深いことから、提案の掘り下げた計画であれば、工期内での完成が厳しいと思われる。
2)現場に工事ヤードを広く必要とする工法となっていないか。(ヤードの確保は難しい)	△	掘削土の搬出用構台などの計画が必要である。
3)設定工期での実現や工事の影響を低減するために効果的な工法の提案はあるか。	△	提案なし
4)入手が困難な材料や機器等の使用はなされていないか。	△	屋根材料(ETFT)の大臣認定取得が必要となる可能性が高い。
5)品質に支障をきたす要素がないか。	○	提案の内容には、特には見当たらない。

技術調査の確認項目【確認項目表(2):「Ⅱ.デザイン提案条件」に規定している事項】

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
施設建築物の配置(配置及び高さ)	△	建築範囲超え
・スタジアムは施設建築範囲内に建築されているか。	×	施設建築範囲を超えて提案(区道43-670の線形を変更)
・各位置における最高高さの制限は満たしているか。	○	
・敷地境界線から8mの後退距離を確保しているか。	△	規定の後退距離は満たしているが、敷地形状を変更している
土地利用構成	△	都営住宅敷地をアクセス・オープンスペースとして活用することを検討する。
・規定の範囲内の土地利用がされているか。	×	都営住宅が存置されており、関連敷地で規定の土地利用がなされていない。区道43-670号の線形が変更されている。
・関連敷地に新たに建築建築物(人工地盤等の工作物を除く)を建築していないか。	○	要項に抵触するような提案はない。
施設構成	△	観客席数が不足
・観客席が8万席以上確保されているか。	×	観客席数が不足。
・規定の施設構成(導入機能と規模)が確保されているか。	△	ゾーニングが不明瞭。
・ラグビー、サッカー、陸上競技等の関連規定を満たすフィールドが設けられているか。	○	
スタジアムへのアクセス	△	区道43-470の線形変更等、要調整。
・駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。	○	既存歩道に加えて千駄ヶ谷駅及び信濃町駅からダイレクトにつながる歩道橋があるが、幅員について要調整。
・車両のメインアクセスは都道418号(外苑西通り)側に設置されているか。	×	区道43-470号の線形が変更。要調整
・サブトラック、投てき練習場からの移動を考慮した競技者動線が提案されているか。	△	区道43-670を跨ぐ観客用歩行者デッキ(区道線形変更)について、区道と共に要調整。
公園面積、公開空地の割合	△	公園・公開空地の確保について検討・調整が必要。
・既設公園と同規模以上の面積を各区の範囲内に確保しているか。 (渋谷区:約22,000㎡、新宿区:約12,000㎡)	×	範囲・面積の記載がない。 渋谷区分は、スタジアムの配置、都道418号上空デッキの形状より、確保は難しい。新宿区分の確保のため、関連敷地を公園とすることを検討する必要がある。
・「公園の再配置が可能な範囲」内に公園が配置されているか。	△	
・敷地面積の40%以上の公開空地が確保されているか。	×	範囲・面積・空地率の記載がない。
・「公開空地の確保が可能な範囲」内に公開空地が配置されているか。	△	公園範囲の設定後、建物周りも含めて確保すると考えても40%を確保できない可能性がある。
・歩行者等にとって快適で良好な位置に設けられているか。		
緑化・環境配慮・防災対策	○	地域防災対策が必要
・緑化・環境に対して、特別な提案がなされているか。	○	
・防災対策に対して、特別な提案がなされているか。	△	記載なし
防災・避難計画および法令等に抵触することが明らかな事項等	○	問題なし
・災害発生時等緊急時に対応した避難計画となっているか。	○	
・災害発生時の避難場所としての機能や動線等について配慮されているか。	○	
・その他あきらかに法令に抵触する事項があるか。	○	

技術調査の確認リスト【総括表】

項目		確認結果(○・△・×)	所見
1.「テーマ別の計画提案」に示した項目			
①臨場感あふれる観覧席に関する考え方	可動客席等に関すること	○	図面上、詳細不明。可動方法の検討を要する。 可動席方式:不明
②観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセス及び入退場動線処理に関する考え方	アクセス及び入退場動線に関すること	○	西通りからの車両アクセスや出入り口数について要調整
③ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方	音響環境に関すること	○	遮音防振に対する具体的対策(地盤防振溝、二重膜天井)が示されている。これも盛土に埋める構造なので環境対策上有利である。
	ホスピタリティ機能等、事業計画に関すること	△	一定のホスピタリティ関連機能を備える提案である。スポーツ以外の提案は乏しいが、南側に商業機能等を集中配置しており、賑わいが期待される。
④環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギーの多重化及び緑化等)	省エネルギー技術等に関すること	△	環境配慮に対する提案が乏しい。
⑤構造計画、屋根の架構に関する考え方	構造計画に関すること	△	バックステイ追加や片持ち屋根の根元の強化など架構計画の十分な検討が必要である。
	屋根の架構及び開閉機構に関すること	○	長辺スライド方式で、固定屋根トラスに収納。 可動屋根方式:長辺スライド方式 仕上材:不明
⑥事業費及び工期に関する考え方(事業費は、建物本体と外構部分を分けて提示すること。)	事業費(建物本体・外構部分)に関すること	○	
	施工性や工期に関すること	○	全体的には実現可能と思われる。
2.「デザイン提案条件」に規定している事項等			
施設建築物の配置(配置及び高さ)		△	一部に高さ制限超え、壁面後退不足。要調整。
土地利用構成		○	
施設構成		○	
スタジアムへのアクセス		○	車両出入り口の数について要調整
公園面積、公開空地の割合		○	
緑化・環境配慮・防災対策		○	地域防災対策が必要
防災・避難計画及び法令等に抵触することが明らかな事項等		○	

技術調査の確認項目【確認項目表(1):「テーマ別の計画提案」に示した①～⑥の項目のうち技術的確認が必要な事項】

確 認 事 項	確 認 結 果 (○・△・×)	所 見
①-1.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (可動客席等に関すること) [REDACTED]	○	
1)可動席は物理的、機構的に実現可能と想定できるものか。		有。詳細不明。
2)可動席の設定範囲はほぼ適切といえるものか(極端に偏る等していないかなど)	○	パースによる判断。
3)可動席を利用していない時の雰囲気には支障はないか。	○	
4)トラック等床面の養生等無理な方法となっていないか。		なっていない。
5)可動席の運営に過大な費用を要する内容となっていないか。		なっていない。
		アリーナ構造はオーソドックスなので問題はなさそう。
①-2.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (その他大掛かりな機構の提案) [REDACTED]		
(例:ピッチの分割、移動など(札幌ドームの芝面))あれば部位を記す		
・①-1と同様のチェックを行う。		
②-1.観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセスに関する考え方 [REDACTED]	○	西通りからの車両アクセスや出入り口数について要調整
1)駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。	○	
2)車動線および駐車場配置の提案がなされているか。	△	西通りからはVIPアクセスしていない、また、車両の出入り口数について要調整
3)オリンピック等大規模なイベント時のアクセス等について特別な提案がなされているか。	△	東側からのみのVIPアクセスについて要調整
②-2.観客等の入退場動線処理に関する考え方 [REDACTED]	○	
1)スタジアムの外に人だまり空間が提案されているか。	○	

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
③-1.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(音響環境)	○	遮音防振に対する具体的対策(地盤防振溝、二重膜天井)が示されている。これも盛土に埋める構造なので環境対策上有利である。
1) イベント利用時の音響環境(建築音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。	△	記載なし
2) イベント利用時の音響環境(電機音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。	△	記載なし
3) イベント利用時の遮音や振動について考慮されているか。	○	二重膜天井、地盤防振溝による具体的対策の提案あり。
4) 屋根の開閉に対応した音響環境を考慮しているか。	○	
③-2.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(事業計画)	△	
1) ホスピタリティ機能について効果的な提案がされているか。	○	一定のホスピタリティ関連機能を備える提案である
2) 競技場施設のスポーツ以外の利活用について具体のイメージや実施方法等の提案があるか。	△	コンサート程度であり具体的提案に乏しい。
3) 競技場周辺を含めた、イベント非開催時の商業・文化等の機能の提案、具体の展開イメージについて記載があるか	○	南側に商業機能等を集中配置しており、賑わいが期待される。
④.環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギー多重化及び緑化等)	△	環境配慮に対する提案が乏しい。
1) 最先端の環境技術を備える提案や具体の記述が実現性をもってなされているか。	○	雨水再利用、太陽光発電、自然換気
2) エネルギーの多重化など非常時の設備的対応について提案されているか	△	記載なし
3) ランニングコスト(LCC・LCO2含む)や維持管理方法等について配慮されているか	△	記載なし
4) 大空間(観覧席やコンコース)の空調等の記載があるか。(実現性や効果は期待出来るか)	△	記載なし
5) 有効な緑化計画がされているか。	△	記載なし
	△	記載なし

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
⑤-1.構造計画に関する考え方	△	1)を評価対象とし、2)3)4)は別分野での評価とし参考評価とした。
1)全体的に大空間を支えられる現実的な構造となっているか。	△	架構システムは成立していないが、バックステイ追加や片持ち屋根の根元の強化などの構造計画の再考が必要である。
2)開閉機構を支える屋根架構は、技術的に可能な提案となっているか。	△	引き込み量の改善、開閉屋根剛性の再考が必要である。
3)芝の管理の負担を軽減するために南側の日射を確保をした開閉機構を有する屋根架構となっているか。	×	開閉屋根の詳細がない。開閉範囲が狭い。
4)特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっているか。	不明	開閉屋根機構が不明なため判断できない。
⑤-2.屋根の架構及び開閉機構に関する考え方	○	
1)開閉式屋根の機構提案は、構造的、技術的に実現可能か。	○	長辺スライド方式で屋根トラスに可動屋根トラスが収納。
2)過大な建設費用を要することとなっているか。		要さない。オーソドックスな方式。
3)特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっているか。		オーソドックスな方式。
		可動屋根は平面的で現実的。
⑥-1.事業費(建物本体／外構部分)に関する考え方 (事業費)	○	
1)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動屋根)	△	詳細不明
2)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動席)	○	可動方法の詳細について検討の余地あり
3)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(外装・地下の範囲)	○	
4)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(環境配慮)	○	
5)全体的に想定価格に納まっていると言えそうか。	○	
⑥-2.施工性や工期に関する考え方 (工期)	○	全体的には実現可能と思われる。
1)工期を要する特殊な要素がないか。(地下・特殊構造など)	△	工事期間の提案はあるが、地下工事もあるため、詳細工程の検討が必要である。
2)現場に工事ヤードを広く必要とする工法となっていないか。(ヤードの確保は難しい)	○	問題は見当たらない。
3)設定工期での実現や工事の影響を低減するために効果的な工法の提案はあるか。	△	提案なし
4)入手が困難な材料や機器等の使用はなされていないか。	△	屋根の素材が不明であり、選定の際に検討が必要である。
5)品質に支障をきたす要素がないか。	△	屋根の素材が不明であり、選定の際に検討が必要である。

技術調査の確認項目【確認項目表(2):「Ⅱ.デザイン提案条件」に規定している事項】

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
施設建築物の配置(配置及び高さ)	△	一部に高さ制限超え、壁面後退不足。要調整。
・スタジアムは施設建築範囲内に建築されているか。	○	
・各位置における最高高さの制限は満たしているか。	×	スタジアムの北側・東側・西側で一部高さ制限を超えている
・敷地境界線から8mの後退距離を確保しているか。	△	外苑西通り側で一部後退距離が不足
土地利用構成	○	
・規定の範囲内の土地利用がされているか。	○	要項の規定に適合している。
・関連敷地に新たに建築建築物(人工地盤等の工作物を除く)を建築していないか。	○	要項に抵触するような提案はない。
施設構成	○	
・観客席が8万席以上確保されているか。	○	
・規定の施設構成(導入機能と規模)が確保されているか。	○	
・ラグビー、サッカー、陸上競技等の関連規定を満たすフィールドが設けられているか。	△	陸上競技では長辺方向両側が狭い。
スタジアムへのアクセス	○	車両出入口の数について要調整
・駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。	○	
・車両のメインアクセスは都道418号(外苑西通り)側に設置されているか。	△	外苑西通り北から一般・メディア用、VIP・競技者・サービス車両は区道43-670からアクセスであるが、各1ヶ所で出入り口数が不足
・サブトラック、投てき練習場からの移動を考慮した競技者動線が提案されているか。	△	矢印の表示はあるが、図面上で動線がピッチに接続していない
公園面積、公開空地の割合	○	
・既設公園と同規模以上の面積を各区の範囲内に確保しているか。 (渋谷区:約22,000㎡、新宿区:約12,000㎡)	○	範囲・面積が明示されており、両区とも確保可能範囲に確保されている。
・「公園の再配置が可能な範囲」内に公園が配置されているか。	○	渋谷区分は、都道418号上空デッキと敷地内での確保である。新宿区分は、関連敷地を中心とする確保である。
・敷地面積の40%以上の公開空地が確保されているか。	○	範囲・面積・空地率が明示されている。
・「公開空地の確保が可能な範囲」内に公開空地が配置されているか。	○	確保可能範囲内で確保されている。
・歩行者等にとって快適で良好な位置に設けられているか。		
緑化・環境配慮・防災対策	○	防災対策が必要
・緑化・環境に対して、特別な提案がなされているか。	○	
・防災対策に対して、特別な提案がなされているか。	○	記載なし
防災・避難計画および法令等に抵触することが明らかな事項等	○	問題なし
・災害発生時等緊急時に対応した避難計画となっているか。	○	
・災害発生時の避難場所としての機能や動線等について配慮されているか。	○	
・その他あきらかに法令に抵触する事項があるか。	○	

技術調査の確認リスト【総括表】

項目		確認結果(○・△・×)	所見
1.「テーマ別の計画提案」に示した項目			
①臨場感あふれる観覧席に関する考え方	可動客席等に関すること	△	無。判断しがたい。 可動席方式:無
②観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセス及び入退場動線処理に関する考え方	アクセス及び入退場動線に関すること	△	駅からの歩行者動線について要調整
③ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方	音響環境に関すること	○	天井部分の多層構造および側面の閉塞化により遮音性能は確保できる。また天井部の構造は室内吸音にも有利に働きそうである。
	ホスピタリティ機能等、事業計画に関すること	△	他と比較しホスピタリティエリアが小さい。屋内公道にレストラン等配置されているが、モールタイプであり周遊性に乏しい。
④環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギーの多重化及び緑化等)	省エネルギー技術等に関すること	△	環境配慮に対する提案が乏しい。
⑤構造計画、屋根の架構に関する考え方	構造計画に関すること	×	大スパンを実現する部材や架構ではなく、スケールを越えている。
	屋根の架構及び開閉機構に関すること	○	巻取り方式で側部から頂部に向けて動作。 可動屋根方式:巻取り方式 仕上材:膜
⑥事業費及び工期に関する考え方(事業費は、建物本体と外構部分を分けて提示すること。)	事業費(建物本体・外構部分)に関すること	△	掘削深さが-15m程度あるため、工期、コストへの影響の懸念される。主体構造の実現性に課題がある。
	施工性や工期に関すること	△	提案の掘り下げた計画であれば、工期内での完成が厳しいと思われる。また、可動屋根の巻取り機構の技術的な検討が必要である。
2.「デザイン提案条件」に規定している事項等			
施設建築物の配置(配置及び高さ)		△	高さ、壁面後退距離について記載なし
土地利用構成		○	
施設構成		△	観客席の面積不足の可能性、要調整。
スタジアムへのアクセス		△	駅と結ぶ歩行者アクセスについて要調整
公園面積、公開空地の割合		△	公園・公開空地の確保について検討・調整が必要
緑化・環境配慮・防災対策		○	
防災・避難計画及び法令等に抵触することが明らかな事項等		○	

技術調査の確認項目【確認項目表(1):「テーマ別の計画提案」に示した①～⑥の項目のうち技術的確認が必要な事項】

確 認 事 項	確 認 結 果 (○・△・×)	所 見
①-1.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (可動客席等に関する事) [REDACTED]	△	
1)可動席は物理的、機構的に実現可能と想定できるものか。		
2)可動席の設定範囲はほぼ適切といえるものか(極端に偏る等していないかなど)		
3)可動席を利用していない時の雰囲気には支障はないか。		
4)トラック等床面の養生等無理な方法となっていないか。		
5)可動席の運営に過大な費用を要する内容となっていないか。		
①-2.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (その他大掛かりな機構の提案) [REDACTED]		
(例:ピッチの分割、移動など(札幌ドームの芝面))あれば部位を記す		無いと思われる。
・①-1と同様のチェックを行う。		
②-1.観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセスに関する考え方 [REDACTED]	△	駅からの歩行者動線について要調整
1)駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。	×	現状のアクセス体系のままであり、かつ隣地ともデッキ接続しないので、混雑対策について要調整
2)車動線および駐車場配置の提案がなされているか。	○	43-690をトンネル化し、駐車場にアクセス。トンネル化については要調整
3)オリンピック等大規模なイベント時のアクセス等について特別な提案がなされているか。	△	記載なし
②-2.観客等の入退場動線処理に関する考え方 [REDACTED]	○	
1)スタジアムの外に人だまり空間が提案されているか。	○	

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
③-1.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(音響環境)	○	天井部分の多層構造および側面の閉塞化により遮音性能は確保できる。また天井部の構造は室内吸音にも有利に働きそうである。
1) イベント利用時の音響環境(建築音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。	△	記載なし
2) イベント利用時の音響環境(電機音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。	△	記載なし
3) イベント利用時の遮音や振動について考慮されているか。	△	記載なし
4) 屋根の開閉に対応した音響環境を考慮しているか。	△	記載なし
③-2.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(事業計画)	△	
1) ホスピタリティ機能について効果的な提案がされているか。	△	他と比較しホスピタリティエリアが小さい
2) 競技場施設のスポーツ以外の利活用について具体的なイメージや実施方法等の提案があるか。	×	具体的提案なし
3) 競技場周辺を含めた、イベント非開催時の商業・文化等の機能の提案、具体的な展開イメージについて記載があるか	△	屋内公道にレストラン等配置されているが、モールタイプであり周遊性に乏しい。
④.環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギー多重化及び緑化等)	△	環境配慮に対する提案が乏しい。
1) 最先端の環境技術を備える提案や具体的な記述が実現性をもつてなされているか。	○	自然換気、雨水再利用、地下とすることによる熱負荷低減
2) エネルギーの多重化など非常時の設備的対応について提案されているか	△	記載なし
3) ランニングコスト(LCC・LCO2含む)や維持管理方法等について配慮されているか	△	記載なし
4) 大空間(観覧席やコンコース)の空調等の記載があるか。(実現性や効果は期待出来るか)	△	記載なし
5) 有効な緑化計画がされているか。	△	記載なし
	△	記載なし

確 認 事 項	確 認 結 果 (○・△・×)	所 見
⑤-1.構造計画に関する考え方	×	1)を評価対象とし、2)3)4)は別分野での評価とし参考評価とした。
1)全体的に大空間を支えられる現実的な構造となっているか。	×	架構システムに実現性がない。大スパンを実現する部材や架構ではなく、スケールを越えている。
2)開閉機構を支える屋根架構は、技術的に可能な提案となっているか。	×	屋根システムが不明で、外周曲線部に巻き取り機構があり、開閉は不可能と思われる。
3)芝の管理の負担を軽減するために南側の日射を確保をした開閉機構を有する屋根架構となっているか。	△	南側日射を確保した開閉機構とはなっている。しかし、膜の巻き取り部の機構が不十分のため再考の必要がある。
4)特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっていないか。	不明	開閉屋根機構が不可能なため判断できない。
⑤-2.屋根の架構及び開閉機構に関する考え方	○	
1)開閉式屋根の機構提案は、構造的、技術的に実現可能か。	○	巻取り方式でサイドから頂部に向けて動作。
2)過大な建設費用を要することとなっていないか。		要さない。詳細不明だが、それ程コストがかかるとも思わない。
3)特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっていないか。		なっていない。
		詳細不明
⑥-1.事業費(建物本体/外構部分)に関する考え方 (事業費)	△	掘削深さが-15m程度あるため、工期、コストへの影響の懸念される。主体構造の実現性に課題がある。
1)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動屋根)	○	メンテナンス方法、費用が掛かる懸念があり、課題がある。
2)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動席)	△	詳細不明
3)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(外装・地下の範囲)	△	掘削深さが-15m程度あるため、コスト、工期への影響が懸念される。
4)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(環境配慮)	○	
5)全体的に想定価格に納まっていると言えそうか。	△	
⑥-2.施工性や工期に関する考え方 (工期)	△	提案の掘り下げた計画であれば、工期内での完成が厳しいと思われる。また、可動屋根の巻取り機構の技術的な検討が必要である。
1)工期を要する特殊な要素がないか。(地下・特殊構造など)	△	地下工事(-15m程度)が深い事から、提案の掘り下げた計画であれば、工期内での完成が厳しいと思われる。
2)現場に工事ヤードを広く必要とする工法となっていないか。(ヤードの確保は難しい)	△	掘削土の搬出用構台などの計画が必要である。
3)設定工期での実現や工事の影響を低減するために効果的な工法の提案はあるか。	△	提案なし
4)入手が困難な材料や機器等の使用はなされていないか。	△	ロールスクリーン式可動屋根の巻取り機構の技術的な検討が必要である。(3次元的に無理がないか?)
5)品質に支障をきたす要素がないか。	△	ロールスクリーン式可動屋根の巻取り機構の技術的な検討が必要である。

技術調査の確認項目【確認項目表(2):「Ⅱ.デザイン提案条件」に規定している事項】

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
施設建築物の配置(配置及び高さ)	△	高さ、配置について記載なし
・スタジアムは施設建築範囲内に建築されているか。	○	
・各位置における最高高さの制限は満たしているか。	△	不明(縮尺が不明)
・敷地境界線から8mの後退距離を確保しているか。	△	不明(配置について記載なし)
土地利用構成	○	
・規定の範囲内の土地利用がされているか。	○	要項の規定に適合している。ただし、関連敷地の地下を駐車場として利用している。
・関連敷地に新たに建築建築物(人工地盤等の工作物を除く)を建築していないか。	○	建築物の提案はないが、都営住宅跡地の地下を駐車場として利用する提案となっている。
施設構成	△	観客席の面積不足の可能性、要調整。
・観客席が8万席以上確保されているか。	△	面積不足の可能性あり。要調整。
・規定の施設構成(導入機能と規模)が確保されているか。	△	ゾーニングが不明瞭。
・ラグビー、サッカー、陸上競技等の関連規定を満たすフィールドが設けられているか。	○	
スタジアムへのアクセス	△	駅と結ぶ歩行者アクセスについて要調整
・駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。	×	現状のアクセス体系のままであり、かつ隣地ともデッキ接続しないので、混雑対策について要調整
・車両のメインアクセスは都道418号(外苑西通り)側に設置されているか。	○	
・サブトラック、投てき練習場からの移動を考慮した競技者動線が提案されているか。	△	記載なし
公園面積、公開空地の割合	△	公園・公開空地の確保について検討・調整が必要。
・既設公園と同規模以上の面積を各区の範囲内に確保しているか。 (渋谷区:約22,000㎡、新宿区:約12,000㎡)	×	範囲・面積の記載がない。 渋谷区分は、スタジアムの配置、都道418号上空デッキがないことより、確保は難しい。新宿区分は、関連敷地を中心に確保できる可能性がある。
・「公園の再配置が可能な範囲」内に公園が配置されているか。	△	
・敷地面積の40%以上の公開空地が確保されているか。	×	範囲・面積・空地率の記載がない。
・「公開空地の確保が可能な範囲」内に公開空地が配置されているか。	△	公園範囲の設定後、建物周りも含めて確保すると考えても40%を確保できない可能性がある。
・歩行者等にとって快適で良好な位置に設けられているか。		
緑化・環境配慮・防災対策	○	
・緑化・環境に対して、特別な提案がなされているか。	○	
・防災対策に対して、特別な提案がなされているか。	○	
防災・避難計画および法令等に抵触することが明らかな事項等	○	問題なし
・災害発生時等緊急時に対応した避難計画となっているか。	○	
・災害発生時の避難場所としての機能や動線等について配慮されているか。	○	
・その他あきらかに法令に抵触する事項があるか。	○	

技術調査の確認リスト【総括表】

項目		確認結果(○・△・×)	所見
1.「テーマ別の計画提案」に示した項目			
①臨場感あふれる観覧席に関する考え方	可動客席等に関すること	○	全体スライド方式。 可動席方式:全体スライド方式
②観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセス及び入退場動線処理に関する考え方	アクセス及び入退場動線に関すること	△	4つのエントランスの大きさや、直通斜行デッキと通常階段との動線選択など要調整。
③ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方	音響環境に関すること	△	記載なし
	ホスピタリティ機能等、事業計画に関すること	△	ホスピタリティエリアがやや小さいが、さじき席やオペラタイプ席など、多様な提案がある。中央ステージが上昇するタイプであり、スポーツ以外の利用が広く期待される。商業機能等を集中配置しているものの、北側であり賑わい創出はあまり期待できない。
④環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギーの多重化及び緑化等)	省エネルギー技術等に関すること	△	環境配慮に対する提案が乏しい。有効な空調を行うための発生>閉じた空間が構成できるか疑問あり。 太陽光を反射させて採光を行う仕組みあり
⑤構造計画、屋根の架構に関する考え方	構造計画に関すること	×	水平梁で届くロングスパンでないためスケールを越えている。
	屋根の架構及び開閉機構に関すること	○	小巻取り方式。収納等不明。ユニット数多くメンテは問題になる可能性がある。 可動屋根方式:小割巻取り方式 仕上材:膜
⑥事業費及び工期に関する考え方(事業費は、建物本体と外構部分を分けて提示すること。)	事業費(建物本体・外構部分)に関すること	△	掘削深さが-26m程度あるため、工期、コストへの影響の懸念される。
	施工性や工期に関すること	△	提案の掘り下げた計画であれば、工期内での完成が厳しいと思われる。また、可動屋根の全開機構、ピッチの上下機構について、検討が必要である。
2.「デザイン提案条件」に規定している事項等			
施設建築物の配置(配置及び高さ)		○	
土地利用構成		○	
施設構成		△	勾配が約50度以上、陸上競技では4方向で狭い
スタジアムへのアクセス		○	
公園面積、公開空地の割合		○	
緑化・環境配慮・防災対策		○	
防災・避難計画及び法令等に抵触することが明らかな事項等		○	

技術調査の確認項目【確認項目表(1):「テーマ別の計画提案」に示した①～⑥の項目のうち技術的確認が必要な事項】

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
①-1.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (可動客席等に関すること) ■■■■	○	
1)可動席は物理的、機構的に実現可能と想定できるものか。		全体スライド方式。
2)可動席の設定範囲はほぼ適切といえるものか(極端に偏る等していないかなど)	○	詳細不明。範囲の確認が必要と思われる。
3)可動席を利用していない時の雰囲気には支障はないか。	○	
4)トラック等床面の養生等無理な方法となっていないか。		ない。通常方式。
5)可動席の運営に過大な費用を要する内容となっていないか。		ない。通常方式。
①-2.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (その他大掛かりな機構の提案) ■■■■		
(例:ピッチの分割、移動など(札幌ドームの芝面))あれば部位を記す		
・①-1と同様のチェックを行う。		
②-1.観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセスに関する考え方 ■■■■	○	斜行デッキと直通階段との動線選択について要調整
1)駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。	○	
2)車動線および駐車場配置の提案がなされているか。	○	
3)オリンピック等大規模なイベント時のアクセス等について特別な提案がなされているか。	△	スタジアムの外周に周回動線がなく、入口までの動線が限定されている。オリンピック時の暫定利用への対応が難しい
②-2.観客等の入退場動線処理に関する考え方 ■■■■	△	4つのエントランスの大きさや、直通斜行デッキと通常階段との動線選択など要調整。
1)スタジアムの外に人だまり空間が提案されているか。	△	3階の限定入口4ヶ所周辺の空間の大きさ、直通斜行デッキと建物内の階段と動線選択の混乱の恐れなど、要調整。

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
③-1.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(音響環境)	△	記載なし
1) イベント利用時の音響環境(建築音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。	△	記載なし
2) イベント利用時の音響環境(電機音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。	△	記載なし
3) イベント利用時の遮音や振動について考慮されているか。	△	記載なし
4) 屋根の開閉に対応した音響環境を考慮しているか。	△	記載なし
③-2.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(事業計画)	△	
1) ホスピタリティ機能について効果的な提案がされているか。	○	ホスピタリティエリアがやや小さいが、さじき席やオペラタイプ席など、多様な提案がある。
2) 競技場施設のスポーツ以外の利活用について具体的なイメージや実施方法等の提案があるか。	○	中央ステージが上昇するタイプであり、スポーツ以外の利用が広く期待される。
3) 競技場周辺を含めた、イベント非開催時の商業・文化等の機能の提案、具体的な展開イメージについて記載があるか	△	商業機能等を集中配置しているものの、北側であり賑わい創出はあまり期待できない。
④.環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギー多重化及び緑化等)	△	環境配慮に対する提案が乏しい。有効な空調を行うための閉じた空間が構成できるか検討を要する。
1) 最先端の環境技術を備える提案や具体的な記述が実現性をもってなされているか。	○	太陽光発電、雨水再利用、自然採光、既存スタジアムの解体資材利用
2) エネルギーの多重化など非常時の設備的対応について提案されているか	△	記載なし
3) ランニングコスト(LCC・LCO2含む)や維持管理方法等について配慮されているか	△	記載なし
4) 大空間(観覧席やコンコース)の空調等の記載があるか。(実現性や効果は期待出来るか)	△	有効な空調を行うための閉じた空間が構成できるか検討を要する。
5) 有効な緑化計画がされているか。	○	Man-made hill
	△	太陽光を反射させて採光を行う仕組みあり

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
⑤-1.構造計画に関する考え方	×	1)を評価対象とし、2)3)4)は別分野での評価とし参考評価とした。
1)全体的に大空間を支えられる現実的な構造となっているか。	×	骨組みが細すぎで対応不可能である。水平梁で届くロングスパンでないためスケールを越えている。
2)開閉機構を支える屋根架構は、技術的に可能な提案となっているか。	×	開閉困難と思われる。
3)芝の管理の負担を軽減するために南側の日射を確保をした開閉機構を有する屋根架構となっているか。	△	南側日射を確保した開閉機構とはなっている。折りたたみ形式のため、有効開口部面積の確認が必要と思われる。
4)特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっていないか。	不明	開閉屋根機構が困難なため判断できない。
⑤-2.屋根の架構及び開閉機構に関する考え方	○	
1)開閉式屋根の機構提案は、構造的、技術的に実現可能か。	○	小割巻取り方式。膜小ユニット。ただし、巻取り後の収納時不明。
2)過大な建設費用を要することとなっていないか。		ユニット数の多さが気になる。
3)特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっていないか。		ユニット数の多さが気になる。メンテナンス費用？
		多開口部。開口度合調節は可能。
⑥-1.事業費(建物本体／外構部分)に関する考え方 (事業費)	△	掘削深さが-26m程度あるため、工期、コストへの影響の懸念される。
1)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動屋根)	○	メンテナンス費用が掛かる懸念があり、課題がある。
2)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動席)	○	可動方法の詳細について検討の余地あり
3)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(外装・地下の範囲)	△	掘削深さが-26m程度あるため、コスト、工期への影響が懸念される。
4)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(環境配慮)	○	
5)全体的に想定価格に納まっていると言えそうか。	△	
⑥-2.施工性や工期に関する考え方 (工期)	△	提案の掘り下げた計画であれば、工期内での完成が厳しいと思われる。また、可動屋根の全開機構、ピッチの上下機構について、検討が必要である。
1)工期を要する特殊な要素がないか。(地下・特殊構造など)	△	地下工事(-26m程度)が深い事から、提案の掘り下げた計画であれば、工期内での完成が厳しいと思われる。
2)現場に工事ヤードを広く必要とする工法となっていないか。(ヤードの確保は難しい)	△	掘削土の搬出用構台などの計画が必要である。
3)設定工期での実現や工事の影響を低減するために効果的な工法の提案はあるか。	△	解体ガラの再利用の提案はあるが、一時置場の検討など課題がある。
4)入手が困難な材料や機器等の使用はなされていないか。	△	ピッチの上下機構について、検討が必要である。
5)品質に支障をきたす要素がないか。	△	可動屋根の全開機構について、検討が必要である。

技術調査の確認項目【確認項目表(2):「Ⅱ.デザイン提案条件」に規定している事項】

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
施設建築物の配置(配置及び高さ)	○	
・スタジアムは施設建築範囲内に建築されているか。	○	
・各位置における最高高さの制限は満たしているか。	○	
・敷地境界線から8mの後退距離を確保しているか。	○	
土地利用構成	○	
・規定の範囲内の土地利用がされているか。	○	要項の規定に適合している。
・関連敷地に新たに建築建築物(人工地盤等の工作物を除く)を建築していないか。	○	要項に抵触するような提案はない。
施設構成	△	勾配が約50度以上
・観客席が8万席以上確保されているか。	△	座席勾配が約50度以上。
・規定の施設構成(導入機能と規模)が確保されているか。	○	
・ラグビー、サッカー、陸上競技等の関連規定を満たすフィールドが設けられているか。	△	陸上競技では4方向狭い。
スタジアムへのアクセス	○	
・駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。	○	要項と同じ動線の図示
・車両のメインアクセスは都道418号(外苑西通り)側に設置されているか。	○	VIPは外苑西通りからアクセス、競技者、一般、メディアは東側からアクセスと来場目的利用者別分離アクセス
・サブトラック、投てき練習場からの移動を考慮した競技者動線が提案されているか。	○	パラリンピック競技者地下道あり
公園面積、公開空地の割合	○	
・既設公園と同規模以上の面積を各区の範囲内に確保しているか。 (渋谷区:約22,000㎡、新宿区:約12,000㎡)	○	範囲・面積が明示されている。範囲の凡例表記に誤りがある。
・「公園の再配置が可能な範囲」内に公園が配置されているか。	○	スタジアム配置、道路上空デッキの形状、関連敷地(都営住宅)の公園化より、両区とも確保可能範囲に必要な面積を確保できている。
・敷地面積の40%以上の公開空地が確保されているか。	○	範囲・面積・空地率が明示されている。ただし、凡例表記に誤りがある。
・「公開空地の確保が可能な範囲」内に公開空地が配置されているか。	○	確保可能範囲内で確保されている。
・歩行者等にとって快適で良好な位置に設けられているか。		
緑化・環境配慮・防災対策	○	
・緑化・環境に対して、特別な提案がなされているか。	○	
・防災対策に対して、特別な提案がなされているか。	○	
防災・避難計画および法令等に抵触することが明らかな事項等	○	問題なし
・災害発生時等緊急時に対応した避難計画となっているか。	○	
・災害発生時の避難場所としての機能や動線等について配慮されているか。	○	
・その他あきらかに法令に抵触する事項があるか。	○	

技術調査の確認リスト【総括表】

項目		確認結果(○・△・×)	所見
1.「テーマ別の計画提案」に示した項目			
①臨場感あふれる観覧席に関する考え方	可動客席等に関すること	○	全体スライド方式 可動席方式:全体スライド方式
②観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセス及び入退場動線処理に関する考え方	アクセス及び入退場動線に関すること	△	駅からの動線、車両アクセスなど要調整
③ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方	音響環境に関すること	△	側面が開放なので壁、ガラスによる閉塞が必要
	ホスピタリティ機能等、事業計画に関すること	△	専用エントランスがあり、VIP関連諸室も60～70室程度確保されている。商業機能等が南側に集中配置されており、賑わい創出が期待される。
④環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギーの多重化及び緑化等)	省エネルギー技術等に関すること	○	環境技術に対して十分提案されている。大空間の空調に配慮した計画となっている。
⑤構造計画、屋根の架構に関する考え方	構造計画に関すること	○	アーチ架構の反力基礎部分の十分な検討が必要である
	屋根の架構及び開閉機構に関すること	○	折りたたみ方式。固定屋根トラス部に収納。 可動屋根方式:折りたたみ方式 仕上材:膜
⑥事業費及び工期に関する考え方(事業費は、建物本体と外構部分を分けて提示すること。)	事業費(建物本体・外構部分)に関すること	○	
	施工性や工期に関すること	△	実施設計完了前に建設工事着手の提案になっており、発注までのフローを検討する必要がある。
2.「デザイン提案条件」に規定している事項等			
施設建築物の配置(配置及び高さ)		△	最高高さが規定の高さを超えている(約80m)
土地利用構成		△	都営住宅敷地をアクセス・オープンスペースとして活用することの検討が必要
施設構成		○	
スタジアムへのアクセス		△	鉄道跨線橋デッキや414号車両アクセスについて要調整
公園面積、公開空地の割合		△	公園・公開空地の確保について検討・調整が必要
緑化・環境配慮・防災対策		△	緑化空間が不明瞭。防災対策が必要
防災・避難計画及び法令等に抵触することが明らかな事項等		○	

技術調査の確認項目【確認項目表(1):「テーマ別の計画提案」に示した①～⑥の項目のうち技術的確認が必要な事項】

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
①-1.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (可動客席等に関すること) [REDACTED]	○	
1)可動席は物理的、機能的に実現可能と想定できるものか。		全体スライド式。
2)可動席の設定範囲はほぼ適切といえるものか(極端に偏る等していないかなど)	○	
3)可動席を利用していない時の雰囲気には支障はないか。	○	
4)トラック等床面の養生等無理な方法となっていないか。		なっていない。
5)可動席の運営に過大な費用を要する内容となっていないか。		なっていない。
		ユニークな外見。オーソドックスな内部。
①-2.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (その他大掛かりな機構の提案) [REDACTED]		
(例:ピッチの分割、移動など(札幌ドームの芝面))あれば部位を記す		
・①-1と同様のチェックを行う。		
②-1.観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセスに関する考え方 [REDACTED]	△	駅からの歩行者動線、車両アクセスなど要調整
1)駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。	△	線路北側から渡ってアクセスする跨線デッキ2本をアクセスの重要な軸としており、調整が必要
2)車動線および駐車場配置の提案がなされているか。	△	車両動線が不明瞭。414号からの駐車場インについて要調整
3)オリンピック等大規模なイベント時のアクセス等について特別な提案がなされているか。	△	記載なし
②-2.観客等の入退場動線処理に関する考え方 [REDACTED]	○	
1)スタジアムの外に人だまり空間が提案されているか。	○	

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
③-1.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(音響環境)	△	側面が開放なので壁、ガラスによる閉塞が必要
1) イベント利用時の音響環境(建築音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。	△	記載なし
2) イベント利用時の音響環境(電機音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。	△	記載なし
3) イベント利用時の遮音や振動について考慮されているか。	△	記載なし
4) 屋根の開閉に対応した音響環境を考慮しているか。	△	記載なし
③-2.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(事業計画)	△	
1) ホスピタリティ機能について効果的な提案がされているか。	○	専用エントランスがあり、VIP関連諸室も60～70室程度確保されている。
2) 競技場施設のスポーツ以外の利活用について具体のイメージや実施方法等の提案があるか。	△	コンサート程度であり具体的提案に乏しい
3) 競技場周辺を含めた、イベント非開催時の商業・文化等の機能の提案、具体の展開イメージについて記載があるか	○	商業機能等が南側に集中配置されており、賑わい創出が期待される。
④.環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギー多重化及び緑化等)	○	環境技術に対して十分提案されている。大空間の空調に配慮した計画となっている。
1) 最先端の環境技術を備える提案や具体の記述が実現性をもってなされているか。	○	自然採光、地中熱利用、ナイトバージ、雨水再利用、自然換気、クールチューブ、太陽光発電、蒸発性クーリングシステム(雨水)
2) エネルギーの多重化など非常時の設備的対応について提案されているか	△	記載なし
3) ランニングコスト(LCC・LCO2含む)や維持管理方法等について配慮されているか	△	記載なし
4) 大空間(観覧席やコンコース)の空調等の記載があるか。(実現性や効果は期待出来るか)	○	居住域空調
5) 有効な緑化計画がされているか。	○	空中ランドスケープ、公園、屋上緑化
	△	記載なし

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
⑤-1.構造計画に関する考え方	○	1)を評価対象とし、2)3)4)は別分野での評価とし参考評価とした。
1)全体的に大空間を支えられる現実的な構造となっているか。	○	主架構は成立する。アーチ架構の反力基礎部分の十分な検討が必要である
2)開閉機構を支える屋根架構は、技術的に可能な提案となっているか。	○	可動式膜の折りたたみ収納として曲面収納や、収納スペースの再考が必要である。
3)芝の管理の負担を軽減するために南側の日射を確保をした開閉機構を有する屋根架構となっているか。	○	南側日射を確保した開閉機構とはなっている。固定屋根膜の透過性、有効開口部面積の確認が必要と思われる。
4)特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっていないか。	×	膜がしわになりやすく、補修費用などのメンテ費用の負担が大きいと思われる。
⑤-2.屋根の架構及び開閉機構に関する考え方	○	
1)開閉式屋根の機構提案は、構造的、技術的に実現可能か。	○	折りたたみ方式で、屋根トラス部長辺方向に収納。
2)過大な建設費用を要することとなっていないか。		要さない。
3)特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっていないか。		なっていない。
		オーソドックスな技術と思われる。
⑥-1.事業費(建物本体/外構部分)に関する考え方 (事業費)	○	
1)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動屋根)	○	
2)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動席)	△	詳細不明
3)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(外装・地下の範囲)	○	
4)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(環境配慮)	○	
5)全体的に想定価格に納まっていると言えそうか。	○	
⑥-2.施工性や工期に関する考え方 (工期)	△	実施設計完了前に建設工事着手の提案になっており、発注までのフローを検討する必要がある。
1)工期を要する特殊な要素がないか。(地下・特殊構造など)	△	実施設計完了前に建設工事着手の提案になっており、発注までのフローを検討する必要がある。
2)現場に工事ヤードを広く必要とする工法となっていないか。(ヤードの確保は難しい)	○	問題は見当たらない。
3)設定工期での実現や工事の影響を低減するために効果的な工法の提案はあるか。	△	提案なし
4)入手が困難な材料や機器等の使用はなされていないか。	△	屋根材料の大臣認定取得が必要となる可能性が高い。
5)品質に支障をきたす要素がないか。	○	提案の内容には、特には見当たらない。

技術調査の確認項目【確認項目表(2):「Ⅱ.デザイン提案条件」に規定している事項】

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
施設建築物の配置(配置及び高さ)	△	高さ制限超過
・スタジアムは施設建築範囲内に建築されているか。	○	
・各位置における最高高さの制限は満たしているか。	×	最高高さ制限を超えている(約80m)
・敷地境界線から8mの後退距離を確保しているか。	△	外苑西通り側で一部後退距離が不足
土地利用構成	△	都営住宅敷地をアクセス・オープンスペースとして活用することを検討する。
・規定の範囲内の土地利用がされているか。	×	都営住宅が存置されており、都営住宅敷地をアクセス・オープンスペースとして活用することを検討する。JRを超えて北側と連絡するデッキの提案がある。
・関連敷地に新たに建築建築物(人工地盤等の工作物を除く)を建築していないか。	○	要項に抵触するような提案はない。
施設構成	○	
・観客席が8万席以上確保されているか。	○	
・規定の施設構成(導入機能と規模)が確保されているか。	○	
・ラグビー、サッカー、陸上競技等の関連規定を満たすフィールドが設けられているか。	×	陸上トラックの表現なし。
スタジアムへのアクセス	△	鉄道跨線橋や414号車両アクセスについて要調整
・駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。	△	線路北側から渡ってアクセスする跨線デッキ2本について調整が必要
・車両のメインアクセスは都道418号(外苑西通り)側に設置されているか。	×	西通り線は利用せず。関係車両は国道414号との交差点からアクセス、(駐車場は区道43-890からアクセス)
・サブトラック、投てき練習場からの移動を考慮した競技者動線が提案されているか。	○	Levelプランにスロープ表現
公園面積、公開空地の割合	△	公園・公開空地の確保について検討・調整が必要。
・既設公園と同規模以上の面積を各区の範囲内に確保しているか。 (渋谷区:約22,000㎡、新宿区:約12,000㎡)	×	範囲・面積の記載がない。
・「公園の再配置が可能な範囲」内に公園が配置されているか。	△	渋谷区分は、スタジアムの配置、都道418号上空デッキのサイズより、確保できない可能性がある。新宿区分の確保のため、関連敷地を公園とすることを検討する必要がある。
・敷地面積の40%以上の公開空地が確保されているか。	×	範囲・面積・空地率の記載がない。
・「公開空地の確保が可能な範囲」内に公開空地が配置されているか。	△	公園範囲の設定後、建物周りも含めて確保すると考えても40%を確保できない可能性がある。
・歩行者等にとって快適で良好な位置に設けられているか。		
緑化・環境配慮・防災対策	△	緑化空間が不明瞭。防災対策が必要
・緑化・環境に対して、特別な提案がなされているか。	△	緑化空間が不明瞭
・防災対策に対して、特別な提案がなされているか。	△	記載なし
防災・避難計画および法令等に抵触することが明らかな事項等	○	
・災害発生時等緊急時に対応した避難計画となっているか。	○	
・災害発生時の避難場所としての機能や動線等について配慮されているか。	○	
・その他あきらかに法令に抵触する事項があるか。	○	

技術調査の確認リスト【総括表】

項目		確認結果(○・△・×)	所見
1.「テーマ別の計画提案」に示した項目			
①臨場感あふれる観覧席に関する考え方	可動客席等に関すること	△	無。大型スクリーンで臨場感を演出していると思われる。 可動席方式:無
②観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセス及び入退場動線処理に関する考え方	アクセス及び入退場動線に関すること	○	スタジアムの外周動線について要調整
③ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方	音響環境に関すること	△	可動屋根と天井の隙間は防ぐべき。
	ホスピタリティ機能等、事業計画に関すること	△	専用エントランスが設置されており、80室程度の十分なVIPルーム等が確保されている。ただし、スポーツ以外、日常の賑わい創出に関する提案・機能は乏しい。
④環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギーの多重化及び緑化等)	省エネルギー技術等に関すること	△	環境配慮に対する提案が乏しい。
⑤構造計画、屋根の架構に関する考え方	構造計画に関すること	×	シェル構造を用いていない架構計画であり、架構の相当大幅な改善が必要である。
	屋根の架構及び開閉機構に関すること	○	6分割カメラシャッター、スライド方式、中心部開口部が残る。詳細がわからないが可動屋根方式:スライド方式(カメラシャッター)外曲げ剛性が必要。 (ETFEは国内で認定が取れていない。)
⑥事業費及び工期に関する考え方(事業費は、建物本体と外構部分を分けて提示すること。)	事業費(建物本体・外構部分)に関すること	△	主体構造の実現性に課題がある。
	施工性や工期に関すること	○	可動屋根の機構について、検討が必要ではあるが、全体的には実現可能と思われる。
2.「デザイン提案条件」に規定している事項等			
施設建築物の配置(配置及び高さ)		△	最高高さが規定の高さを超えている(約75m)
土地利用構成		△	アクセス等としての利用提案が不明瞭
施設構成		○	
スタジアムへのアクセス		○	
公園面積、公開空地の割合		△	区別面積の記載がない
緑化・環境配慮・防災対策		○	防災対策が必要
防災・避難計画及び法令等に抵触することが明らかな事項等		○	

技術調査の確認項目【確認項目表(1):「テーマ別の計画提案」に示した①～⑥の項目のうち技術的確認が必要な事項】

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
①-1.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (可動客席等に関すること) [REDACTED]	△	
1)可動席は物理的、機構的に実現可能と想定できるものか。		無。
2)可動席の設定範囲はほぼ適切といえるものか(極端に偏る等していないかなど)		
3)可動席を利用していない時の雰囲気には支障はないか。		
4)トラック等床面の養生等無理な方法となっていないか。		
5)可動席の運営に過大な費用を要する内容となっていないか。		
		大型スクリーン。
①-2.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (その他大掛かりな機構の提案) [REDACTED]		
(例:ピッチの分割、移動など(札幌ドームの芝面))あれば部位を記す		
・①-1と同様のチェックを行う。		
②-1.観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセスに関する考え方 [REDACTED]	○	スタジアムの外周動線について要調整
1)駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。	○	
2)車動線および駐車場配置の提案がなされているか。	○	空間的な配置について不明瞭
3)オリンピック等大規模なイベント時のアクセス等について特別な提案がなされているか。	△	スタジアムの外周動線が周回しておらず、オリンピック時の暫定利用への対応が難しい
②-2.観客等の入退場動線処理に関する考え方 [REDACTED]	○	
1)スタジアムの外に人だまり空間が提案されているか。	○	西側と東側の人溜まり空間配置が均等でなく、西側に負荷が集中するように見える(要調整)

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
③-1.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(音響環境)	△	可動屋根と天井の隙間は防ぐべき。
1) イベント利用時の音響環境(建築音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。	△	記載なし
2) イベント利用時の音響環境(電機音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。	△	記載なし
3) イベント利用時の遮音や振動について考慮されているか。	△	記載なし
4) 屋根の開閉に対応した音響環境を考慮しているか。	△	記載なし
③-2.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(事業計画)	△	
1) ホスピタリティ機能について効果的な提案がされているか。	○	専用エントランスが設置されており、80室程度の十分なVIPルーム等が確保されている。
2) 競技場施設のスポーツ以外の利活用について具体的なイメージや実施方法等の提案があるか。	△	コンサート程度であり具体的提案にとぼしい。
3) 競技場周辺を含めた、イベント非開催時の商業・文化等の機能の提案、具体の展開イメージについて記載があるか	×	ほぼ提案がない
④.環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギー多重化及び緑化等)	△	環境配慮に対する提案が乏しい。
1) 最先端の環境技術を備える提案や具体の記述が実現性をもってなされているか。	○	太陽光発電、自然換気、リサイクル材の使用、節水型器具
2) エネルギーの多重化など非常時の設備の対応について提案されているか	△	記載なし
3) ランニングコスト(LCC・LCO2含む)や維持管理方法等について配慮されているか	△	記載なし
4) 大空間(観覧席やコンコース)の空調等の記載があるか。(実現性や効果は期待出来るか)	△	記載なし
5) 有効な緑化計画がされているか。	△	記載なし
	△	記載なし

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
⑤-1.構造計画に関する考え方	×	1)を評価対象とし、2)3)4)は別分野での評価とし参考評価とした。
1)全体的に大空間を支えられる現実的な構造となっているか。	×	メインフレームの箇所数不足と部材が細いため、実現性は低いと思われる。シェル構造を用いていない架構計画であり、架構の相当大幅な改善が必要である。
2)開閉機構を支える屋根架構は、技術的に可能な提案となっているか。	×	屋根架構が複雑である。
3)芝の管理の負担を軽減するために南側の日射を確保をした開閉機構を有する屋根架構となっているか。	×	南側日射を確保した開閉機構とはなっていない。
4)特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっていないか。	不明	開閉屋根機構が困難なため判断できない。
⑤-2.屋根の架構及び開閉機構に関する考え方	△	
1)開閉式屋根の機構提案は、構造的、技術的に実現可能か。	○	カメラシャッターの様なスライド方式(6分割)図では閉時でも中心に開口部。
2)過大な建設費用を要することとなっていないか。		片持で支持となるとかなりの曲げ剛性が必要。具体的な構造説明が必要。
3)特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっていないか。		片持で支持となるとかなりの曲げ剛性が必要。具体的な構造説明が必要。
		全体形状と開閉方式のユニークさ。
⑥-1.事業費(建物本体/外構部分)に関する考え方 (事業費)	△	主体構造の実現性に課題がある。
1)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動屋根)	△	システムの実現性に検討の余地がある
2)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動席)	△	詳細不明
3)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(外装・地下の範囲)	○	
4)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(環境配慮)	△	詳細不明
5)全体的に想定価格に納まっていると見えそうか。	△	詳細不明
⑥-2.施工性や工期に関する考え方 (工期)	○	可動屋根の機構について、検討が必要ではあるが、全体的には実現可能と思われる。
1)工期を要する特殊な要素がないか。(地下・特殊構造など)	△	工事期間の提案はあるが、詳細工程の検討が必要である。
2)現場に工事ヤードを広く必要とする工法となっていないか。(ヤードの確保は難しい)	○	問題は見当たらない。
3)設定工期での実現や工事の影響を低減するために効果的な工法の提案はあるか。	△	提案なし
4)入手が困難な材料や機器等の使用はなされていないか。	△	屋根材料(ETFT)の大臣認定取得が必要となる可能性が高い。
5)品質に支障をきたす要素がないか。	△	可動屋根の機構について、検討が必要である。

技術調査の確認項目【確認項目表(2):「Ⅱ.デザイン提案条件」に規定している事項】

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
施設建築物の配置(配置及び高さ)	△	高さ制限超え
・スタジアムは施設建築範囲内に建築されているか。	○	
・各位置における最高高さの制限は満たしているか。	×	最高高さ制限を超えている(約75m)
・敷地境界線から8mの後退距離を確保しているか。	○	
土地利用構成	△	アクセス等としての利用提案が不明瞭
・規定の範囲内の土地利用がされているか。	△	要項の規定に適合している。ただし、関連敷地(都営住宅)は、更地化する以上の提案がないため、アクセス等として利用する提案かどうかは読み取れない。
・関連敷地に新たに建築建築物(人工地盤等の工作物を除く)を建築していないか。	○	要項に抵触するような提案はない。
施設構成	○	
・観客席が8万席以上確保されているか。	○	
・規定の施設構成(導入機能と規模)が確保されているか。	△	ゾーニングが不明瞭。
・ラグビー、サッカー、陸上競技等の関連規定を満たすフィールドが設けられているか。	○	
スタジアムへのアクセス	○	
・駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。	○	
・車両のメインアクセスは都道418号(外苑西通り)側に設置されているか。	○	
・サブトラック、投てき練習場からの移動を考慮した競技者動線が提案されているか。	△	トンネルによるアクセスと思われるが不明瞭
公園面積、公開空地の割合	△	区別面積の記載がない
・既設公園と同規模以上の面積を各区の範囲内に確保しているか。 (渋谷区:約22,000㎡、新宿区:約12,000㎡)	×	公園のトータル面積の記載はあるが、区別の内訳および範囲の記載がない。 渋谷区分は、スタジアムの配置、都道418号上空デッキの形状より、確保できない可能性がある。新宿区分は、関連敷地も含めれば確保できる可能性がある。
・「公園の再配置が可能な範囲」内に公園が配置されているか。	△	
・敷地面積の40%以上の公開空地が確保されているか。	×	オープンエリア60%との記載はあるが、範囲・面積・空地率の記載がない。
・「公開空地の確保が可能な範囲」内に公開空地が配置されているか。	△	公園範囲の設定後、建物周りも含めて確保すると考えると40%を確保できる可能性がある。
・歩行者等にとって快適で良好な位置に設けられているか。		
緑化・環境配慮・防災対策	○	地域防災対策が必要
・緑化・環境に対して、特別な提案がなされているか。	○	
・防災対策に対して、特別な提案がなされているか。	△	記載なし
防災・避難計画および法令等に抵触することが明らかな事項等	○	問題なし
・災害発生時等緊急時に対応した避難計画となっているか。	○	
・災害発生時の避難場所としての機能や動線等について配慮されているか。	○	
・その他あきらかに法令に抵触する事項があるか。	○	

技術調査の確認リスト【総括表】

項目		確認結果(○・△・×)	所見
1.「テーマ別の計画提案」に示した項目			
①臨場感あふれる観覧席に関する考え方	可動客席等に関すること	△	無。判断不能。 可動席方式:無
②観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセス及び入退場動線処理に関する考え方	アクセス及び入退場動線に関すること	△	駅までの歩行者アクセス、車両動線位置、広場的な空間確保などについて要調整
③ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方	音響環境に関すること	○	側面部分の「ガラスによる遮音」は遮音量の面で疑問だが、構造面での工夫により改善は可能と思われる。室内音響への配慮に対する意識も見受けられる。
	ホスピタリティ機能等、事業計画に関すること	△	関連諸室の記載はあるが、確保しているスペースが乏しい。具体的な提案にも欠ける。商業機能等を北側に集中配置しているが、周遊性に欠ける。
④環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギーの多重化及び緑化等)	省エネルギー技術等に関すること	△	環境配慮に対する提案が乏しい。
⑤構造計画、屋根の架構に関する考え方	構造計画に関すること	○	部材断面の増強などの十分な検討が必要である。
	屋根の架構及び開閉機構に関すること	△	折りたたみ方式。Φ125mで中心でねじり上げるような方式動作説明詳細 可動屋根方式:折りたたみ方式が欲しい。スムーズに可動するか、膜の取付は十分な検討の必要がある 材:膜
⑥事業費及び工期に関する考え方(事業費は、建物本体と外構部分を分けて提示すること。)	事業費(建物本体・外構部分)に関すること	△	掘削深さが-20m程度あるため、工期、コストへの影響が懸念される。可動屋根材についてははしわができることが予想され、補修、メンテナンス費用の負担が懸念される。
	施工性や工期に関すること	△	提案の掘り下げた計画は、工期内での完成は厳しい。また、可動屋根の膜のねじれ機構、屋根の雨水処理について、検討が必要である。
2.「デザイン提案条件」に規定している事項等			
施設建築物の配置(配置及び高さ)		○	
土地利用構成		△	関連敷地を池利用、要調整
施設構成		○	
スタジアムへのアクセス		△	北側の414号からのアクセスについて要調整
公園面積、公開空地の割合		△	公開空地の範囲・空地率の記載がない
緑化・環境配慮・防災対策		○	
防災・避難計画及び法令等に抵触することが明らかな事項等		○	

技術調査の確認項目【確認項目表(1):「テーマ別の計画提案」に示した①～⑥の項目のうち技術的確認が必要な事項】

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
①-1.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (可動客席等に関すること)	△	
1)可動席は物理的、機構的に実現可能と想定できるものか。		無。
2)可動席の設定範囲はほぼ適切といえるものか(極端に偏る等していないかなど)		
3)可動席を利用していない時の雰囲気には支障はないか。		
4)トラック等床面の養生等無理な方法となっていないか。		
5)可動席の運営に過大な費用を要する内容となっていないか。		
①-2.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (その他大掛かりな機構の提案)		
(例:ピッチの分割、移動など(札幌ドームの芝面))あれば部位を記す		
・①-1と同様のチェックを行う。		
②-1.観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセスに関する考え方	△	駅までの歩行者アクセス、車両動線位置について要調整
1)駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。	△	地表アクセスであり、駅までの動線を現状のアクセスのままとしているので、駅までの歩行者交通対策について要調整
2)車動線および駐車場配置の提案がなされているか。	△	北側の414号及び南側の46-690号の2ヶ所アクセスであり、不足。要調整。
3)オリンピック等大規模なイベント時のアクセス等について特別な提案がなされているか。	△	記載なし
②-2.観客等の入退場動線処理に関する考え方	△	広場的な空間確保について要調整
1)スタジアムの外に人だまり空間が提案されているか。	△	回遊状の動線を確保しており、面的な空間はない。屋上の緑化空間は人溜まり空間活用ではない。要調整

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
③-1.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(音響環境) 1) イベント利用時の音響環境(建築音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。 2) イベント利用時の音響環境(電機音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。 3) イベント利用時の遮音や振動について考慮されているか。 4) 屋根の開閉に対応した音響環境を考慮しているか。	○ ○ ○ ○	側面部分の「ガラスによる遮音」は遮音量の面で疑問だが、構造面での工夫により改善は可能と思われる。 室内音響への配慮に対する意識も見受けられる。 形状による効果にも言及されている ガラスによる遮音の提案だが遮音量の面で疑問か。
③-2.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(事業計画) 1) ホスピタリティ機能について効果的な提案がされているか。 2) 競技場施設のスポーツ以外の利活用について具体のイメージや実施方法等の提案があるか。 3) 競技場周辺を含めた、イベント非開催時の商業・文化等の機能の提案、具体の展開イメージについて記載があるか	△ △ × △	関連諸室の記載はあるが、確保しているスペースが乏しい。具体的な提案にも欠ける。 提案無し。 商業機能等を北側に集中配置しているが、周遊性に欠ける。
④.環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギー多重化及び緑化等) 1) 最先端の環境技術を備える提案や具体の記述が実現性をもってなされているか。 2) エネルギーの多重化など非常時の設備的対応について提案されているか 3) ランニングコスト(LCC・LCCO2含む)や維持管理方法等について配慮されているか 4) 大空間(観覧席やコンコース)の空調等の記載があるか。(実現性や効果は期待出来るか) 5) 有効な緑化計画がされているか。	△ △ △ △ ○ △	環境配慮に対する提案が乏しい。 記載なし 記載なし 記載なし 記載なし 屋上緑化、広大な緑地計画(ヒートアイランドの抑制) 記載なし

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
⑤-1.構造計画に関する考え方	△	1)を評価対象とし、2)3)4)は別分野での評価とし参考評価とした。
1) 全体的に大空間を支えられる現実的な構造となっているか。	△	屋根の支持架構はRC片もち架構となっており、現実的なシステムである。
2) 開閉機構を支える屋根架構は、技術的に可能な提案となっているか。	△	開閉膜の取付に問題があり再考の必要がある。
3) 芝の管理の負担を軽減するために南側の日射を確保をした開閉機構を有する屋根架構となっているか。	×	面積が確保されていない。
4) 特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっていないか。	×	屋根材にしわができ、補修、メンテに費用がかかる。
⑤-2.屋根の架構及び開閉機構に関する考え方	△	
1) 開閉式屋根の機構提案は、構造的、技術的に実現可能か。	△	折りたたみ方式。Φ125mで中心部戻り上げるような方式。動作説明が欲しいが出来るように思う。
2) 過大な建設費用を要することとなっていないか。		要さない。
3) 特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっていないか。		なっている。シンプルであるが提案の折りたたみ式はスムーズな可動が要求される。メンテにコストがかかる可能性あり。
⑥-1.事業費(建物本体/外構部分)に関する考え方 (事業費)	△	掘削深さが-20m程度あるため、工期、コストへの影響の懸念される。可動屋根材についてはしわができることが予想され、補修、メンテナンス費用の負担が懸念される。
1) 工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動屋根)	△	システムの実現性に検討の余地がある
2) 工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動席)	△	詳細不明
3) 工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(外装・地下の範囲)	△	掘削深さが-20m程度あるため、コスト、工期への影響が懸念される。
4) 工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(環境配慮)	○	
5) 全体的に想定価格に納まっていると言えるか。	△	
⑥-2.施工性や工期に関する考え方 (工期)	△	提案の掘り下げた計画であれば、工期内での完成が厳しいと思われる。また、可動屋根の膜のねじれ機構、屋根の雨水処理について、検討が必要である。
1) 工期を要する特殊な要素がないか。(地下・特殊構造など)	△	地下工事(-22m程度)が深いことから、提案の掘り下げた計画であれば、工期内での完成が厳しいと思われる。
2) 現場に工事ヤードを広く必要とする工法となっていないか。(ヤードの確保は難しい)	△	掘削土の搬出用構台などの計画が必要である。
3) 設定工期での実現や工事の影響を低減するために効果的な工法の提案はあるか。	△	提案なし
4) 入手が困難な材料や機器等の使用はなされていないか。	○	特には見当たらない。
5) 品質に支障をきたす要素がないか。	△	①屋根の雨水処理の機構に検討が必要である。 ②可動屋根の膜のねじれ機構について、検討が必要である。

技術調査の確認項目【確認項目表(2):「Ⅱ.デザイン提案条件」に規定している事項】

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
施設建築物の配置(配置及び高さ) ・スタジアムは施設建築範囲内に建築されているか。 ・各位置における最高高さの制限は満たしているか。 ・敷地境界線から8mの後退距離を確保しているか。	○ ○ ○ ○	
土地利用構成 ・規定の範囲内の土地利用がされているか。 ・関連敷地に新たに建築建築物(人工地盤等の工作物を除く)を建築していないか。	△ △ ○	関連敷地を池利用、要調整 要項の規定に適合している。ただし、関連敷地(都営住宅)を池としており、アクセスとしての利用には一定の制約がある。 要項に抵触するような提案はない。
施設構成 ・観客席が8万席以上確保されているか。 ・規定の施設構成(導入機能と規模)が確保されているか。 ・ラグビー、サッカー、陸上競技等の関連規定を満たすフィールドが設けられているか。	○ ○ △ ○	ゾーニングが不明瞭。
スタジアムへのアクセス ・駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。 ・車両のメインアクセスは都道418号(外苑西通り)側に設置されているか。 ・サブトラック、投てき練習場からの移動を考慮した競技者動線が提案されているか。	△ △ × △	北側の414号アクセスについて要調整 地表アクセスであり、駅までの動線を現状のアクセスのままとしている。駅までの歩行者交通対策について要調整 418号を利用せず、北側の都道414号、南側の区道43-690からアクセス 南西側のサブ車路を活用すればアクセスは可能
公園面積、公開空地の割合 ・既設公園と同規模以上の面積を各区の範囲内に確保しているか。 (渋谷区:約22,000㎡、新宿区:約12,000㎡) ・「公園の再配置が可能な範囲」内に公園が配置されているか。 ・敷地面積の40%以上の公開空地が確保されているか。 ・「公開空地の確保が可能な範囲」内に公開空地が配置されているか。	△ ○ ○ × △	公開空地の範囲・空地率の記載がない 範囲・面積が明示されており、両区とも確保可能範囲に確保されている。 スタジアムを埋設することにより、建物上部・屋上を公園として利用している。 公開空地面積の記載はあるが、範囲・空地率の記載がない。 スタジアム敷地を公園としていることを勘案すれば、ダブルカウントか敷地外を公開空地と設定しているものと思われる。なお、公園との入れ替えにより、確保可能範囲内に40%確保の可能性はある。
歩行者等にとって快適で目立つ位置に設けられているか		
緑化・環境配慮・防災対策 ・緑化・環境に対して、特別な提案がなされているか。 ・防災対策に対して、特別な提案がなされているか。	○ ○ ○	
防災・避難計画および法令等に抵触することが明らかな事項等 ・災害発生時等緊急時に対応した避難計画となっているか。 ・災害発生時の避難場所としての機能や動線等について配慮されているか。 ・その他あきらかに法令に抵触する事項があるか。	○ ○ ○	問題なし

技術調査の確認リスト【総括表】

項目	確認結果(○・△・×)	所見
1.「テーマ別の計画提案」に示した項目	確認の観点	
①臨場感あふれる観覧席に関する考え方	可動客席等に関すること	○ 方式等詳細は不明。設置は容易。 可動席方式:不明
②観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセス及び入退場動線処理に関する考え方	アクセス及び入退場動線に関すること	○ 区道43-670号の廃道について要調整
③ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方	音響環境に関すること ホスピタリティ機能等、事業計画に関すること	○ 天井吸音パネルによる室内音響に対する配慮、天井パネルおよび建具による騒音抑制への意識が伺える。また、外周がダブルスキン構造のため、遮音上も非常に有利。 △ 十分な広さのホスピタリティ関連スペースを確保している。南側に商業機能等を集中配置しているものの、回遊性に乏しい提案である。
④環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギーの多重化及び緑化等)	省エネルギー技術等に関すること	○ 環境技術に対して十分提案されている。エネルギー多重化の提案がある。
⑤構造計画、屋根の架構に関する考え方	構造計画に関すること	△ 耐震設計が不十分で部材の追加、増強など架構計画の十分な検討が必要である。
	屋根の架構及び開閉機構に関すること	○ 2分割短辺スライド方式。 可動屋根方式:短辺スライド方式 仕上材:膜
⑥事業費及び工期に関する考え方(事業費は、建物本体と外構部分を分けて提示すること。)	事業費(建物本体・外構部分)に関すること	○
	施工性や工期に関すること	○ 全体的には実現可能と思われる。
2.「デザイン提案条件」に規定している事項等		
施設建築物の配置(配置及び高さ)	×	施設建築範囲を超えて提案(建國記念文庫、東京体育館)／部分的に規定の高さを超えている
土地利用構成	×	区道43-670号を廃道としている
施設構成	△	陸上トラックの表現なし
スタジアムへのアクセス	△	区道43-470号の廃道について要調整
公園面積、公開空地の割合	△	範囲・面積の記載がない
緑化・環境配慮・防災対策	○	地域防災対策が必要
防災・避難計画及び法令等に抵触することが明らかな事項等	○	

技術調査の確認項目【確認項目表(1):「テーマ別の計画提案」に示した①～⑥の項目のうち技術的確認が必要な事項】

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
①-1.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (可動客席等に関すること)	○	
1)可動席は物理的、機構的に実現可能と想定できるものか。		有りようである。詳細不明だが、スタジアム自体はオーソドックスなので問題ないのでは。
2)可動席の設定範囲はほぼ適切といえるものか(極端に偏る等していないかなど)	○	
3)可動席を利用していない時の雰囲気には支障はないか。	○	
4)トラック等床面の養生等無理な方法となっていないか。		なっていない。
5)可動席の運営に過大な費用を要する内容となっていないか。		なっていない。
①-2.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (その他大掛かりな機構の提案)		
(例:ピッチの分割、移動など(札幌ドームの芝面))あれば部位を記す		
・①-1と同様のチェックを行う。		
②-1.観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセスに関する考え方	○	
1)駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。	○	
2)車動線および駐車場配置の提案がなされているか。	○	
3)オリンピック等大規模なイベント時のアクセス等について特別な提案がなされているか。	△	記載なし
②-2.観客等の入退場動線処理に関する考え方	△	区道43-670号の廃道について要調整
1)スタジアムの外に人だまり空間が提案されているか。	△	人溜まり空間は設けているが、区道43-670号を廃道が前提となっている。要調整。

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
③-1.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(音響環境) 1) イベント利用時の音響環境(建築音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。 2) イベント利用時の音響環境(電機音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。 3) イベント利用時の遮音や振動について考慮されているか。 4) 屋根の開閉に対応した音響環境を考慮しているか。	○ ○ △ △ ○	天井吸音パネルによる室内音響に対する配慮、天井パネルおよび建具による騒音抑制への意識が伺える。 また、外周がダブルスキン構造のため、遮音上も非常に有利。 残響時間目標値が具体的に設定されている 記述なし 記述なし 外部騒音目標値が設定されている。
③-2.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(事業計画) 1) ホスピタリティ機能について効果的な提案がされているか。 2) 競技場施設のスポーツ以外の利活用について具体のイメージや実施方法等の提案があるか。 3) 競技場周辺を含めた、イベント非開催時の商業・文化等の機能の提案、具体の展開イメージについて記載があるか	△ ○ △ △	十分な広さのホスピタリティ関連スペースを確保している。 コンサート程度であり、具体的な提案に乏しい。 南側に商業機能等を集中配置しているものの、回遊性に乏しい提案である。
④.環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギー多重化及び緑化等) 1) 最先端の環境技術を備える提案や具体の記述が実現性をもってなされているか。 2) エネルギーの多重化など非常時の設備的対応について提案されているか 3) ランニングコスト(LCC・LCO2含む)や維持管理方法等について配慮されているか 4) 大空間(観覧席やコンコース)の空調等の記載があるか。(実現性や効果は期待出来るか) 5) 有効な緑化計画がされているか。	○ ○ △ △ △ ○ △	環境技術に対して十分提案されている。エネルギー多重化の提案がある。 雨水再利用、太陽光発電(1.1MW)、自然換気、地域冷暖房、CGS、オフサイトZEB、リサイクル材の使用、EV充電器 記載なし 記載なし 記載なし 屋上緑化、ランドスケープ 記載なし

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
⑤-1.構造計画に関する考え方	△	1)を評価対象とし、2)3)4)は別分野での評価とし参考評価とした。
1)全体的に大空間を支えられる現実的な構造となっているか。	△	固定屋根部の架構システムが不明である。スパンが大きいため、ギールトラスの支持部負担が大きいため、水平力に対する抵抗が少ない。そのため、耐震設計が不十分で部材の追加、増強など架構計画の十分な検討が必要である。
2)開閉機構を支える屋根架構は、技術的に可能な提案となっているか。	○	開閉機構は、平行スライドであるためシンプルで実現性はある。
3)芝の管理の負担を軽減するために南側の日射を確保した開閉機構を有する屋根架構となっているか。	△	日射面積が確保されていない。
4)特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっていないか。	○	
⑤-2.屋根の架構及び開閉機構に関する考え方	○	
1)開閉式屋根の機構提案は、構造的、技術的に実現可能か。	○	短辺スライド方式で2分割されたトラス構造に膜を貼った可動屋根。
2)過大な建設費用を要することとなっていないか。		要さない。オーソドックス。
3)特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっていないか。		なっていない。オーソドックス。
⑥-1.事業費(建物本体/外構部分)に関する考え方 (事業費)	○	
1)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動屋根)	○	
2)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動席)	○	可動方法の詳細について検討の余地あり
3)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(外装・地下の範囲)	○	
4)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(環境配慮)	○	
5)全体的に想定価格に納まっていると言えるか。	○	
⑥-2.施工性や工期に関する考え方 (工期)	○	全体的には実現可能と思われる。
1)工期を要する特殊な要素がないか。(地下・特殊構造など)	△	工事期間の提案がなく、詳細工程の検討が必要である。
2)現場に工事ヤードを広く必要とする工法となっていないか。(ヤードの確保は難しい)	○	問題は見当たらない。
3)設定工期での実現や工事の影響を低減するために効果的な工法の提案はあるか。	△	提案なし
4)入手が困難な材料や機器等の使用はなされていないか。	○	特には見当たらない。
5)品質に支障をきたす要素がないか。	△	音が漏れるので、外装の作り方に検討が必要である。

技術調査の確認項目【確認項目表(2):「Ⅱ.デザイン提案条件」に規定している事項】

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
施設建築物の配置(配置及び高さ) ・スタジアムは施設建築範囲内に建築されているか。 ・各位置における最高高さの制限は満たしているか。 ・敷地境界線から8mの後退距離を確保しているか。	× × × △	施設建築範囲を超えて提案(建国記念文庫(区道43-670廃道)、東京体育館を敷地に含めて提案) 各階デッキ、屋根が高さ制限を超えている(屋根が道路上まで突出) 外苑西通り側は不明(T.P.+24mレベル平面図なし)
土地利用構成 ・規定の範囲内の土地利用がされているか。 ・関連敷地に新たに建築建築物(人工地盤等の工作物を除く)を建築していないか。	× × ○	駆動43-670号を廃道としている 各敷地では規定の範囲内の土地利用がなされているが、区道43-670号が廃道とされている。 要項に抵触するような提案はない。
施設構成 ・観客席が8万席以上確保されているか。 ・規定の施設構成(導入機能と規模)が確保されているか。 ・ラグビー、サッカー、陸上競技等の関連規定を満たすフィールドが設けられているか。	△ ○ △ ×	陸上トラックの表現なし ゾーニングが不明瞭。 陸上トラックの表現なし。
スタジアムへのアクセス ・駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。 ・車両のメインアクセスは都道418号(外苑西通り)側に設置されているか。 ・サブトラック、投てき練習場からの移動を考慮した競技者動線が提案されているか。	△ ○ ○ △	区道43-470号の廃道について要調整 要項と同じ動線をアレンジして図示(多方向から到達可能) 418号からのアクセスはあるが、東側は区道43-670号を廃道にしている 区道43-670を跨ぐ観客動線として歩行者デッキは存在(区道43-670を廃道とされている)
公園面積、公開空地の割合 ・既設公園と同規模以上の面積を各区の範囲内に確保しているか。 (渋谷区:約22,000㎡、新宿区:約12,000㎡) ・「公園の再配置が可能な範囲」内に公園が配置されているか。 ・敷地面積の40%以上の公開空地が確保されているか。 ・「公開空地の確保が可能な範囲」内に公開空地が配置されているか。	△ × △ × △	範囲・面積の記載がない 範囲・面積の記載がない。 渋谷区分は、スタジアムの配置、都道418号上空デッキの形状より、確保できる可能性がある。新宿区分は、関連敷地も含めれば確保できる可能性がある。 範囲・面積・空地率の記載がない。 公園範囲の設定後、建物周りや積層デッキ等も含めて確保すると考えると40%を確保できる可能性がある。
歩行者等にとって快適な良好な位置に設けられているか。		
緑化・環境配慮・防災対策 ・緑化・環境に対して、特別な提案がなされているか。 ・防災対策に対して、特別な提案がなされているか。	○ ○ △	地域防災対策が必要 記載なし
防災・避難計画および法令等に抵触することが明らかな事項等 ・災害発生時等緊急時に対応した避難計画となっているか。 ・災害発生時の避難場所としての機能や動線等について配慮されているか。 ・その他あきらかに法令に抵触する事項があるか。	○ ○ ○ ○	問題なし

技術調査の確認リスト【総括表】

項目	確認結果(○・△・×)	所見
1.「テーマ別の計画提案」に示した項目	確認の観点	
①臨場感あふれる観覧席に関する考え方	可動客席等に関すること	○ 全体スライド方式。可動席方式全体スライド方式
②観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセス及び入退場動線処理に関する考え方	アクセス及び入退場動線に関すること	○
③ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方	音響環境に関すること ホスピタリティ機能等、事業計画に関すること	○ △ 吸音ルーバー、遮音スクリーンなどによる室内音響・遮音への配慮がうかがえる。さらに防振も意識し、大容量ダブルスキン空間は遮音にも極めて有利に働く。 総観客数の10%程度が利用可能なハイクオリティホスピタリティ機能を確保しており、コンコースレベルに東西をつなぐホスピタリティスペースもあわせて確保。地上フロアに博物館・図書館の配置があるが、周遊性に欠ける
④環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギーの多重化及び緑化等)	省エネルギー技術等に関すること	△ 環境配慮に対する提案が乏しい。
⑤構造計画、屋根の架構に関する考え方	構造計画に関すること 屋根の架構及び開閉機構に関すること	△ ○ ひし形のシェル構造は、屋根を支えるには非効率である。 短辺スライド方式。4分割された屋根が左右に2枚ずつ収納。開閉屋根の剛性に問題があり十分な検討の必要がある。可動屋根方式:短辺スライド方式 仕上材:不明
⑥事業費及び工期に関する考え方(事業費は、建物本体と外構部分を分けて提示すること。)	事業費(建物本体・外構部分)に関すること 施工性や工期に関すること	○ △ 現場打ちコンクリートの計画だとすると、工期内での完成が厳しいと思われるため、より詳細な工程検討が必要である。
2.「デザイン提案条件」に規定している事項等		
施設建築物の配置(配置及び高さ)	△	施設建築範囲を超えて提案(東京体育館)
土地利用構成	×	東京体育館のサブアリーナが撤去されている
施設構成	△	観客席面積不足の可能性あり、要調整
スタジアムへのアクセス	○	
公園面積、公開空地の割合	△	範囲・面積の記載がない
緑化・環境配慮・防災対策	○	地域防災対策が必要
防災・避難計画及び法令等に抵触することが明らかな事項等	○	

技術調査の確認項目【確認項目表(1):「テーマ別の計画提案」に示した①～⑥の項目のうち技術的確認が必要な事項】

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
①-1.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (可動客席等に関すること)	○	
1)可動席は物理的、機構的に実現可能と想定できるものか。	○	全体スライド方式。下段1/3程度が一体で可動。
2)可動席の設定範囲はほぼ適切といえるものか(極端に偏る等していないかなど)	○	
3)可動席を利用していない時の雰囲気には支障はないか。	○	
4)トラック等床面の養生等無理な方法となっていないか。		なっていない。
5)可動席の運営に過大な費用を要する内容となっていないか。		なっていない。
		詳細説明が無く、可動席の納まり等不明な点もあるが基本的には可能。
①-2.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (その他大掛かりな機構の提案)		
(例:ピッチの分割、移動など(札幌ドームの芝面))あれば部位を記す		
・①-1と同様のチェックを行う。		
②-1.観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセスに関する考え方	○	
1)駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。	○	
2)車動線および駐車場配置の提案がなされているか。	○	
3)オリンピック等大規模なイベント時のアクセス等について特別な提案がなされているか。	○	
②-2.観客等の入退場動線処理に関する考え方	○	広場的空間の確保について要調整
1)スタジアムの外に人だまり空間が提案されているか。	○	歩行者動線の線的空間が主体であり、広場的な面的空間がスタジアム間近に必要。要調整

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
③-1.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(音響環境) 1) イベント利用時の音響環境(建築音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。 2) イベント利用時の音響環境(電機音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。 3) イベント利用時の遮音や振動について考慮されているか。 4) 屋根の開閉に対応した音響環境を考慮しているか。	○ ○ △ ○ ○	吸音ルーバー、遮音スクリーンなどによる室内音響・遮音への配慮がうかがえる。さらに防振も意識し、大容量ダブルスキン空間は遮音にも極めて有利に働く。 残響時間目標値が具体的に設定されている 記載なし 天井の遮音、土留壁による振動防止にも言及している。
③-2.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(事業計画) 1) ホスピタリティ機能について効果的な提案がされているか。 2) 競技場施設のスポーツ以外の利活用について具体のイメージや実施方法等の提案があるか。 3) 競技場周辺を含めた、イベント非開催時の商業・文化等の機能の提案、具体の展開イメージについて記載があるか	△ ○ ○ △	総観客数の10%程度が利用可能なハイクオリティホスピタリティ機能を確保しており、コンコースレベルに東西をつなぐホスピタリティスペースもあわせて確保。 コンサートモードの説明があり、評価できる。 地上フロアに博物館・図書館の配置があるが、周遊性にかける
④.環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギー多重化及び緑化等) 1) 最先端の環境技術を備える提案や具体の記述が実現性をもってなされているか。 2) エネルギーの多重化など非常時の設備的対応について提案されているか 3) ランニングコスト(LOC・LOCO2含む)や維持管理方法等について配慮されているか 4) 大空間(観覧席やコンコース)の空調等の記載があるか。(実現性や効果は期待出来るか) 5) 有効な緑化計画がされているか。	△ ○ △ △ △ ○ △	環境配慮に対する提案が乏しい。 雨水再利用、自然換気 記載なし 記載なし 記載なし Urban Parks 記載なし

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
⑤-1.構造計画に関する考え方	△	1)を評価対象とし、2)3)4)は別分野での評価とし参考評価とした。
1)全体的に大空間を支えられる現実的な構造となっているか。	△	架構システムは、成立する。ただし、PC同士の接合部、トラス架構とPCの接合部に問題は残る。ひし形のシェル構造は、屋根を支えるには非効率である。
2)開閉機構を支える屋根架構は、技術的に可能な提案となっているか。	△	スライド式での開閉が図示されているだけで詳細が不明である。開閉屋根の鉛直剛性に問題があり、再考の必要がある。
3)芝の管理の負担を軽減するために南側の日射を確保をした開閉機構を有する屋根架構となっているか。	△	開口部は広く取っているが不十分である。
4)特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっていないか。	○	
⑤-2.屋根の架構及び開閉機構に関する考え方	○	
1)開閉式屋根の機構提案は、構造的、技術的に実現可能か。	○	短辺スライド方式。4分割された屋根が左右に2枚ずつ収納。
2)過大な建設費用を要することとなっていないか。		要さない。
3)特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっていないか。		なっていない。
		構造的にオーソドックス。固定屋根部に収納される。
⑥-1.事業費(建物本体/外構部分)に関する考え方 (事業費)	○	
1)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動屋根)	○	
2)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動席)	○	
3)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(外装・地下の範囲)	○	
4)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(環境配慮)	○	
5)全体的に想定価格に納まっていると言えそうか。	○	
⑥-2.施工性や工期に関する考え方 (工期)	△	現場打ちコンクリートの計画だとすると、工期内での完成が厳しいと思われるため、より詳細な工程検討が必要である。
1)工期を要する特殊な要素がないか。(地下・特殊構造など)	△	工事期間の提案はあるが、現場打ちコンクリートでは工期的に厳しいと思われる。
2)現場に工事ヤードを広く必要とする工法となっていないか。(ヤードの確保は難しい)	○	問題は見当たらない。
3)設定工期での実現や工事の影響を低減するために効果的な工法の提案はあるか。	△	提案なし
4)入手が困難な材料や機器等の使用はなされていないか。	○	特には見当たらない。
5)品質に支障をきたす要素がないか。	△	可動屋根の機構が不明であり、検討が必要である。

技術調査の確認項目【確認項目表(2):「Ⅱ.デザイン提案条件」に規定している事項】

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
施設建築物の配置(配置及び高さ) ・スタジアムは施設建築範囲内に建築されているか。 ・各位置における最高高さの制限は満たしているか。 ・敷地境界線から8mの後退距離を確保しているか。	△ × ○ ○	建築範囲超え 施設建築範囲を超えて提案(東京体育を敷地に含めて提案)
土地利用構成 ・規定の範囲内の土地利用がされているか。 ・関連敷地に新たに建築建築物(人工地盤等の工作物を除く)を建築していないか。	× × ×	東京体育館のサブアリーナが撤去されている サブアリーナが撤去されており、関連敷地で規定の範囲内の土地利用がなされていない。 東京体育館の敷地内に新たな建築物(商業施設)が提案されている。
施設構成 ・観客席が8万席以上確保されているか。 ・規定の施設構成(導入機能と規模)が確保されているか。 ・ラグビー、サッカー、陸上競技等の関連規定を満たすフィールドが設けられているか。	△ △ △ ○	観客席面積不足の可能性あり、要調整 面積不足の可能性あり。要調整。 ゾーニングが不明瞭。
スタジアムへのアクセス ・駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。 ・車両のメインアクセスは都道418号(外苑西通り)側に設置されているか。 ・サブトラック、投てき練習場からの移動を考慮した競技者動線が提案されているか。	○ ○ ○ ○	外苑西通り側に4ヶ所の出入口を設置(各車両で動線を分散)、一般車駐車場サブアクセスを北側に設置 区道43-670を横断してアクセス
公園面積、公開空地の割合 ・既設公園と同規模以上の面積を各区の範囲内に確保しているか。 (渋谷区:約22,000㎡、新宿区:約12,000㎡) ・「公園の再配置が可能な範囲」内に公園が配置されているか。 ・敷地面積の40%以上の公開空地が確保されているか。 ・「公開空地の確保が可能な範囲」内に公開空地が配置されているか。	△ × △ × △	範囲・面積の記載がない 範囲・面積の記載がない。 渋谷区分は、スタジアムの配置、都道418号上空デッキの形状より、確保できる可能性がある。新宿区分は、関連敷地も含めれば確保できる可能性がある。 範囲・面積・空地率の記載がない。 公園範囲の設定後、建物周りも含めて確保すると考えると40%を確保できる可能性がある。
歩行者等にとって快適で目立たない位置に設けられているか		
緑化・環境配慮・防災対策 ・緑化・環境に対して、特別な提案がなされているか。 ・防災対策に対して、特別な提案がなされているか。	○ ○ △	地域防災対策が必要 記載なし
防災・避難計画および法令等に抵触することが明らかな事項等 ・災害発生時等緊急時に対応した避難計画となっているか。 ・災害発生時の避難場所としての機能や動線等について配慮されているか。 ・その他あきらかに法令に抵触する事項があるか。	○ ○ ○	問題なし

技術調査の確認リスト【総括表】

項目	確認結果(○・△・×)	所見
1.「テーマ別の計画提案」に示した項目	確認の観点	
①臨場感あふれる観覧席に関する考え方	可動客席等に関すること	△ 無と思われる。内部の感じは良い。 可動席方式:無
②観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセス及び入退場動線処理に関する考え方	アクセス及び入退場動線に関すること	△ 駅に向かう歩行者交通対策を要調整
③ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方	音響環境に関すること ホスピタリティ機能等、事業計画に関すること	○ 室内音響に対する高い意識が伺える。また可動壁や二重の可動屋根により遮音にも対応。熱、音、通風と複数分野にまたがる環境シミュレーションもっており、技術力の高さが伺える。 △ 各種ホスピタリティ関連施設は十分に配置されている。ただし、企業用スペースは他と比較して少ない。モールタイプの商業機能等の配置提案であり、賑わいを創出するには不十分である。
④環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギーの多重化及び緑化等)	省エネルギー技術等に関すること	△ 環境配慮に対する提案が乏しい。
⑤構造計画、屋根の架構に関する考え方	構造計画に関すること 屋根の架構及び開閉機構に関すること	△ 現状のシングルレイヤーである単層トラスでは難しく、部材断面の増強、ダブルレイヤーにするなどの改善の必要がある。 ○ 正三角形の小屋根がガルウイング状に開く、正三角形パネルが6枚集まった正六角形が1ユニットを構成。可動方式の検討を要する。(ETFEは国内で認定が取れていない。) 可動屋根方式:小割ガルウイング方式 仕上材:ETFE 頂部は開放しない。
⑥事業費及び工期に関する考え方(事業費は、建物本体と外構部分を分けて提示すること。)	事業費(建物本体・外構部分)に関すること 施工性や工期に関すること	△ 主体構造の実現性にはコスト増加の懸念がある。 ○ 屋根材料の大臣認定取得に時間を要する可能性や、開閉機構とメンテナンス方法の整合性を検討する必要がある。48ヶ月工期と記載あるが全体的には実現可能と思われる。
2.「デザイン提案条件」に規定している事項等		
施設建築物の配置(配置及び高さ)	△	敷地建築敷地を超えて提案(都営住宅のデッキ下)
土地利用構成	△	都営住宅の地下を駐車場利用
施設構成	○	
スタジアムへのアクセス	△	駅に向かう歩行者交通対策を要調整
公園面積、公開空地の割合	△	範囲・面積の記載がない
緑化・環境配慮・防災対策	○	地域防災対策必要
防災・避難計画及び法令等に抵触することが明らかな事項等	○	

技術調査の確認項目【確認項目表(1):「テーマ別の計画提案」に示した①～⑥の項目のうち技術的確認が必要な事項】

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
①-1.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (可動客席等に関すること)	△	
1)可動席は物理的、機構的に実現可能と想定できるものか。		無いと思われる。
2)可動席の設定範囲はほぼ適切といえるものか(極端に偏る等していないかなど)		
3)可動席を利用していない時の雰囲気には支障はないか。		
4)トラック等床面の養生等無理な方法となっていないか。		
5)可動席の運営に過大な費用を要する内容となっていないか。		内部イメージは良い。
①-2.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (その他大掛かりな機構の提案)		
(例:ピッチの分割、移動など(札幌ドームの芝面))あれば部位を記す		
・①-1と同様のチェックを行う。		
②-1.観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセスに関する考え方	△	駅に向かう歩行者交通対策を要調整
1)駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。	×	・駅をつなぐ動線は現状のままであり、混雑緩和対策が必要。
2)車動線および駐車場配置の提案がなされているか。	○	
3)オリンピック等大規模なイベント時のアクセス等について特別な提案がなされているか。	△	記載なし
②-2.観客等の入退場動線処理に関する考え方	○	
1)スタジアムの外に人だまり空間が提案されているか。	○	

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
③-1.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(音響環境) 1) イベント利用時の音響環境(建築音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。 2) イベント利用時の音響環境(電機音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。 3) イベント利用時の遮音や振動について考慮されているか。 4) 屋根の開閉に対応した音響環境を考慮しているか。	○ ○ ○ ○ ○	室内音響に対する高い意識が伺える。また可動壁や二重の可動屋根により遮音にも対応。熱、音、通風と複数分野にまたがる環境シミュレーションも行っており、技術力の高さが伺える。 形状や容積に着目した専門的な記述あり。 建築音響との絡みでの利点に関する記述やスピーカシステムに関する具体的記載あり。
③-2.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(事業計画) 1) ホスピタリティ機能について効果的な提案がされているか。 2) 競技場施設のスポーツ以外の利活用について具体的なイメージや実施方法等の提案があるか。 3) 競技場周辺を含めた、イベント非開催時の商業・文化等の機能の提案、具体的な展開イメージについて記載があるか	△ ○ △ △	各種ホスピタリティ関連施設は十分に配置されている。ただし、企業用スペースは他と比較して少ない。 コンサートモード程度の説明であり、具体的記述に乏しい。 モールタイプの商業機能等の配置提案であり、賑わいを創出するには不十分である。
④.環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギー多重化及び緑化等) 1) 最先端の環境技術を備える提案や具体的な記述が実現性をもってなされているか。 2) エネルギーの多重化など非常時の設備的対応について提案されているか 3) ランニングコスト(LCC・LCO2含む)や維持管理方法等について配慮されているか 4) 大空間(観覧席やコンコース)の空調等の記載があるか。(実現性や効果は期待出来るか) 5) 有効な緑化計画がされているか。	△ ○ △ △ △ △ △	環境配慮に対する提案が乏しい。 太陽光発電、自然換気 記載なし 記載なし 記載なし 記載なし 記載なし

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
⑤-1.構造計画に関する考え方 1) 全体的に大空間を支えられる現実的な構造となっているか。 2) 開閉機構を支える屋根架構は、技術的に可能な提案となっているか。 3) 芝の管理の負担を軽減するために南側の日射を確保をした開閉機構を有する屋根架構となっているか。 4) 特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっていないか。	△ △ × △ 不明	1)を評価対象とし、2)3)4)は別分野での評価とし参考評価とした。 三角トラス要素が大きいことや、ライズが小さいため、改良の余地は残るが成立する可能性はある。屋根架構とそれを支える支持部の境界点で水平抵抗に対して配慮する必要がある。現状のシングルレイヤーである単層トラスでは難しく、部材断面の増強、ダブルレイヤーにするなどの改善の必要がある。 開閉機構には技術的困難が予想される。 南側日射を確保した開閉機構となっているが、開閉範囲が不明なため、日射面積の確認が必要である。 開閉屋根機構の詳細がないため判断できない。
⑤-2.屋根の架構及び開閉機構に関する考え方 1) 開閉式屋根の機構提案は、構造的、技術的に実現可能か。 2) 過大な建設費用を要することとなっていないか。 3) 特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっていないか。	○ ○ ○	正三角形形状のパネルが6つ集まった正六角形が1ユニットを構成。 要さない。可動方法が不明だがそれ程難しい構造ではない。 なっていない。可動方法が不明だがそれ程難しい構造ではない。 正三角形形状のパネルが6つ集まった正六角形が1ユニットを構成
⑥-1.事業費(建物本体/外構部分)に関する考え方 (事業費) 1) 工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動屋根) 2) 工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動席) 3) 工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(外装・地下の範囲) 4) 工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(環境配慮) 5) 全体的に想定価格に納まっていると言えそうか。	△ △ △ ○ ○ △	主体構造の実現性に課題がある。 開閉機構がユニット毎のため、メンテナンス費用が掛かる懸念があり、課題がある。 詳細不明
⑥-2.施工性や工期に関する考え方 (工期) 1) 工期を要する特殊な要素がないか。(地下・特殊構造など) 2) 現場に工事ヤードを広く必要とする工法となっていないか。(ヤードの確保は難しい) 3) 設定工期での実現や工事の影響を低減するために効果的な工法の提案はあるか。 4) 入手が困難な材料や機器等の使用はなされていないか。 5) 品質に支障をきたす要素がないか。	○ △ ○ △ △ △	屋根材料の大臣認定取得に時間を要する可能性や、開閉機構とメンテナンス方法の整合性を検討する必要がある。全体的には実現可能と思われる。 工事期間の提案はあるが、詳細工程の検討が必要である。 問題は見当たらない。 提案なし ①屋根材料(ETFT)の大臣認定取得が必要となる可能性が高い。 ②可動屋根の開閉機構とメンテナンス(通路)の考え方の整合を検討する必要がある。 可動屋根の開閉機構の検討が必要である。

技術調査の確認項目【確認項目表(2):「Ⅱ.デザイン提案条件」に規定している事項】

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
施設建築物の配置(配置及び高さ) ・スタジアムは施設建築範囲内に建築されているか。 ・各位置における最高高さの制限は満たしているか。 ・敷地境界線から8mの後退距離を確保しているか。	△ △ △ ○	施設建築敷地を超えて提案(都営住宅のデッキ下を利用) 東側・西側が高さ制限を超えている可能性
土地利用構成 ・規定の範囲内の土地利用がされているか。 ・関連敷地に新たに建築建築物(人工地盤等の工作物を除く)を建築していないか。	△ △ ○	都営住宅の地下を駐車場利用 各敷地では規定の範囲内の土地利用がなされている。ただし、関連敷地(都営住宅)の地下を駐車場(3層)として利用している。 なお、地形が理解できていない(全体をTP24と扱っている)。 建築物の提案はないが、都営住宅跡地の地下を駐車場として利用する提案となっている。
施設構成 ・観客席が8万席以上確保されているか。 ・規定の施設構成(導入機能と規模)が確保されているか。 ・ラグビー、サッカー、陸上競技等の関連規定を満たすフィールドが設けられているか。	○ ○ ○ ○	
スタジアムへのアクセス ・駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。 ・車両のメインアクセスは都道418号(外苑西通り)側に設置されているか。 ・サブトラック、投てき練習場からの移動を考慮した競技者動線が提案されているか。	△ × ○ ○	駅に向かう歩行者動線について混雑対策を要調整 地表アクセスで、デッキ接続なし。現在の道路空間利用のままであり、駅に向かう歩行者動線について混雑対策を要調整。 地下での歩行動線を設置
公園面積、公開空地の割合 ・既設公園と同規模以上の面積を各区の範囲内に確保しているか。 (渋谷区:約22,000㎡、新宿区:約12,000㎡) ・「公園の再配置が可能な範囲」内に公園が配置されているか。 ・敷地面積の40%以上の公開空地が確保されているか。 ・「公開空地の確保が可能な範囲」内に公開空地が配置されているか。	△ × △ × △	範囲・面積の記載がない 範囲・面積の記載がない。 渋谷区分は、屋根の形状、都道418号上空デッキがないことより、確保できない可能性がある。新宿区分は、関連敷地も含めれば確保できる可能性がある。 範囲・面積・空地率の記載がない。 公園範囲の設定後、建物周りも含めて確保すると考えると40%を確保できる可能性がある。
歩行者等にとって快適な空間が確保されているか。		
緑化・環境配慮・防災対策 ・緑化・環境に対して、特別な提案がなされているか。 ・防災対策に対して、特別な提案がなされているか。	○ ○ △	地域防災対策必要 記載なし
防災・避難計画および法令等に抵触することが明らかな事項等 ・災害発生時等緊急時に対応した避難計画となっているか。 ・災害発生時の避難場所としての機能や動線等について配慮されているか。 ・その他あきらかに法令に抵触する事項があるか。	○ ○ ○ ○	問題なし

技術調査の確認リスト【総括表】

項目		確認結果(○・△・×)	所見
1.「テーマ別の計画提案」に示した項目			
①臨場感あふれる観覧席に関する考え方	可動客席等に関すること	○	全体スライド方式。 可動席方式:全体スライド方式
②観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセス及び入退場動線処理に関する考え方	アクセス及び入退場動線に関すること	○	
③ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方	音響環境に関すること	△	近隣対策上側面の閉塞検討が必要。
	ホスピタリティ機能等、事業計画に関すること	△	ホスピタリティ関連スペースが不十分である。コンサート時の音響対応等の具体的な記述があり、評価される。南側に商業機能等が集中的に配置されており、一定程度の賑わい創出効果が期待される。
④環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギーの多重化及び緑化等)	省エネルギー技術等に関すること	○	環境技術に対して十分提案されている。 エネルギー多重化の提案がある。 芝生の育成について提案がある。 ＜芝生＞通風の確保、透過膜による採光の確保、 灌水システム、アンダーヒーティング
⑤構造計画、屋根の架構に関する考え方	構造計画に関すること	△	方持ち根元の架構部材の追加など十分な検討が必要である。
	屋根の架構及び開閉機構に関すること	○	長辺スライド方式。Φ140mの円形パネルが移動。空気膜のメンテ等、検討を要する。空気膜の屋根構造であるが、開放時の支持方法、風荷重に対する抵抗、移動機構に大がかりな改良が必要である。 可動屋根方式:長辺スライド方式 仕上材:膜
⑥事業費及び工期に関する考え方(事業費は、建物本体と外構部分を分けて提示すること。)	事業費(建物本体・外構部分)に関すること	○	
	施工性や工期に関すること	○	屋根材料の大臣認定取得に時間を要する可能性や、開閉機構を検討する必要がある。全体的には実現可能と思われる。
2.「デザイン提案条件」に規定している事項等			
施設建築物の配置(配置及び高さ)		△	屋根開放時に規定の高さを超えている
土地利用構成		○	
施設構成		△	面積不足の可能性あり。要調整。
スタジアムへのアクセス		○	
公園面積、公開空地の割合		○	
緑化・環境配慮・防災対策		○	
防災・避難計画及び法令等に抵触することが明らかな事項等		△	詳細な表記がなくゾーニングのみ、対応は可能

技術調査の確認項目【確認項目表(1):「テーマ別の計画提案」に示した①～⑥の項目のうち技術的確認が必要な事項】

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
①-1.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (可動客席等に関すること)	○	
1)可動席は物理的、構造的に実現可能と想定できるものか。	○	全体スライド式。具体的に例示。
2)可動席の設定範囲はほぼ適切といえるものか(極端に偏る等していないかなど)	○	
3)可動席を利用していない時の雰囲気には支障はないか。	○	
4)トラック等床面の養生等無理な方法となっていないか。		なっていない。
5)可動席の運営に過大な費用を要する内容となっていないか。		なっていない。
		オーソドックス。
①-2.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (その他大掛かりな機構の提案)		
(例:ピッチの分割、移動など(札幌ドームの芝面))あれば部位を記す		
・①-1と同様のチェックを行う。		
②-1.観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセスに関する考え方	○	
1)駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。	○	千駄ヶ谷駅信濃町駅からダイレクトアクセスする歩行者デッキ、青山側にも歩行者デッキが設けられている
2)車動線および駐車場配置の提案がなされているか。	○	
3)オリンピック等大規模なイベント時のアクセス等について特別な提案がなされているか。	△	記載なし
②-2.観客等の入退場動線処理に関する考え方		
1)スタジアムの外に人だまり空間が提案されているか。		

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
③-1.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(音響環境) XXXXXXXXXX	△	側面を閉塞すべき。
1) イベント利用時の音響環境(建築音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。	△	記載なし
2) イベント利用時の音響環境(電機音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。	△	記載なし
3) イベント利用時の遮音や振動について考慮されているか。	△	記載なし
4) 屋根の開閉に対応した音響環境を考慮しているか。	△	記載なし
③-2.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(事業計画) XXXXXXXXXX	△	
1) ホスピタリティ機能について効果的な提案がされているか。	△	ホスピタリティ関連スペースが不十分である。
2) 競技場施設のスポーツ以外の利活用について具体のイメージや実施方法等の提案があるか。	○	コンサート時の音響対応等の具体的な記述があり、評価される。
3) 競技場周辺を含めた、イベント非開催時の商業・文化等の機能の提案、具体の展開イメージについて記載があるか	△	南側に商業機能等が集中的に配置されており、一定程度の賑わい創出効果が期待される。
④.環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギー多重化及び緑化等) XXXXXXXXXX	○	環境技術に対して十分提案されている。エネルギー多重化の提案がある。芝生の育成について提案がある。
1) 最先端の環境技術を備える提案や具体の記述が実現性をもってなされているか。	○	OGS、地熱利用、地下水利用、雨水再利用、LED照明、排水再利用、太陽光発電、クールチューブ、風力発電、解体した廃材利用、再生可能な建材の利用
2) エネルギーの多重化など非常時の設備的対応について提案されているか	○	自家発電システム、太陽光発電、風力発電による災害時の電源確保 OGSによる地域エネルギーの確保
3) ランニングコスト(LCC・LCCO2含む)や維持管理方法等について配慮されているか	△	記載なし
4) 大空間(観覧席やコンコース)の空調等の記載があるか。(実現性や効果は期待出来るか)	△	記載なし
5) 有効な緑化計画がされているか。	○	緑の人工地盤(ヒートアイランド緩和)
	○	通風の確保、透過膜による採光の確保、灌水システム、アンダーヒーティング

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
⑤-1.構造計画に関する考え方	△	1)を評価対象とし、2)3)4)は別分野での評価とし参考評価とした。
1)全体的に大空間を支えられる現実的な構造となっているか。	△	脚部などの支持部は改良の余地があり、方持ち根元の架構部材の追加など十分な検討が必要である。
2)開閉機構を支える屋根架構は、技術的に可能な提案となっているか。	△	空気膜の屋根構造であるが、開放時の支持方法、風荷重に対する抵抗、移動機構に大がかりな改良が必要である。
3)芝の管理の負担を軽減するために南側の日射を確保をした開閉機構を有する屋根架構となっているか。	△	南側日射を確保した開閉機構となっていない。ただ、固定屋根部に90%透過する膜を使用する配慮があるが、実存する材料で有効であるか、確認する必要がある。
4)特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっていないか。	不明	開閉屋根機構の詳細がないため判断できない。
⑤-2.屋根の架構及び開閉機構に関する考え方	○	
1)開閉式屋根の機構提案は、構造的、技術的に実現可能か。	○	長辺スライド方式。Φ140mの円形パネルが可動。空気膜。
2)過大な建設費用を要することとなっていないか。		要さない。
3)特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっていないか。		なっていない。空気膜等のメンテ、性能維持の検討を要する。 閉時にも周囲に太陽光透過部有。
⑥-1.事業費(建物本体／外構部分)に関する考え方 (事業費)	○	
1)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動屋根)	○	
2)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動席)	○	可動方法の詳細について検討の余地あり
3)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(外装・地下の範囲)	○	
4)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(環境配慮)	○	
5)全体的に想定価格に納まっていると言えるか。	○	
⑥-2.施工性や工期に関する考え方 (工期)	○	屋根材料の大臣認定取得に時間を要する可能性や、開閉機構を検討する必要がある。全体的には実現可能と思われる。
1)工期を要する特殊な要素がないか。(地下・特殊構造など)	○	実現性はある。
2)現場に工事ヤードを広く必要とする工法となっていないか。(ヤードの確保は難しい)	○	問題は見当たらない。
3)設定工期での実現や工事の影響を低減するために効果的な工法の提案はあるか。	○	地下工事の縮減、プレキャスト化、解体工事との並行工事、など。
4)入手が困難な材料や機器等の使用はなされていないか。	△	屋根材料(高強度軽量空気膜)の大臣認定取得が必要となる可能性が高い。
5)品質に支障をきたす要素がないか。	△	可動屋根の開閉機構の検討が必要である。

技術調査の確認項目【確認項目表(2):「Ⅱ.デザイン提案条件」に規定している事項】

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
施設建築物の配置(配置及び高さ) ・スタジアムは施設建築範囲内に建築されているか。 ・各位置における最高高さの制限は満たしているか。 ・敷地境界線から8mの後退距離を確保しているか。	△ ○ × ○	屋根開放時に高さ制限を超えている(約80m程度)
土地利用構成 ・規定の範囲内の土地利用がされているか。 ・関連敷地に新たに建築建築物(人工地盤等の工作物を除く)を建築していないか。	○ ○ ○	要項の規定に適合している。都道418号上空のデッキは2層構造である。関連敷地(都営住宅)～区道上空に昇降設備が設置されている。JRの2駅に直結するデッキの提案がある。 建築物の提案はない。都営住宅跡地に昇降設備(階段・エスカレーター等)を設置する提案となっている。
施設構成 ・観客席が8万席以上確保されているか。 ・規定の施設構成(導入機能と規模)が確保されているか。 ・ラグビー、サッカー、陸上競技等の関連規定を満たすフィールドが設けられているか。	△ △ △ ○	面積不足の可能性あり。要調整。 面積不足の可能性あり。要調整。 ゾーニングが不明瞭。
スタジアムへのアクセス ・駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。 ・車両のメインアクセスは都道418号(外苑西通り)側に設置されているか。 ・サブトラック、投てき練習場からの移動を考慮した競技者動線が提案されているか。	○ ○ ○ ○	千駄ヶ谷駅信濃町駅からダイレクトアクセスする歩行者デッキ、青山側にも歩行者デッキが設けられている 駐車場は418号及び北側414からインし、43-670側でアウト。 練習場への地下通路を表示
公園面積、公開空地の割合 ・既設公園と同規模以上の面積を各区の範囲内に確保しているか。 (渋谷区:約22,000㎡、新宿区:約12,000㎡) ・「公園の再配置が可能な範囲」内に公園が配置されているか。 ・敷地面積の40%以上の公開空地が確保されているか。 ・「公開空地の確保が可能な範囲」内に公開空地が配置されているか。	○ ○ ○ ○ ○	範囲・面積が明示されており、両区とも確保可能範囲に確保されている。 渋谷区分は、都道418号上空デッキと敷地内での確保である。新宿区分は、関連敷地を中心とした確保である。 範囲・面積・空地率の記載がある。 人工地盤下、地盤面、建物上部の3層で確保する計画であり、確保可能範囲内に確保されている。
歩行者等にとって快適で良好な位置に設けられているか。		
緑化・環境配慮・防災対策 ・緑化・環境に対して、特別な提案がなされているか。 ・防災対策に対して、特別な提案がなされているか。	○ ○ ○	
防災・避難計画および法令等に抵触することが明らかな事項等 ・災害発生時等緊急時に対応した避難計画となっているか。 ・災害発生時の避難場所としての機能や動線等について配慮されているか。 ・その他あきらかに法令に抵触する事項があるか。	△ △ ○ ○	詳細な表記がなくゾーニングのみ、対応は可能 詳細な表記がなくゾーニングのみ、対応は可能

技術調査の確認リスト【総括表】

項目	確認結果(○・△・×)	所見
1.「テーマ別の計画提案」に示した項目	確認の観点	
①臨場感あふれる観覧席に関する考え方	可動客席等に関すること	○ 全体スライド方式。 可動席方式:全体スライド方式
②観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセス及び入退場動線処理に関する考え方	アクセス及び入退場動線に関すること	△ 駅に向かう歩行者動線について混雑対策を要調整
③ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方	音響環境に関すること ホスピタリティ機能等、事業計画に関すること	△ 記載なし △ 90～100室程度のVIP関連諸質が完備されており、ホスピタリティ機能は十分である。カンファレンスセンターとしての提案も有る。モールタイプの商業・レジャーゾーンがあるが、4つのパートに分かれており回遊性に乏しい
④環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギーの多重化及び緑化等)	省エネルギー技術等に関すること	△ 環境配慮に対する提案が乏しい。
⑤構造計画、屋根の架構に関する考え方	構造計画に関すること 屋根の架構及び開閉機構に関すること	○ 部材断面を増強する必要がある。 △ カメラシャッタースライド方式。詳細説明がない。開閉屋根の面外剛性に問題があり十分な検討が必要である。 可動屋根方式:スライド方式(カメラシャッター方式)
⑥事業費及び工期に関する考え方(事業費は、建物本体と外構部分を分けて提示すること。)	事業費(建物本体・外構部分)に関すること 施工性や工期に関すること	△ 主体構造の実現性に課題がある。 ○ 外装材料の検討や、屋根開閉機構を検討する必要がある。全体的には実現可能と思われる。
2.「デザイン提案条件」に規定している事項等		
施設建築物の配置(配置及び高さ)	○	
土地利用構成	△	都営住宅敷地をアクセス・オープンスペースとして活用することの検討が必要
施設構成	○	
スタジアムへのアクセス	△	駅に向かう歩行者動線について混雑対策を要調整
公園面積、公開空地の割合	△	公園・公開空地の確保について検討・調整が必要
緑化・環境配慮・防災対策	○	地域防災対策が必要
防災・避難計画及び法令等に抵触することが明らかな事項等	○	

技術調査の確認項目【確認項目表(1):「テーマ別の計画提案」に示した①～⑥の項目のうち技術的確認が必要な事項】

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
①-1.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (可動客席等に関すること)	○	
1)可動席は物理的、機構的に実現可能と想定できるものか。	○	全体スライド方式
2)可動席の設定範囲はほぼ適切といえるものか(極端に偏る等していないかなど)	○	
3)可動席を利用していない時の雰囲気には支障はないか。	○	
4)トラック等床面の養生等無理な方法となっていないか。		なっていない。
5)可動席の運営に過大な費用を要する内容となっていないか。		なっていない。
		内部はオーソドックスな構造で問題ないと思う。
①-2.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (その他大掛かりな機構の提案)		
(例:ピッチの分割、移動など(札幌ドームの芝面))あれば部位を記す		
・①-1と同様のチェックを行う。		
②-1.観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセスに関する考え方	△	駅に向かう歩行者動線について混雑対策を要調整
1)駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。	×	地表アクセスで、デッキ接続なし。現在の道路空間利用のままであり、駅に向かう歩行者動線について混雑対策を要調整。
2)車動線および駐車場配置の提案がなされているか。	△	具体的な位置が不明瞭
3)オリンピック等大規模なイベント時のアクセス等について特別な提案がなされているか。	△	記載なし
②-2.観客等の入退場動線処理に関する考え方	○	
1)スタジアムの外に人だまり空間が提案されているか。	○	

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
③-1.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(音響環境)	△	記載なし
1) イベント利用時の音響環境(建築音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。	△	記載なし
2) イベント利用時の音響環境(電機音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。	△	記載なし
3) イベント利用時の遮音や振動について考慮されているか。	△	記載なし
4) 屋根の開閉に対応した音響環境を考慮しているか。	△	記載なし
③-2.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(事業計画)	△	
1) ホスピタリティ機能について効果的な提案がされているか。	○	90～100室程度のVIP関連諸質が完備されており、ホスピタリティ機能は十分である。カンファレンスセンターとしての提案も有る。
2) 競技場施設のスポーツ以外の利活用について具体的なイメージや実施方法等の提案があるか。	△	コンサート程度の記載であり、とぼしい。
3) 競技場周辺を含めた、イベント非開催時の商業・文化等の機能の提案、具体的な展開イメージについて記載があるか	△	モールタイプの商業・レジャーゾーンがあるが、4つのパートに分かれており回遊性に乏しい
④.環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギー多重化及び緑化等)	△	環境配慮に対する提案が乏しい。
1) 最先端の環境技術を備える提案や具体的な記述が実現性をもってなされているか。	○	節水型器具、無水小便器、雨水再利用、排水再利用、太陽光発電
2) エネルギーの多重化など非常時の設備的対応について提案されているか	△	記載なし
3) ランニングコスト(LCC・LCO2含む)や維持管理方法等について配慮されているか	△	記載なし
4) 大空間(観覧席やコンコース)の空調等の記載があるか。(実現性や効果は期待出来るか)	△	記載なし
5) 有効な緑化計画がされているか。	△	記載なし
	△	記載なし

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
⑤-1.構造計画に関する考え方	×	1)を評価対象とし、2)3)4)は別分野での評価とし参考評価とした。
1) 全体的に大空間を支えられる現実的な構造となっているか。	△	架構システムは成立する。詳細な構造は再考の必要あり。部材断面を増強する必要がある。
2) 開閉機構を支える屋根架構は、技術的に可能な提案となっているか。	×	開閉屋根の面外剛性に問題があり実現性が極めて低い。
3) 芝の管理の負担を軽減するために南側の日射を確保をした開閉機構を有する屋根架構となっているか。	×	日射面積は狭い。
4) 特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっているか。	不明	開閉屋根機構の詳細がないため判断できない。
⑤-2.屋根の架構及び開閉機構に関する考え方	△	
1) 開閉式屋根の機構提案は、構造的、技術的に実現可能か。		カメラシャッター方式(スライド)光透過。カーボンファイバー2重膜。詳細構造要。
2) 過大な建設費用を要することとなっていないか。		要さない。詳細構造要。実施例？
3) 特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっているか。		なっていない。
		先の例になったか。面外剛性確保。
⑥-1.事業費(建物本体/外構部分)に関する考え方 (事業費)	△	主体構造の実現性に課題がある。
1) 工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動屋根)	△	システムの実現性に検討の余地がある
2) 工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動席)	○	
3) 工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(外装・地下の範囲)	○	
4) 工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(環境配慮)	○	
5) 全体的に想定価格に納まっていると言えるか。	△	
⑥-2.施工性や工期に関する考え方 (工期)	○	外装材料の検討や、屋根開閉機構を検討する必要がある。全体的には実現可能と思われる。
1) 工期を要する特殊な要素がないか。(地下・特殊構造など)	△	工事期間の提案がなく、詳細工程の検討が必要である。
2) 現場に工事ヤードを広く必要とする工法となっていないか。(ヤードの確保は難しい)	○	問題は見当たらない。
3) 設定工期での実現や工事の影響を低減するために効果的な工法の提案はあるか。	△	提案なし
4) 入手が困難な材料や機器等の使用はなされていないか。	△	外装の素材のカーボンファイバー膜の検討が必要である。
5) 品質に支障をきたす要素がないか。	△	可動屋根の開閉機構の検討が必要である。

技術調査の確認項目【確認項目表(2):「Ⅱ.デザイン提案条件」に規定している事項】

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
施設建築物の配置(配置及び高さ) ・スタジアムは施設建築範囲内に建築されているか。 ・各位置における最高高さの制限は満たしているか。 ・敷地境界線から8mの後退距離を確保しているか。	○ ○ ○ ○	
土地利用構成 ・規定の範囲内の土地利用がされているか。 ・関連敷地に新たに建築建築物(人工地盤等の工作物を除く)を建築していないか。	△ × ○	都営住宅敷地をアクセス・オープンスペースとして活用することを検討する。 都営住宅が存置されており、都営住宅敷地をアクセス・オープンスペースとして活用することを検討する。 要項に抵触するような提案はない。
施設構成 ・観客席が8万席以上確保されているか。 ・規定の施設構成(導入機能と規模)が確保されているか。 ・ラグビー、サッカー、陸上競技等の関連規定を満たすフィールドが設けられているか。	○ ○ ○ ○	
スタジアムへのアクセス ・駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。 ・車両のメインアクセスは都道418号(外苑西通り)側に設置されているか。 ・サブトラック、投てき練習場からの移動を考慮した競技者動線が提案されているか。	△ × ○ △	駅に向かう歩行者動線について混雑対策を要調整 地表アクセスで、デッキ接続なし。現在の道路空間利用のままであり、駅に向かう歩行者動線について混雑対策を要調整。 記載なし
公園面積、公開空地の割合 ・既設公園と同規模以上の面積を各区の範囲内に確保しているか。 (渋谷区:約22,000㎡、新宿区:約12,000㎡) ・「公園の再配置が可能な範囲」内に公園が配置されているか。 ・敷地面積の40%以上の公開空地が確保されているか。 ・「公開空地の確保が可能な範囲」内に公開空地が配置されているか。	△ × △ × △	公園・公開空地の確保について検討・調整が必要。 範囲・面積の記載がない。 渋谷区分は、スタジアムの配置、都道418号上空デッキがないことより、確保は難しい。新宿区分の確保のため、関連敷地を公園とすることを検討する必要がある。 範囲・面積・空地率の記載がない。 公園範囲の設定後、建物周りも含めて確保すると考えても40%を確保できない可能性がある。
歩行者等とのかかわり(見守り等)が図られているか。		
緑化・環境配慮・防災対策 ・緑化・環境に対して、特別な提案がなされているか。 ・防災対策に対して、特別な提案がなされているか。	○ ○ △	地域防災対策が必要 記載なし
防災・避難計画および法令等に抵触することが明らかな事項等 ・災害発生時等緊急時に対応した避難計画となっているか。 ・災害発生時の避難場所としての機能や動線等について配慮されているか。 ・その他あきらかに法令に抵触する事項があるか。	○ ○ ○ ○	問題なし